

## 調査の結果



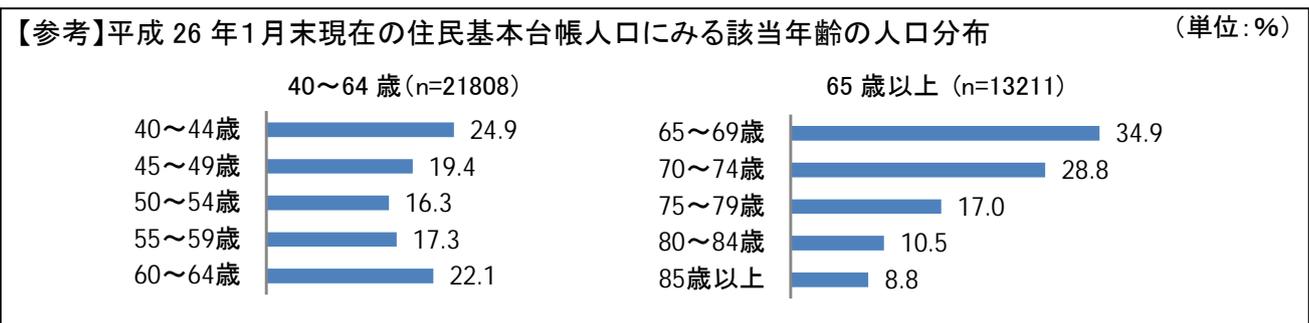
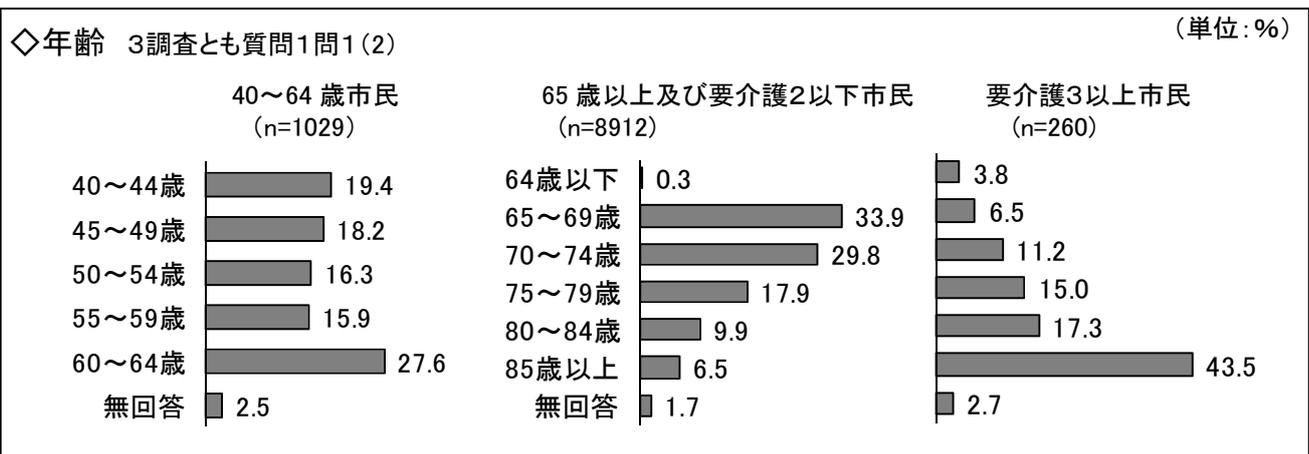
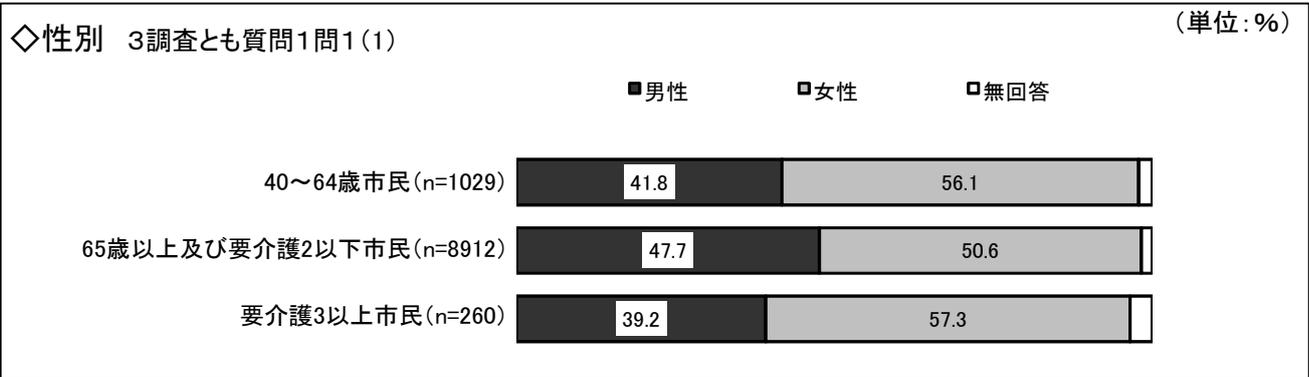
# 1 アンケート回答者の属性と暮らし方について

## (1) 性別・年齢

回答者の分布を性別にみると、各調査ともに女性の比率が男性を上回っています。年齢別にみると『40～64歳市民』では「60～64歳」の回答者比率の高さが目立ちます。実際の人口分布と比較してもこの層の回答者比率は高く、高齢化に対する関心の高さがうかがえます。

『65歳以上及び要介護2以下市民』では65歳から74歳の前期高齢者が6割強を占めています。『要介護3以上市民』では75歳以上の後期高齢者が7割台半ばに上り、特に85歳以上の比率が高くなっています（85歳以上では7割以上が女性）。

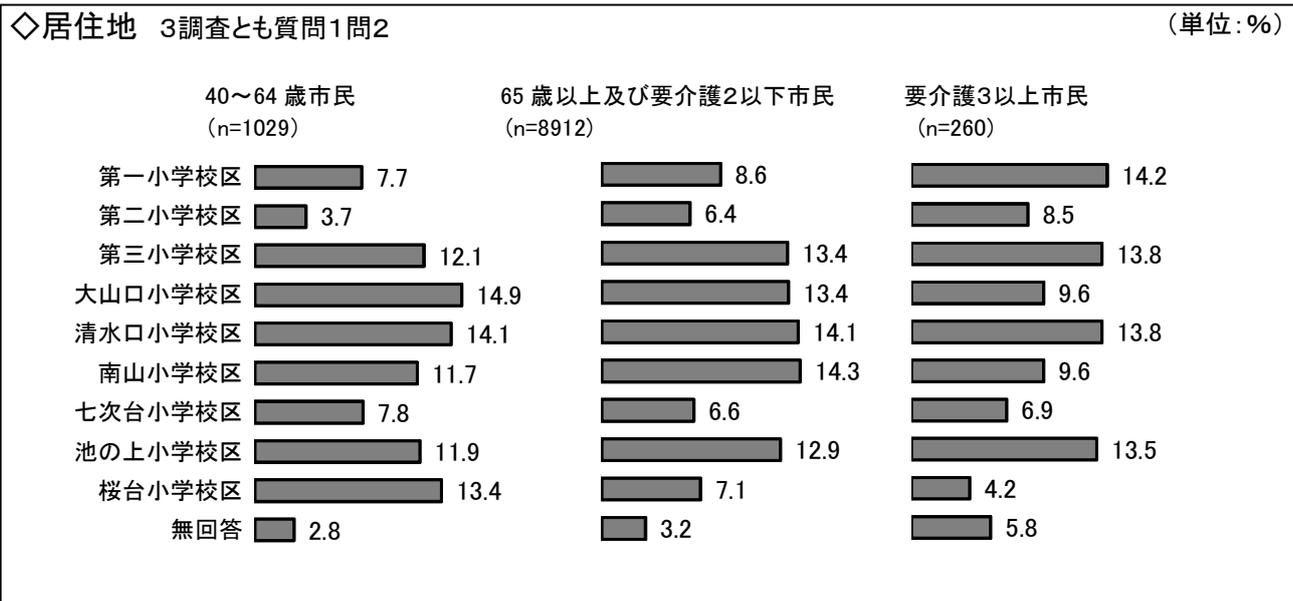
なお、要支援・要介護認定者のうち64歳以下の第2号被保険者は約4%（要介護2以下26人、要介護3以上10人）となっています。



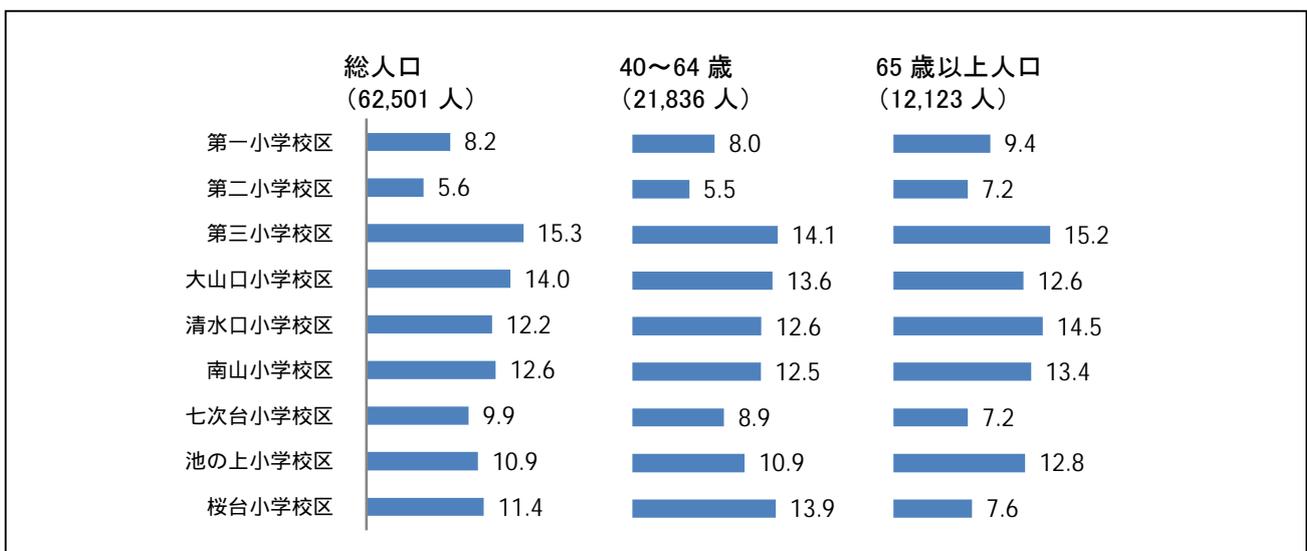
## (2) 居住地

回答者の分布を居住地(小学校区)別にみると『40～64歳市民』は大山口小学校区、清水口小学校区、桜台小学校区の順、『65歳以上及び要介護2以下市民』は南山小学校区、清水口小学校区、第三小学校区及び大山口小学校区の順、『要介護3以上市民』は第一小学校区、第三小学校区及び清水口小学校区、池の上小学校区の順で多くなっています。

桜台小学校区は、64歳以下は高位で65歳以上は低位、反対に第一小学校区は、要介護3以上が最高位で64歳以下は低位となっているなど、地区ごとに高齢化の進行状況や要介護高齢者の分布に違いがある状況が示されています。



### 【参考】平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口にみる地区別人口分布



【内訳】回答者の年齢分布(性・居住地区別)

<40～64歳市民>

		上段:件 下段:%	全体	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	無回答
合計			1029 100.0	200 19.4	187 18.2	168 16.3	164 15.9	284 27.6	26 2.5
性別	男性		430 100.0	83 19.3	79 18.4	64 14.9	63 14.7	135 31.4	6 1.4
	女性		577 100.0	116 20.1	105 18.2	104 18.0	101 17.5	144 25.0	7 1.2
居住地区	第一小学校区		79 100.0	15 19.0	15 19.0	10 12.7	16 20.3	21 26.6	2 2.5
	第二小学校区		38 100.0	7 18.4	6 15.8	7 18.4	7 18.4	11 28.9	0 0.0
	第三小学校区		125 100.0	31 24.8	21 16.8	22 17.6	11 8.8	38 30.4	2 1.6
	大山口小学校区		153 100.0	38 24.8	29 19.0	31 20.3	22 14.4	33 21.6	0 0.0
	清水口小学校区		145 100.0	30 20.7	30 20.7	23 15.9	15 10.3	45 31.0	2 1.4
	南山小学校区		120 100.0	26 21.7	21 17.5	11 9.2	17 14.2	43 35.8	2 1.7
	七次台小学校区		80 100.0	12 15.0	18 22.5	14 17.5	17 21.3	19 23.8	0 0.0
	池の上小学校区		122 100.0	11 9.0	22 18.0	17 13.9	24 19.7	45 36.9	3 2.5
	桜台小学校区		138 100.0	26 18.8	22 15.9	30 21.7	33 23.9	26 18.8	1 0.7

<65歳以上及び要介護2以下市民>

		上段:件 下段:%	全体	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
合計			8912 100.0	26 0.3	3017 33.9	2657 29.8	1596 17.9	886 9.9	580 6.5	150 1.7
性別	男性		4248 100.0	14 0.3	1433 33.7	1338 31.5	820 19.3	403 9.5	220 5.2	20 0.5
	女性		4512 100.0	12 0.3	1569 34.8	1312 29.1	757 16.8	476 10.5	346 7.7	40 0.9
居住地区	第一小学校区		763 100.0	2 0.3	241 31.6	228 29.9	124 16.3	97 12.7	60 7.9	11 1.4
	第二小学校区		568 100.0	2 0.4	161 28.3	151 26.6	109 19.2	67 11.8	67 11.8	11 1.9
	第三小学校区		1193 100.0	4 0.3	422 35.4	386 32.4	213 17.9	91 7.6	69 5.8	8 0.7
	大山口小学校区		1198 100.0	4 0.3	421 35.1	359 30.0	237 19.8	110 9.2	57 4.8	10 0.8
	清水口小学校区		1261 100.0	2 0.2	405 32.1	408 32.4	253 20.1	123 9.8	58 4.6	12 1.0
	南山小学校区		1273 100.0	3 0.2	457 35.9	400 31.4	226 17.8	114 9.0	64 5.0	9 0.7
	七次台小学校区		592 100.0	1 0.2	259 43.8	171 28.9	93 15.7	39 6.6	26 4.4	3 0.5
	池の上小学校区		1147 100.0	5 0.4	414 36.1	312 27.2	186 16.2	130 11.3	92 8.0	8 0.7
	桜台小学校区		635 100.0	3 0.5	192 30.2	186 29.3	117 18.4	75 11.8	59 9.3	3 0.5

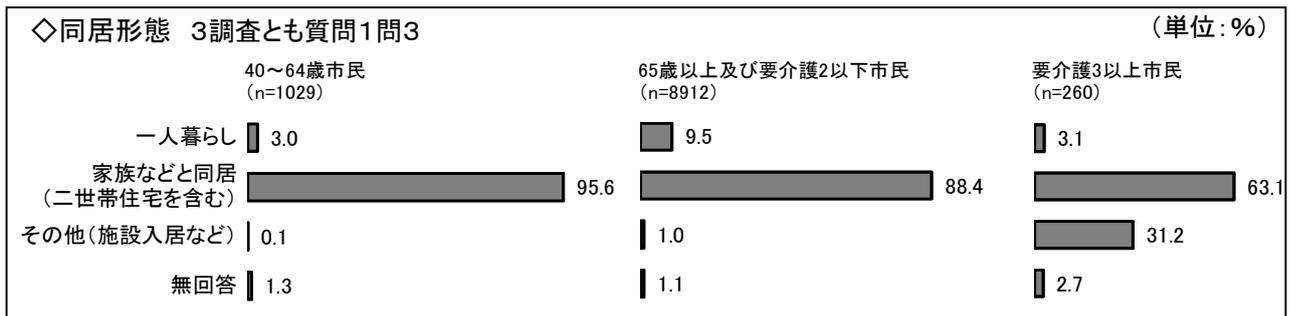
<要介護3以上市民>

		上段:件 下段:%	全体	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
合計			260 100.0	10 3.8	17 6.5	29 11.2	39 15.0	45 17.3	113 43.5	7 2.7
性別	男性		102 100.0	7 6.9	9 8.8	18 17.6	23 22.5	17 16.7	27 26.5	1 1.0
	女性		149 100.0	3 2.0	7 4.7	11 7.4	14 9.4	28 18.8	84 56.4	2 1.3
居住地区	第一小学校区		37 100.0	2 5.4	4 10.8	2 5.4	6 16.2	4 10.8	18 48.6	1 2.7
	第二小学校区		22 100.0	0 0.0	1 4.5	2 9.1	2 9.1	6 27.3	11 50.0	0 0.0
	第三小学校区		36 100.0	2 5.6	1 2.8	6 16.7	5 13.9	5 13.9	17 47.2	0 0.0
	大山口小学校区		25 100.0	1 4.0	2 8.0	5 20.0	5 20.0	4 16.0	8 32.0	0 0.0
	清水口小学校区		36 100.0	1 2.8	3 8.3	3 8.3	6 16.7	8 22.2	15 41.7	0 0.0
	南山小学校区		25 100.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	5 20.0	4 16.0	15 60.0	0 0.0
	七次台小学校区		18 100.0	0 0.0	2 11.1	1 5.6	4 22.2	3 16.7	7 38.9	1 5.6
	池の上小学校区		35 100.0	3 8.6	4 11.4	5 14.3	3 8.6	6 17.1	13 37.1	1 2.9
	桜台小学校区		11 100.0	0 0.0	0 0.0	3 27.3	1 9.1	1 9.1	6 54.5	0 0.0

### (3) 同居状況

回答者の同居形態をみると『40～64歳市民』は「家族など同居」(同居)が9割以上で、「一人暮らし」(単身)は3%と低率にとどまっています。『65歳以上及び要介護2以下市民』は、同居9割弱、単身1割弱の割合です。『要介護3以上市民』については、同居が6割強で、施設入所等(特別養護老人ホームを除く)が約3割、単身者も3%みられます。

単身者率の低い白井市にあって回答者の単身率は特に低くなっています。一人暮らしの場合、家族と同居している人や施設で暮らしている人に比べて、アンケートに対応するゆとりやきっかけが少ない状況にあることも考えられます。

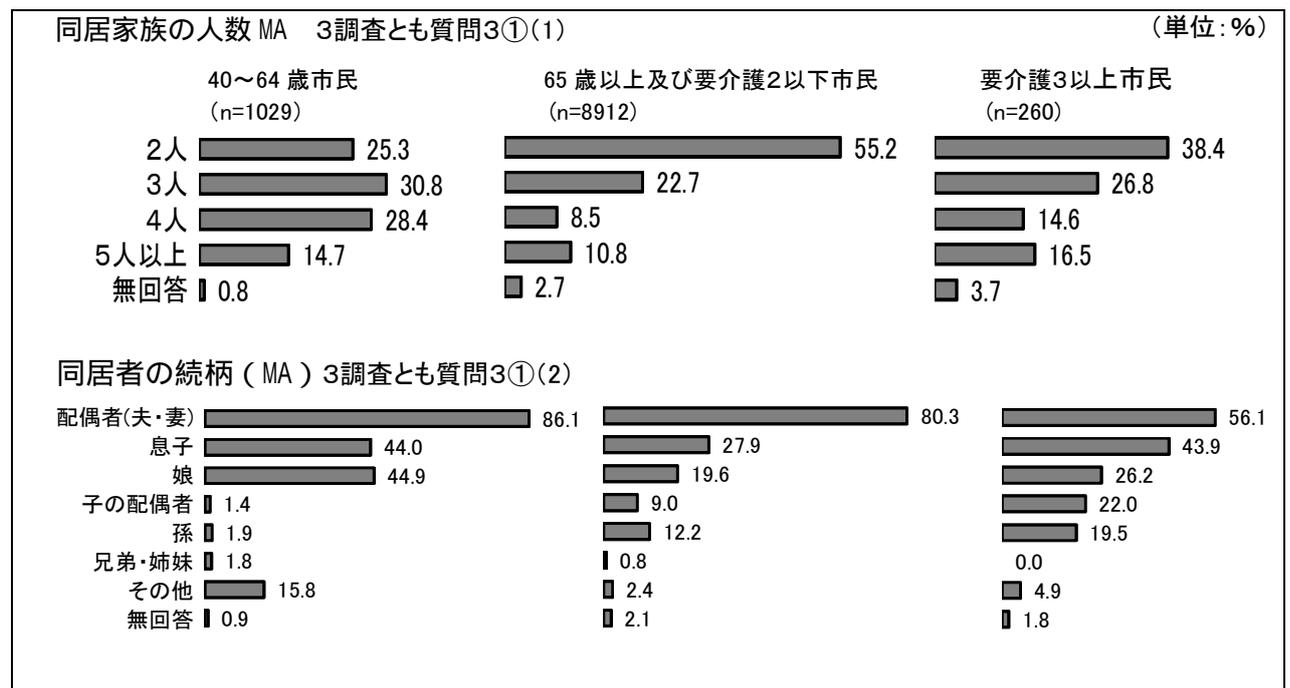


同居家族がいる場合、自らも含む家族の人数は『40～64歳市民』では3～4人、『65歳以上及び介護度2以下市民』では2人が多くなっています。

同居者の続柄としては『40～64歳市民』では9割近くが「配偶者」をあげ、「娘」「息子」もそれぞれ4割台で見られます。「その他」も2割近くみられますが、これには「親」が多く含まれると思われ(前回調査の結果から推測)。

『65歳以上及び要介護2以下市民』では「配偶者」が8割、「息子」約3割、「娘」約2割、「孫」と「子の配偶者」が約1割ずつみられます。

『要介護3以上市民』では「配偶者」は6割弱で、「息子」4割強、「娘」3割弱、「子の配偶者」と「孫」が約2割ずつとなっています。



同居形態と同居者の続柄を組み合わせる回答者の同居類型をみたところ『40～64歳市民』では子ども世代との2世代同居、『65歳以上及び要介護2以下市民』では夫婦2人暮らしが最も高率となっています。国勢調査の結果から国、県、市の家族類型をみても同様の傾向がみられ、白井市は特に2世代世帯、夫婦のみ世帯の比率が高いことがわかります。

【組換】回答者の同居類型（同居形態と同居者の続柄の組み合わせより）

	40～64歳市民		65歳以上及び要介護2以下市民		要介護3以上市民	
	人	%	人	%	人	%
全体	1029	100.0	8912	100.0	260	100.0
一人暮らし	31	3.0	849	9.5	8	3.1
夫婦二人暮らし	217	21.1	3921	44.0	42	16.2
2世代同居(子ども世代と同居)	574	55.8	2614	29.3	80	30.8
3世代同居(子ども世代と孫)	17	1.7	859	9.6	30	11.5
その他の同居(兄弟姉妹、その他の親族)	176	17.1	481	5.4	12	4.6
施設入居等	1	0.1	92	1.0	81	31.2
無回答	13	1.3	96	1.1	7	2.7

注) 2世代同居には自分と子ども(子どもの配偶者も) 夫婦と子ども(同)を含む。3世代同居はこれに孫を加える。

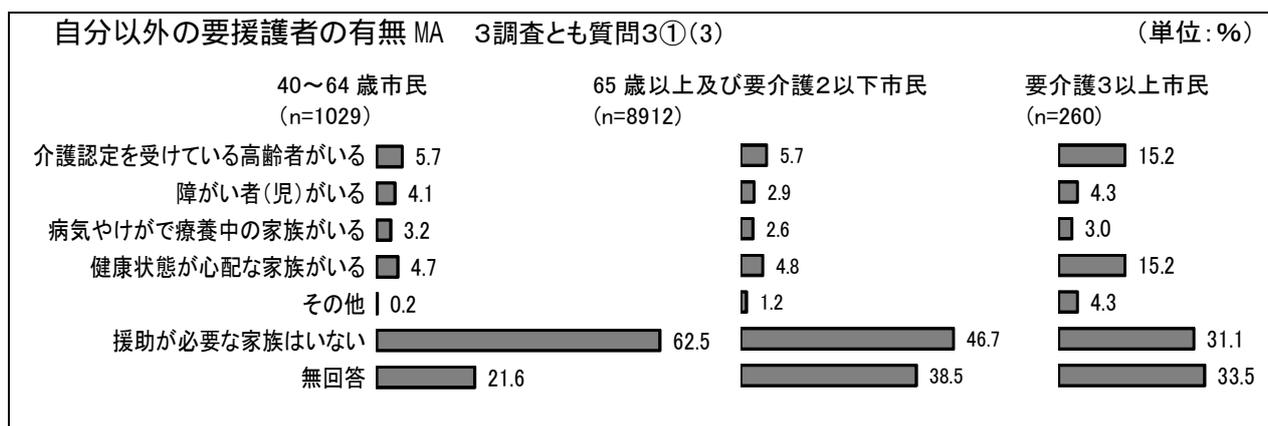
【参考】国勢調査(平成22年10月)にみる世帯の家族類型

単位:%	全国		千葉県		白井市	
	40～64歳	65歳以上	40～64歳	65歳以上	40～64歳	65歳以上
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
単独世帯	23.2	30.0	22.1	26.3	13.0	19.5
夫婦のみの世帯	15.5	33.7	15.9	36.2	16.5	41.3
2世代世帯(子ども世帯と)	47.5	23.3	50.3	26.7	59.6	29.4
3世代世帯	9.3	8.4	8.0	6.9	8.2	6.5
その他同居世帯	4.4	4.6	3.8	4.0	2.8	3.3

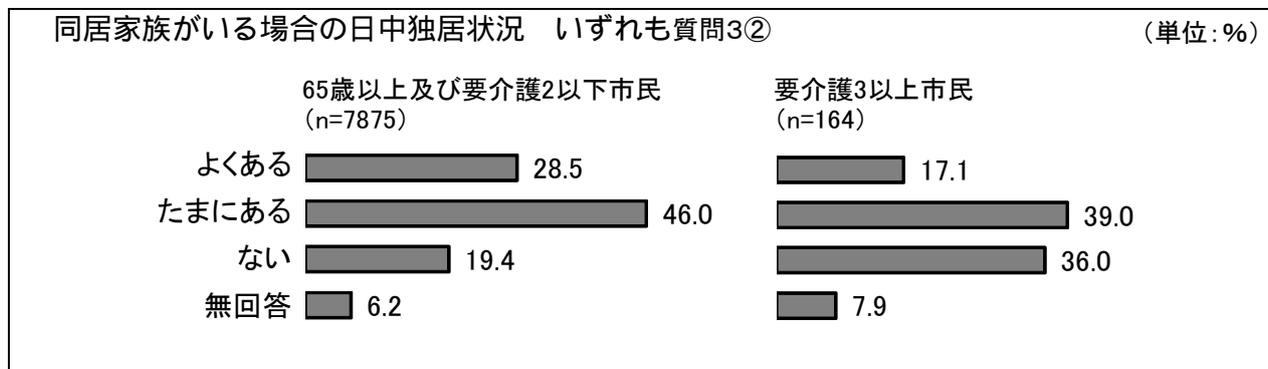
注) 単独世帯には寮入居者、間借りも含む。2世代世帯は夫婦と子ども、ひとり親と子どもからなる。

同居者がいる人に、自分以外の要支援者の有無を聞いたところ「援助が必要な家族はいない」は『40～64歳市民』では6割強、『65歳以上及び要介護2以下市民』では5割弱で、『要介護3以上市民』では3割強となっています。

いずれの調査でも「介護認定を受けている高齢者」や「障がい者(児)」のほか、「健康状態が心配な家族」や「病気やけがで療養中の家族」が一定の割合で見られます。特に『要介護3以上市民』では要介護高齢者や健康が心配される家族の割合が他に比べて高くなっており、援助を必要とする家族を複数抱えるケースも少なくない状況が示されています。



『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』の同居家族がいる人に「日中、一人になることがあるかどうか」（日中独居状況）を尋ねたところ、『65歳以上及び要介護2以下市民』の約3割、『要介護3以上市民』の2割弱が「よくある」と答えています。



【自由記述より】

一人暮らし。元気なうちはいいが、弱ってきたときどうしようかと考えている。  
 家族は皆高齢。このアンケートが3人分届いた。  
 子どもがいない夫婦は将来のことがとても不安。近所や市に参加できるサロンやイベントがあり、何かあったら連絡できる場所、毎日大丈夫か確認しあえる存在などを充実させてほしい。  
 高齢者と同居している世帯に補助金を出したらどうか。  
 子ども夫婦と同居しているが、共働きで休日以外は日中一人。万が一災害が起きた時が不安。

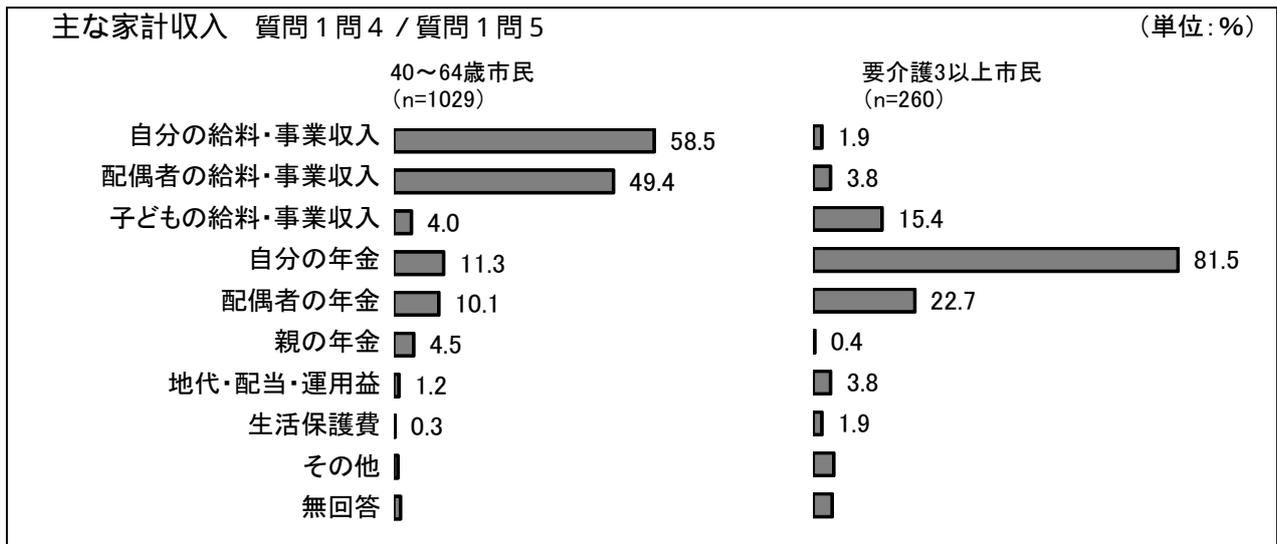
【事業者調査より】

今年に入り介護保険申請が増大し、独居・高齢世帯が関わる不安が表面化してきている団地地域がある。何年後どころか既に高齢化の嵐が始まっている。  
 高齢者夫婦または単独世帯の増加、認知症もあり支援方法に戸惑う状況が少なくない。別居家族との連携もうまくいかないこともあり、支援の方向が定まりにくいことがある。  
 障がいがあっても介護が必要な方でも、一人頑張っている方が多く見受けられる。また、家族と同居でも日中独居や地域との交流の少ない方、入浴や食事のままならない方も多く、本人・家族のため、それを支える場所の必要性を感じる。  
 独居高齢者が多く、老々介護を含め、ヘルパー訪問やデイサービス、ショートステイを利用して在宅生活を維持できているが、本人や介護者が弱ってきた時、介護保険サービスやその他の民間サービスを受けるにしても、やがて来る限界に不安を抱えていると思う。  
 介護者である家族が高齢または要介護状態となって介護者としての責任を果たせなくなっているケースがある。  
 子どもがいても海外在住、また、互いに疎遠というケースも少なくない。  
 家族がいても日中独居、歩行に問題があり買い物に行けない、認知症などで昼食の準備ができないなど多岐にわたる。  
 子どもがいない・折り合いが悪い、親族が遠方で日々の支援が期待できない等々の世帯で認知症や要介護になった場合に誰がどう生活を支えていくか。今後の急増も予想される。今は何とか市と事業者で支援できているが、支援体制の充実、暮らし方の再考をどうするか。  
 独居・日中独居の方や高齢者夫婦のみ世帯が多い。独居や高齢者世帯の方は元気なうちはいいが、病弱になると孤立化してしまう。家族や地域との関係が薄い方は孤独死などもあった。

#### (4) 家計・就業・暮らしのゆとり

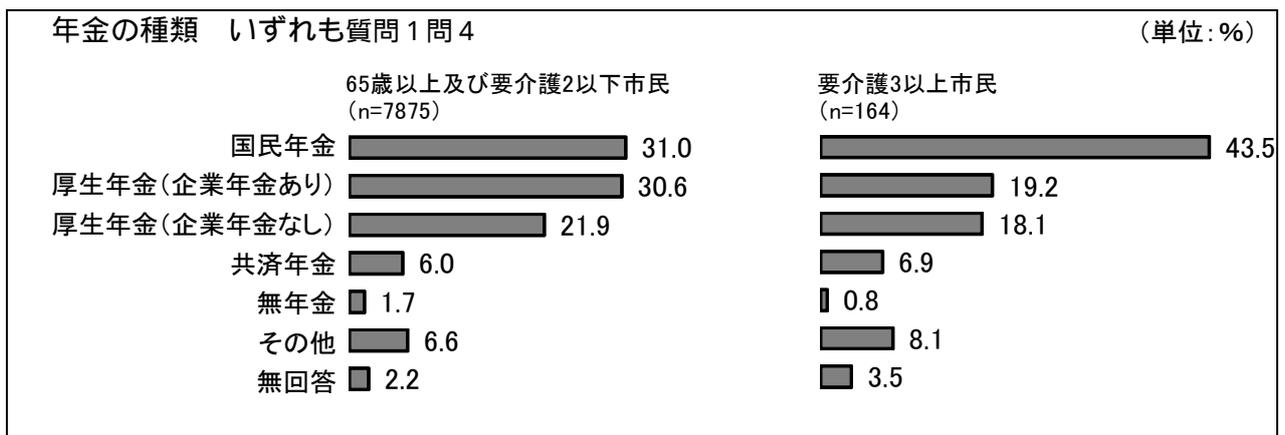
『40～64歳市民』と『要介護3以上市民』に主な家計収入を尋ねたところ、『40～64歳市民』は自分または配偶者の給料・収入、『要介護3以上市民』は自分または配偶者の年金が主軸となっています。『要介護3以上市民』では「子どもの収入」を挙げる人も1割台半ばみられます。

『65歳以上及び要介護2以上市民』についても年金の比率が高いことが推測されます。



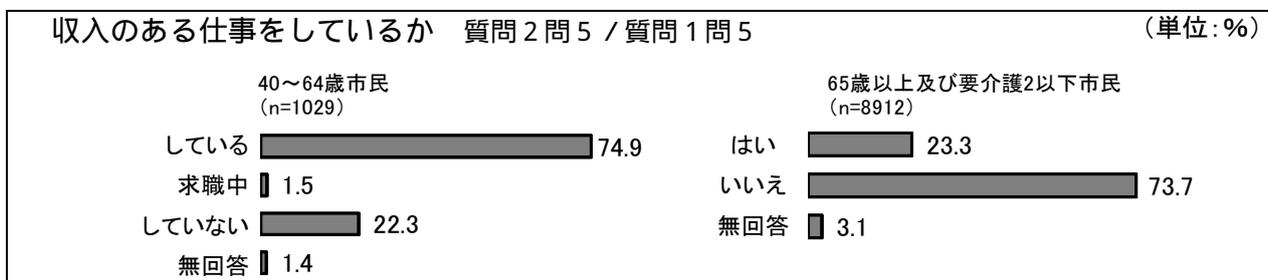
『65歳以上及び要介護2以上市民』と『要介護3以上市民』に年金の種類を尋ねたところ、『65歳以上及び要介護2以上市民』では厚生年金が5割、国民年金は3割、『要介護3以上市民』では国民年金4割強、厚生年金4割弱といった構成で、共済年金なども若干みられます。

僅かな比率ながら、「無年金」もみられます。



『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以上市民』に「収入のある仕事をしているかどうか」尋ねたところ、『40～64歳市民』では有業者が7割台半ば(男性の9割、女性の6割強)に上っています。60～64歳の6割が仕事をしています。

『65歳以上及び要介護2以上市民』では、仕事をしていない人が7割台前半で、有業者は2割台前半(男性3割強、女性1割台半ば)となっています。



【内訳】就業の有無(性・年齢・居住地区別)

<40～64歳市民>

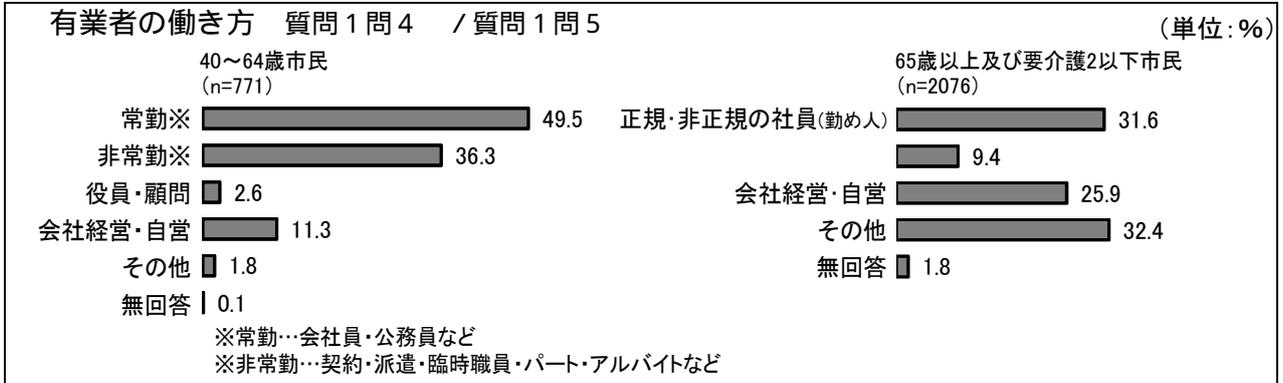
上段:件、下段:%		全体	している	求職中	していない	無回答
合計		1029 100.0	771 74.9	15 1.5	229 22.3	14 1.4
性別	男性	430 100.0	395 91.9	1 0.2	33 7.7	1 0.2
	女性	577 100.0	370 64.1	14 2.4	193 33.4	0 0.0
年齢	40～49歳	387 100.0	318 82.2	10 2.6	59 15.2	0 0.0
	50～59歳	332 100.0	271 81.6	2 0.6	59 17.8	0 0.0
	60～64歳	284 100.0	173 60.9	3 1.1	107 37.7	1 0.4
居住地区	第一小学校区	79 100.0	64 81.0	1 1.3	14 17.7	0 0.0
	第二小学校区	38 100.0	30 78.9	1 2.6	7 18.4	0 0.0
	第三小学校区	125 100.0	98 78.4	0 0.0	27 21.6	0 0.0
	大山口小学校区	153 100.0	114 74.5	5 3.3	34 22.2	0 0.0
	清水口小学校区	145 100.0	113 77.9	1 0.7	31 21.4	0 0.0
	南山小学校区	120 100.0	88 73.3	2 1.7	29 24.2	1 0.8
	七次台小学校区	80 100.0	62 77.5	1 1.3	17 21.3	0 0.0
	池の上小学校区	122 100.0	85 69.7	2 1.6	35 28.7	0 0.0
	桜台小学校区	138 100.0	104 75.4	1 0.7	33 23.9	0 0.0

<65歳以上及び要介護2以下市民>

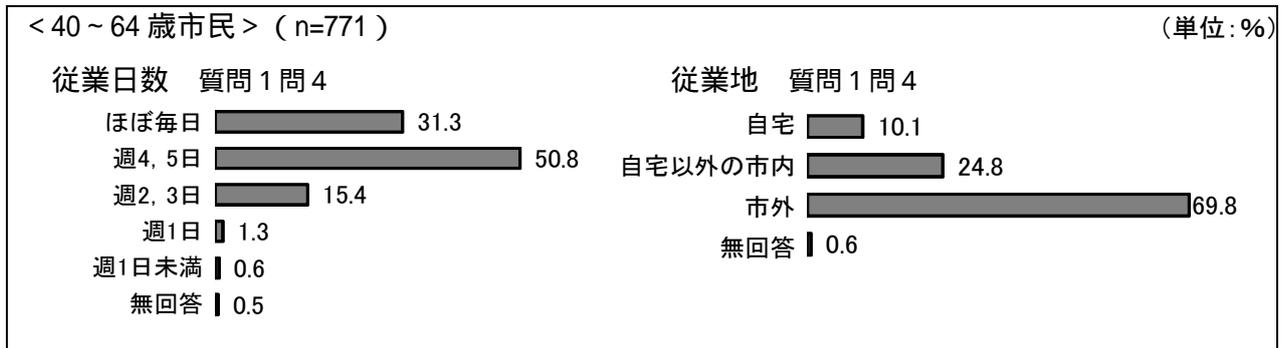
上段:件、下段:%		全体	はい	いいえ	無回答
合計		8912 100.0	2076 23.3	6564 73.7	272 3.1
性別	男性	4248 100.0	1380 32.5	2799 65.9	69 1.6
	女性	4512 100.0	680 15.1	3718 82.4	114 2.5
年齢	64歳以下	26 100.0	13 50.0	13 50.0	0 0.0
	65～74歳	5674 100.0	1767 31.1	3837 67.6	70 1.2
	75～84歳	2482 100.0	253 10.2	2141 86.3	88 3.5
	85歳以上	580 100.0	25 4.3	523 90.2	32 5.5
居住地区	第一小学校区	763 100.0	248 32.5	484 63.4	31 4.1
	第二小学校区	568 100.0	180 31.7	356 62.7	32 5.6
	第三小学校区	1193 100.0	258 21.6	909 76.2	26 2.2
	大山口小学校区	1198 100.0	250 20.9	928 77.5	20 1.7
	清水口小学校区	1261 100.0	288 22.8	950 75.3	23 1.8
	南山小学校区	1273 100.0	271 21.3	984 77.3	18 1.4
	七次台小学校区	592 100.0	147 24.8	437 73.8	8 1.4
	池の上小学校区	1147 100.0	248 21.6	887 77.3	12 1.0
	桜台小学校区	635 100.0	143 22.5	471 74.2	21 3.3

有業者に就業形態を尋ねたところ『40～64歳市民』では「常勤（会社員・公務員）」が約5割、「非常勤（契約・派遣・臨時社員）」が3割台半ばと、勤め人の割合が高くなっています。

『65歳以上及び要介護2以上市民』では「正規・非正規の社員（勤め人）」と答えた人は3割強で、「会社経営・自営」をはじめ、その他の働き方も多くなっています。



『40～64歳市民』の有業者に従業日数と従業地を尋ねたところ、従業日数は週4、5日以上の人が8割以上(週4、5日約5割、ほぼ毎日3割強)に上り、従業地は、「市外」が7割(男性の8割、女性の6割)となっています。この年代の市民にとって、白井市がベッドタウンとしての位置づけにある状況が示されています。



【自由記述より】

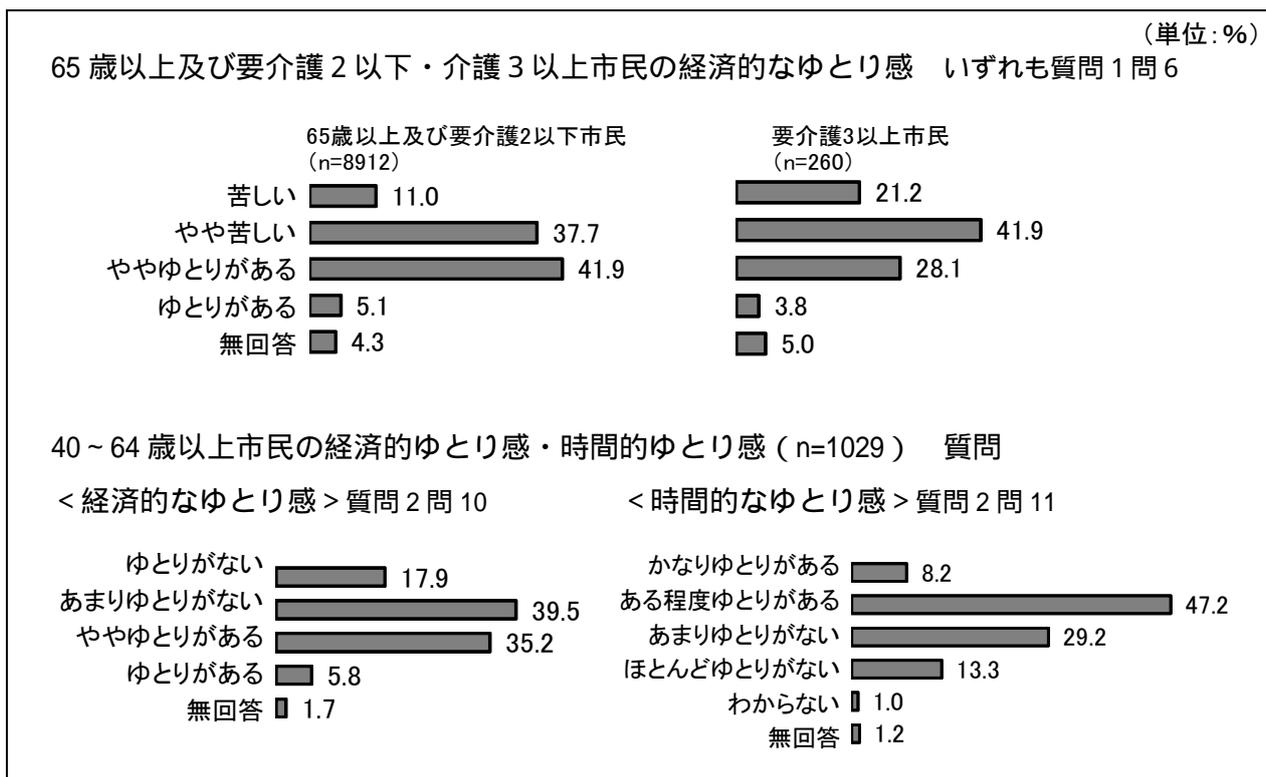
後期高齢者であるが雨天以外は畑仕事をしている。仕事を手伝ってくれる人がいるとよい。仕事を通し、地域に役立ち満足感を得る。精神的健康が保たれる社会づくりを。高齢者でも元気な人は働ける。ボランティアではなく仕事をすることで生きがいを強く感じる。シルバー人材センター以外にも働く場所をつくれないうか。

【事業者調査より】

運動・栄養・閉じこもりなどに気をつけてと注意喚起だけして実践してもらうのは難しい。外に出て働いたり人のためになったりすることが高齢者を元気にするのではないかと。介護保険制度を活用して元気高齢者の仕事おこしができないか。シルバー人材センターの活性化も一つ。マーケティングをはじめ、様々なキャリアのリタイアメントがいるはず。リタイアメントがチームとなり、コミュニティビジネスなどを起こせるとよい。課題と事業をつなぐためにもコーディネーターが必要。

経済的なゆとり感について『65歳以上及び要介護2以上市民』と『要介護3以上市民』を比べると、前者は、ゆとりが「ある」と「ない(苦しい)」がほぼ半々という回答状況にあるものの、後者は、ゆとりが「ない」が6割強に上り、「苦しい」との実感が高くなっています。

『40～64歳市民』に、経済的なゆとりと時間的なゆとりを尋ねたところ、いずれも「ない」が「ある」を上回っており、年齢が低いほど経済的にも時間的にもゆとりのない実感が強くなっています。その中で60～64歳市民については、経済的なゆとりは6割弱が「ない」と答えていますが、時間的なゆとりは約7割が「ある」と答えており、高齢準備期から高齢期にかけての生活の変化が注目されます。



【自由記述より】

国民年金で持ち家の場合、固定資産税、保険料などの支払いが厳しい。  
 医療費がかかり、経済的不安が増している。今後老々介護になった時が不安。  
 年金が減り、税金や保険料等が負担。マンション管理費も高く、エレベーター付きマンションは固定資産税が高い。これから医療費も増えることが心配。  
 貯えのない高齢者には将来の医療や介護のための費用が心配。相談窓口がほしい。  
 病気等のとき、不動産を担保とする生活資金貸付があると助かる。  
 現役世代。仕事で忙しく、(先のことを)考えるゆとりがない。  
 夫が介護施設に入居中。オムツ代や病院に通うタクシー代などの負担も大きい。本人の年収が200万以上の場合白井市は補助が出ないとのこと。年金をもらっている以上200万円は超えてしまうが、年金はほとんどその費用に消費されてしまう。

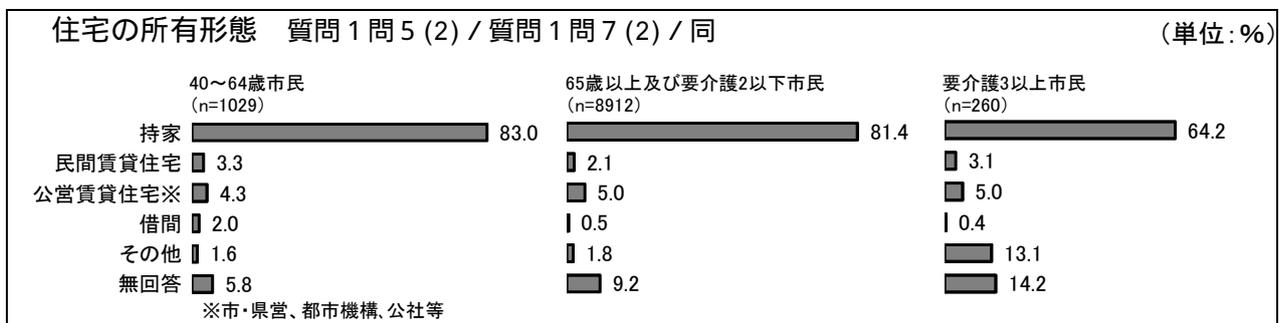
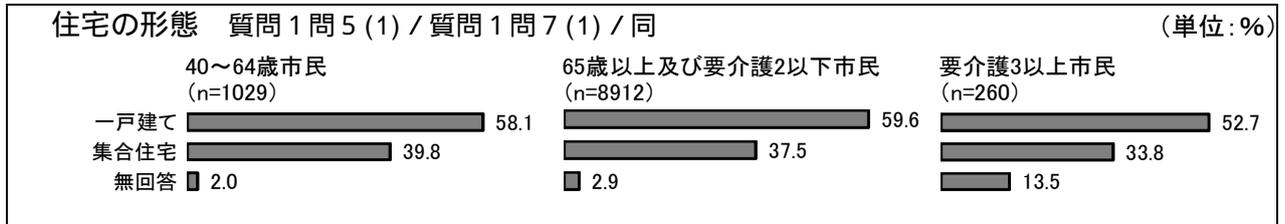
【事業者調査より】

高齢化の進む地域では、住民の意識も高くなり、介護保険制度への理解も深まってきている。今後の解決への大きな課題として経済的困窮の問題。経済的困窮者の増加が危惧される。

## (5) 住まい

住宅の形態については、「一戸建て」と「集合住宅」がおおむね6：4の割合で見られます。地区によって、一戸建てが多い。

所有形態については、「持ち家」が8割を超えています。『要介護3以上市民』は「施設入居」が多いことから、「持ち家」は6割台となっています。

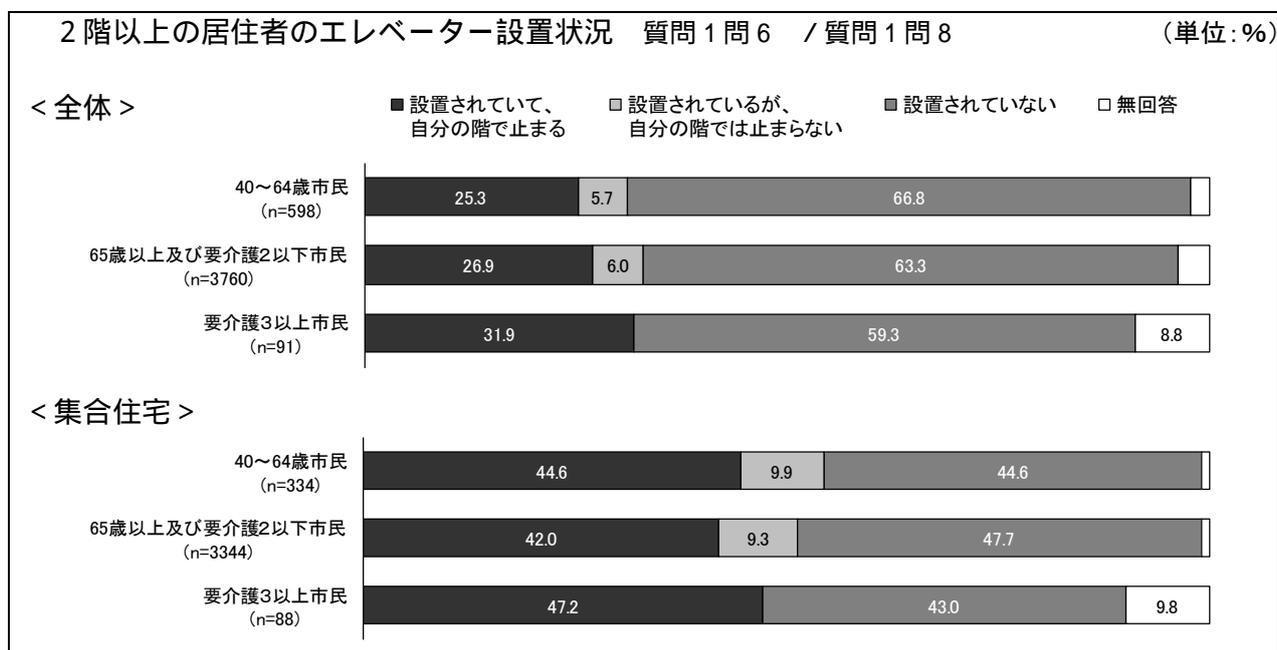
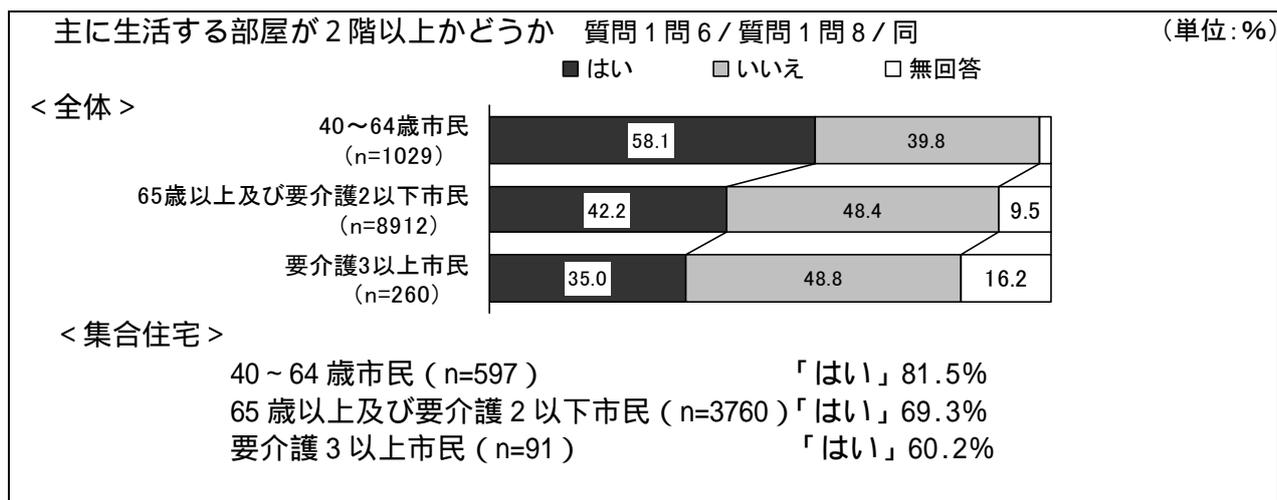


### 【内訳】住宅の形態(3調査×居住地区別)

上段:件 下段:%	40～64歳市民				65歳以上及び要介護2以下市民				要介護3以上市民			
	全体	一戸建	集合住	無回答	全体	一戸建	集合住	無回答	全体	一戸建	集合住	無回答
合計	1029 100.0	598 58.1	410 39.8	21 2.0	8912 100.0	5309 59.6	3344 37.5	259 2.9	260 100.0	137 52.7	88 33.8	35 13.5
第一小学校区	79 100.0	75 94.9	3 3.8	1 1.3	763 100.0	710 93.1	33 4.3	20 2.6	37 100.0	28 75.7	5 13.5	4 10.8
第二小学校区	38 100.0	35 92.1	3 7.9	0 0.0	568 100.0	548 96.5	5 0.9	15 2.6	22 100.0	16 72.7	4 18.2	2 9.1
第三小学校区	125 100.0	111 88.8	14 11.2	0 0.0	1193 100.0	1118 93.7	47 3.9	28 2.3	36 100.0	28 77.8	2 5.6	6 16.7
大山口小学校区	153 100.0	106 69.3	46 30.1	1 0.7	1198 100.0	675 56.3	510 42.6	13 1.1	25 100.0	11 44.0	10 40.0	4 16.0
清水口小学校区	145 100.0	34 23.4	108 74.5	3 2.1	1261 100.0	406 32.2	822 65.2	33 2.6	36 100.0	11 30.6	24 66.7	1 2.8
南山小学校区	120 100.0	31 25.8	89 74.2	0 0.0	1273 100.0	297 23.3	950 74.6	26 2.0	25 100.0	5 20.0	18 72.0	2 8.0
七次台小学校区	80 100.0	75 93.8	5 6.3	0 0.0	592 100.0	561 94.8	18 3.0	13 2.2	18 100.0	13 72.2	1 5.6	4 22.2
池の上小学校区	122 100.0	80 65.6	41 33.6	1 0.8	1147 100.0	648 56.5	493 43.0	6 0.5	35 100.0	16 45.7	17 48.6	2 5.7
桜台小学校区	138 100.0	41 29.7	97 70.3	0 0.0	635 100.0	247 38.9	372 58.6	16 2.5	11 100.0	5 45.5	4 36.4	2 18.2

主に生活する部屋が2階以上かどうかについては、各年代とも約4割が「はい」と答えています。2階以上の居住者にエレベーターの設置状況について尋ねたところ、「設置あり」は約3割で、そのうちの2割台半ばが「自階では止まらない」と答えています。

集合住宅の居住者をみると、2階以上の居住が『40～64歳市民』では8割、『65歳以上及び要介護2以下市民』では7割、『要介護3以上市民』では6割となっており、そのうちのいずれも「エレベーターの設置がない」または「あっても自階で止まらない」というケースが約半数を占めています。



### 【自由記述より】

団地にエレベーターがないため、将来歩行困難になった場合の不安がある。  
 団地の5階。健康でこのまま住んでいられるのが一番だが、エレベーター付きのマンションに住み替えるお金もない。高齢者向けの住宅があればと切に望む。  
 引っ越さなくても済むように、市内に多い団地にエレベーターを設置する補助を願いたい。  
 エレベーターなしの4階に住んでいる。一人での生活ができなくなったら特養に入りたい。

## (6) 外出手段・情報手段

外出する際の移動手段は、『40～64歳市民』では「自動車(自分で運転)」、『65歳以上及び要介護2以下市民』では「徒歩」が最も多く、「自転車」や「電車」も比較的良好に利用されています。『要介護3以上』は、送迎への依存度が高く、3割以上が車いすを利用しています。

『65歳以上及び要介護2以下市民』に着目して上位項目をみると、性別・年齢、介護の必要度のみならず、居住地区によって外出手段の選び方が異なります。

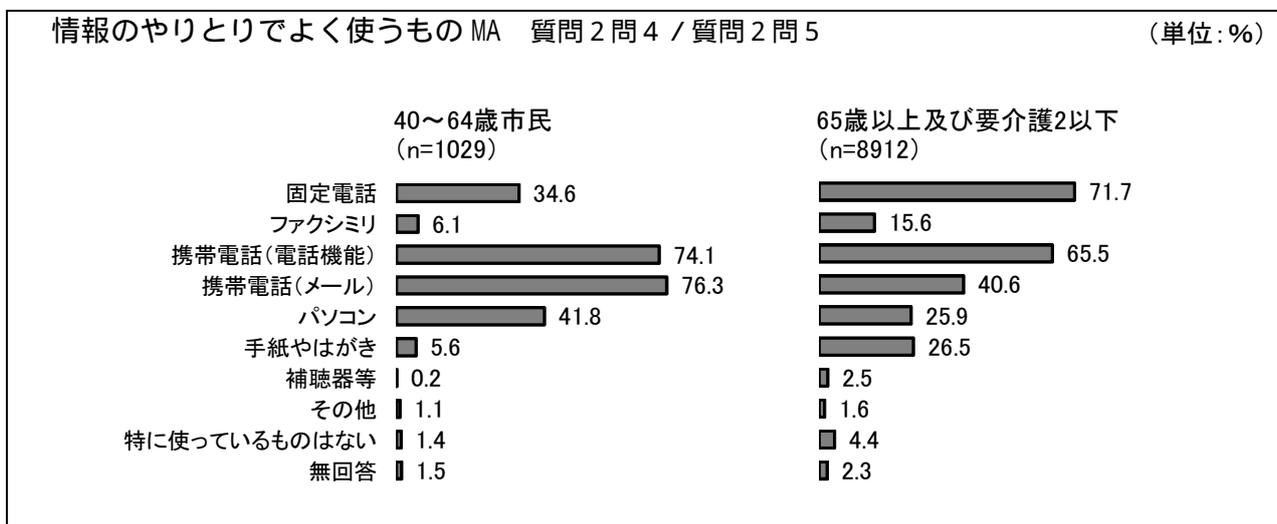
	40～64歳市民 (n=1029)	65歳以上及び要介護2以下 (n=8912)	要介護3以上 (n=260)
徒歩	54.3	69.6	8.8
自転車	41.4	39.8	1.5
バイク	3.8	1.8	0.0
自動車(自分で運転)	77.8	49.2	0.8
自動車(人に乗せてもらう)	18.2	22.9	39.2
電車	44.4	40.4	1.9
路線バス	12.6	21.4	0.0
病院や施設のバス	0.8	4.6	17.3
車いす	0.3	0.7	32.7
電動車いす(カート)	0.1	0.1	1.2
歩行器・シルバーカー	0.1	1.5	5.8
タクシー	2.0	7.2	9.2
その他	0.3	0.9	8.1
無回答	1.5	1.4	19.6

【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民が外出する際の主な移動手段(MA:上位項目)

上段:件 下段:%	全体	外出する際の移動手段<上位7項目>						
		徒歩	自動車 (自分で運転)	電車	自転車	自動車(人に 乗せてもらう)	路線バス	タクシー
合計	8912 100.0	6202 69.6	4386 49.2	3597 40.4	3545 39.8	2042 22.9	1904 21.4	642 7.2
性別								
男性	4248 100.0	3056 71.9	2964 69.8	1761 41.5	1861 43.8	405 9.5	781 18.4	233 5.5
女性	4512 100.0	3086 68.4	1383 30.7	1816 40.2	1645 36.5	1605 35.6	1105 24.5	399 8.8
年齢								
64歳以下	26 100.0	13 50.0	9 34.6	5 19.2	6 23.1	13 50.0	4 15.4	1 3.8
65～74歳	5674 100.0	4137 72.9	3382 59.6	2525 44.5	2598 45.8	1131 19.9	1176 20.7	268 4.7
75～84歳	2482 100.0	1707 68.8	888 35.8	948 38.2	824 33.2	610 24.6	618 24.9	284 11.4
85歳以上	580 100.0	285 49.1	70 12.1	91 15.7	71 12.2	256 44.1	81 14.0	81 14.0
居住地区								
第一小学校区	763 100.0	370 48.5	401 52.6	138 18.1	252 33.0	204 26.7	114 14.9	50 6.6
第二小学校区	568 100.0	175 30.8	339 59.7	63 11.1	111 19.5	166 29.2	60 10.6	27 4.8
第三小学校区	1193 100.0	810 67.9	557 46.7	391 32.8	566 47.4	259 21.7	342 28.7	119 10.0
大山口小学校区	1198 100.0	924 77.1	617 51.5	543 45.3	546 45.6	249 20.8	343 28.6	102 8.5
清水口小学校区	1261 100.0	1036 82.2	581 46.1	679 53.8	582 46.2	275 21.8	317 25.1	71 5.6
南山小学校区	1273 100.0	1040 81.7	606 47.6	678 53.3	446 35.0	267 21.0	189 14.8	75 5.9
七次台小学校区	592 100.0	372 62.8	356 60.1	234 39.5	249 42.1	147 24.8	192 32.4	39 6.6
池の上小学校区	1147 100.0	904 78.8	558 48.6	564 49.2	495 43.2	251 21.9	196 17.1	63 5.5
桜台小学校区	635 100.0	435 68.5	290 45.7	236 37.2	235 37.0	166 26.1	103 16.2	61 9.6
要介護状況								
元気高齢者	7122 100.0	5281 74.2	3942 55.3	3213 45.1	3138 44.1	1435 20.1	1595 22.4	402 5.6
介護・介助が必要 (認定なし)	574 100.0	327 57.0	187 32.6	150 26.1	156 27.2	179 31.2	114 19.9	75 13.1
認定調査・審査中	22 100.0	10 45.5	7 31.8	3 13.6	3 13.6	6 27.3	4 18.2	4 18.2
要支援1・2	316 100.0	169 53.5	36 11.4	63 19.9	33 10.4	137 43.4	57 18.0	67 21.2
要介護1・2	278 100.0	107 38.5	10 3.6	24 8.6	19 6.8	159 57.2	28 10.1	56 20.1

情報のやりとりでよく使うものとして、『40～64歳市民』は、7割台半ばが「携帯電話」をあげ、「パソコン」も4割強みられるなど、デジタル通信の活用が主流となっています。

一方、『65歳以上及び要介護2以下市民』は7割強が「固定電話」を挙げ、「携帯電話（電話機能）」もこれに次いで高率です。また、「手紙やはがき」「ファクシミリ」なども比較的使用率が高く、情報をやりとりする手段が多様です。



【自由記述より】

利用したい施設が点在しているため、車がないと動きがとれない。高齢になり車を手放すと買い物もサークルも行きづらくなる。近くのスーパーと家との往復のみになり、会話が全くない日が出てくるかもと心配している。

車の運転をやめた。交通の便の悪さを感じている。バスの便がもう少し増えるとよい。

北総線の高運賃は高齢者にとって大きな負担であり、行動の範囲を大きく狭めている。

高齢者は遠出が困難になるのでコミュニティバスなどを利用しやすくしてほしい。動けるうちは一人で出歩きたい。

市バス、梨バスの本数が少なくとてもつらい。

福祉センターは、カラオケ、コンサート、講話等いろいろあるが、交通手段がなく、バスに乗っても帰りの便がないので行けない。

市役所その他福祉関係機関に行くための交通機関が非常に不自由。バスで行けば疲れないが、帰りのバスがない。歩けない、車のない人はどうしたらいいか。

78才の一人暮らし。子どもはなく、買い物はヘルパー頼みの1か所。腰が悪いため長く歩くことができず、店の外に行けないため外の買い物に行けない。通院するのも駅までタクシーで大変。日医大のリハビリには社会福祉協議会の車に乗るが、内科に行く時は単独なのでタクシー代だけでも大変、何かいい考えはないか。

タクシー券をいただいたが、1,000円限定なので1,800円支払う。往復すると1,600円になり苦しいので寒くてもナッシー号を待って乗っている。通院が辛い。

目が不自由。必ず代筆、付き添いで行くため2人分の交通費がかかる。日医大か東邦病院に行くことが多く、電車が高いので困る。高齢者の交通費をなんとかしてほしい。

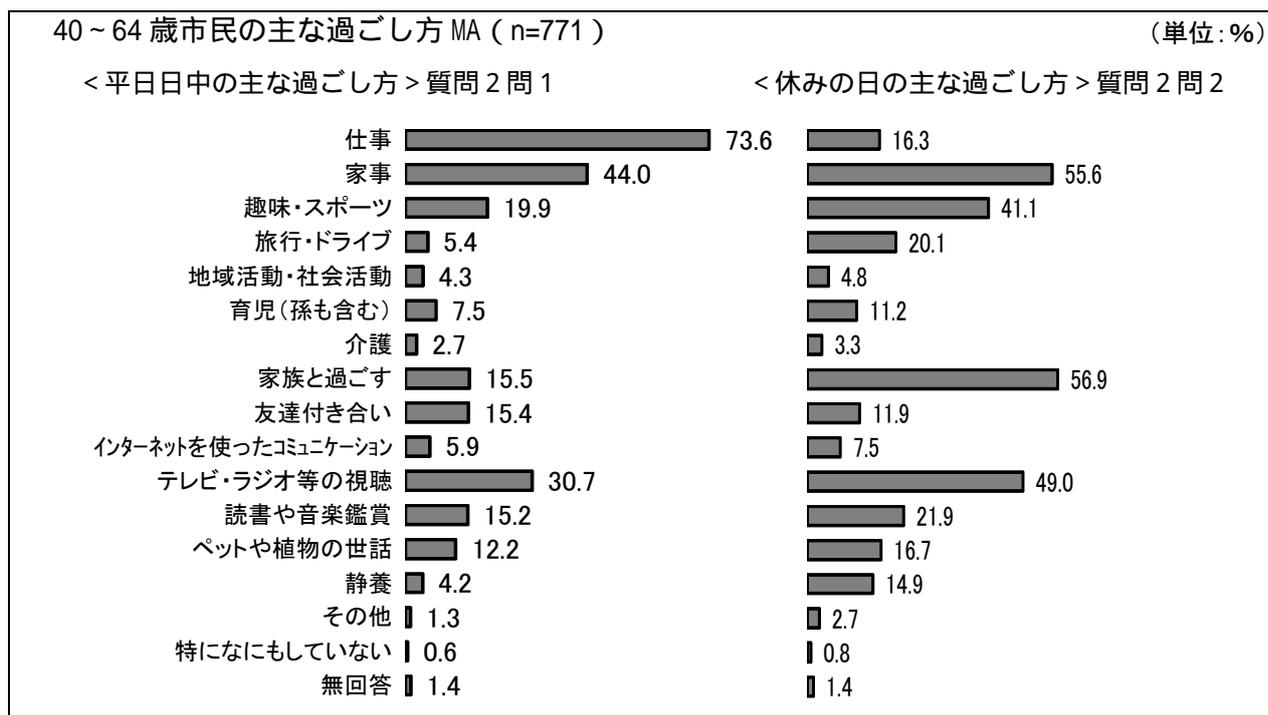
ノンステップバスでも、ナッシー号などのバスは乗り降りが大変。

催し物の時には送迎があるとよい。

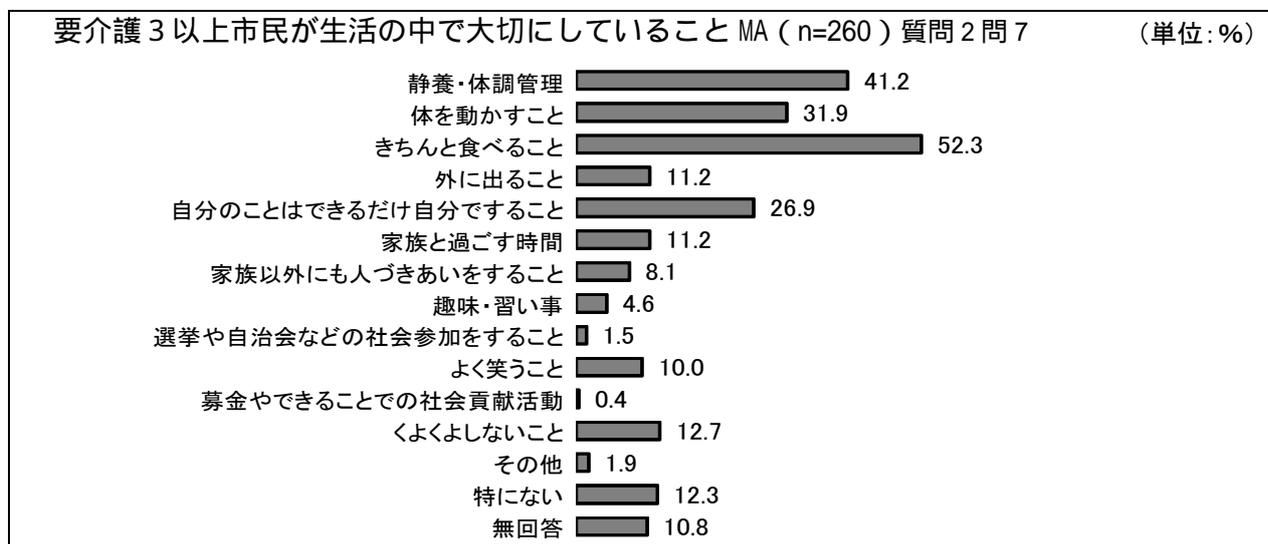
## 2 日常生活・社会参加について

### (1) 日常生活の状況

『40～64歳市民』の生活は、平日の日中では「仕事」、休日では「家族と過ごす」「家事」が主なものとなっています。仕事や家事以外の活動は「テレビ・ラジオ等の視聴」「趣味・スポーツ」を中心に「読書や音楽鑑賞」「ペットや植物の世話」などがみられます。在宅型の活動が多い傾向にあり、地域活動・社会活動を挙げた人は、平日・休日を通じて数パーセントです。

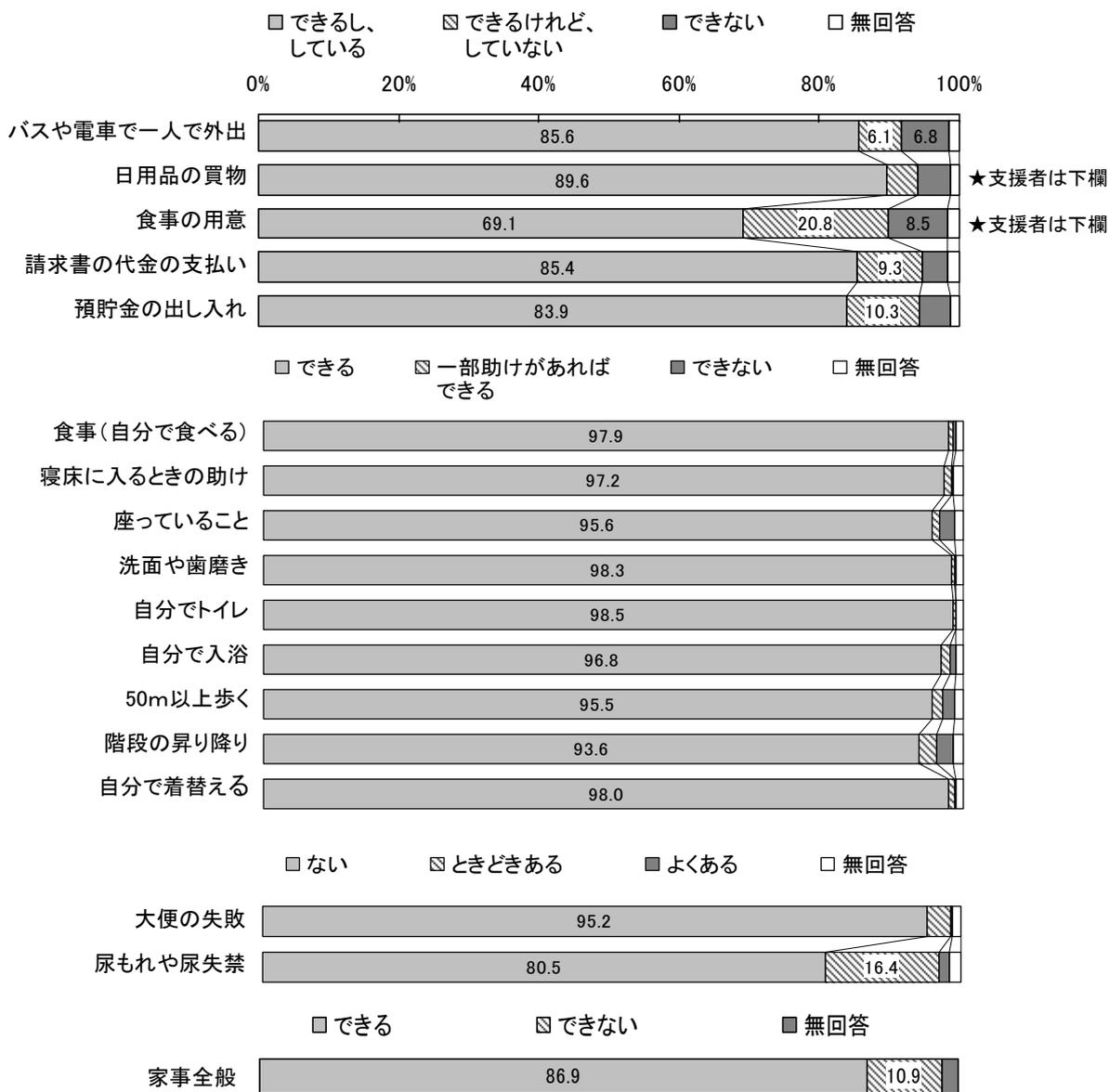


『要介護3以上市民』は生活の中で、「きちんと食べること」、次いで「静養・体調管理」「体を動かすこと」「自分のことはできるだけ自分ですること」などを大切にしています。



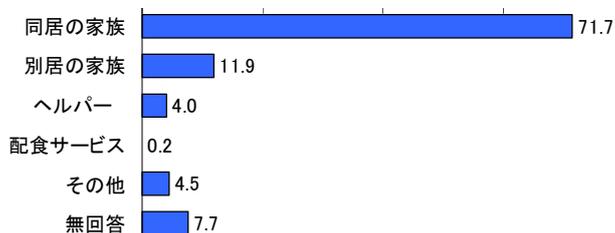
『65歳以上及び要介護2以下市民』に、日常生活を構成する主な行動ができているか・しているかについて尋ねたところ、食事や身の回りのこと、歩行などは「できる」人が多いものの、家事や家計の管理などは「できるけれど、していない」または「できない」という人も少なくないことが示されました。トイレの心配についても、「尿もれや尿失禁」が1割台半ばとなっています。

◇65歳以上及び要介護2以下市民の日常生活(n=8912) 質問2問1

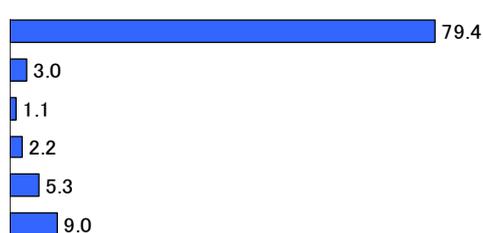


買い物や食事ができない人の支援者

< 買い物をしてくれる人 > (n=403) 質問2問1(2)



< 食事の用意をしてくれる人 > (n=403) 質問2問1(3)



## (2) 外出

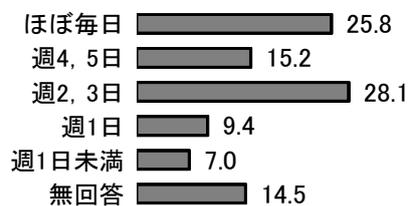
『65歳以上及び要介護2以下市民』に買い物や散歩での外出頻度を尋ねたところ、買い物・散歩ともに週4日以上外出している人が4割強みられ、週1日未満という人は限られています。買物と散歩の頻度はおおむね相関しており、ほぼ毎日買い物に行く人の6割弱が散歩も毎日すると答えていますが、買い物は週1日でも散歩は毎日という人もみられるなど、65歳以上の市民が意識して外に出るようにしている様子がうかがわれます。

『要介護3以上市民』に買い物や散歩での外出頻度を尋ねたところ、週1日未満という人が多く、週1日以上という人は3割弱となっています。

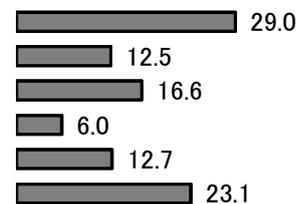
65歳以上及び要介護2以下市民の外出頻度 (n=8912)

(単位: %)

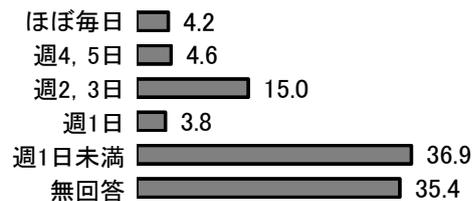
< 買い物での外出頻度 > 質問2問3(1)



< 散歩での外出頻度 > 質問2問3(2)



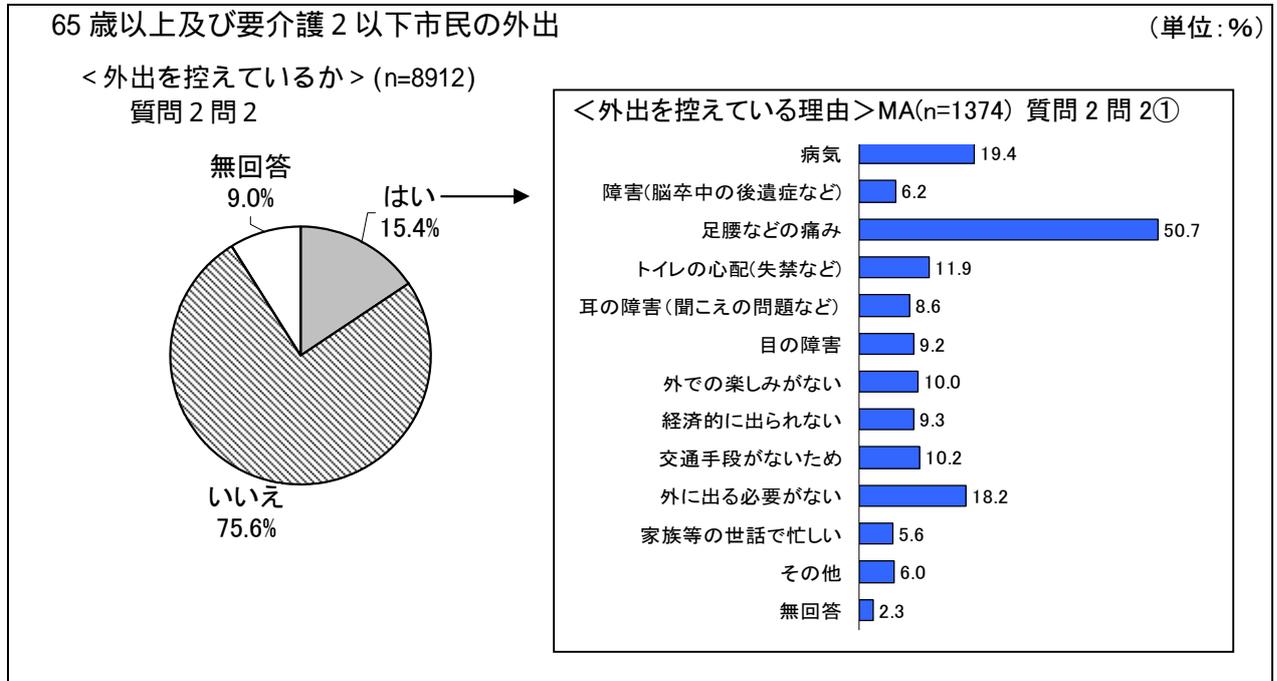
要介護3以上市民の買い物や散歩での外出頻度 (n=260) 質問1問10



【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の散歩・買物による外出頻度の組み合わせ

上段: 件 下段: %	全体	散歩で外出する頻度						
		ほぼ毎日	週4, 5日	週2, 3日	週1日	週1日未満	無回答	
全体	8912 100.0	2587 29.0	1115 12.5	1483 16.6	535 6.0	1131 12.7	2061 23.1	
買物で 外出する 頻度	ほぼ毎日	2302 100.0	1320 57.3	165 7.2	222 9.6	74 3.2	141 6.1	380 16.5
	週4, 5日	1351 100.0	257 19.0	432 32.0	210 15.5	88 6.5	156 11.5	208 15.4
	週2, 3日	2508 100.0	536 21.4	323 12.9	749 29.9	198 7.9	327 13.0	375 15.0
	週1日	839 100.0	177 21.1	81 9.7	156 18.6	118 14.1	177 21.1	130 15.5
	週1日未満	624 100.0	101 16.2	51 8.2	64 10.3	30 4.8	300 48.1	78 12.5
	無回答	1288 100.0	196 15.2	63 4.9	82 6.4	27 2.1	30 2.3	890 69.1

『65歳以上及び要介護2以下市民』に外出を控えている状況について尋ねたところ、控えている人は1割台半ばみられ、その主な理由として「足腰などの痛み」に次いで「病気」が挙げられたほか、「外に出る必要がない」「トイレの心配」「交通手段がない」「外での楽しみがない」など多様な理由が挙げられました。その中で、前期高齢者(65~74歳)においては「経済的に出られない」が体調の問題に次ぐ理由となっていることが注目されます。

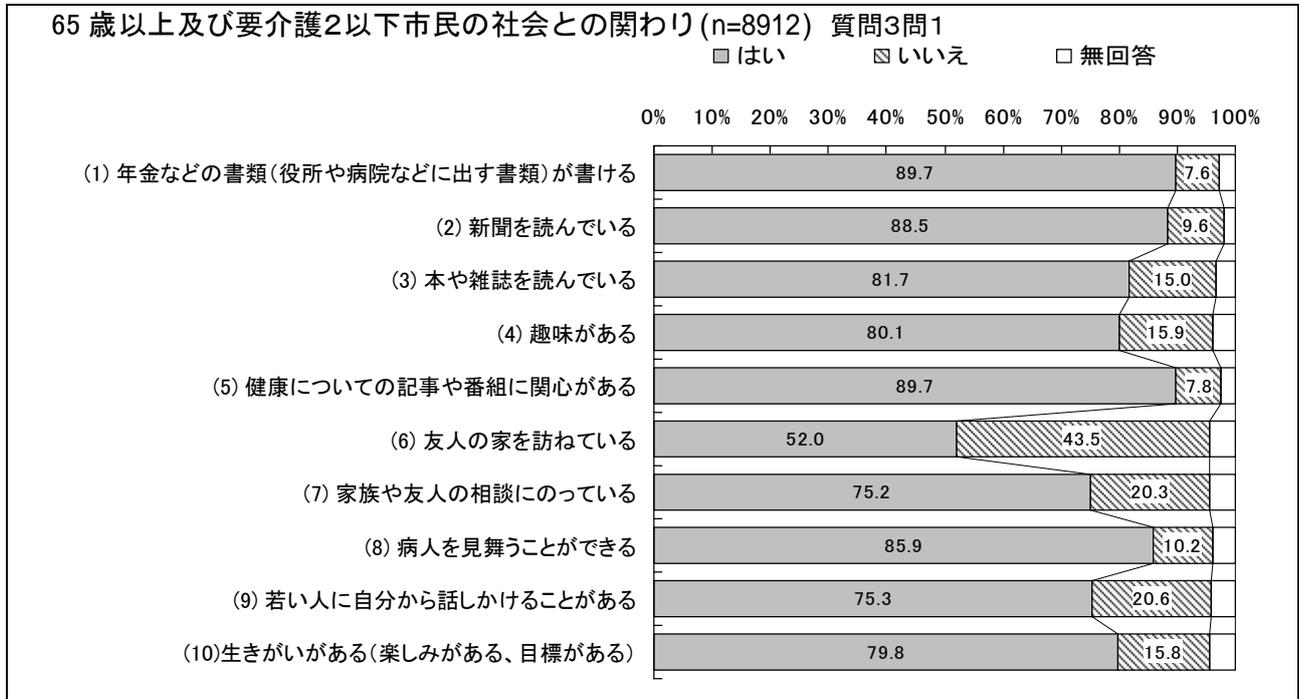


【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民が外出を控えている理由(MA: 回答率が高い順に並び替え)

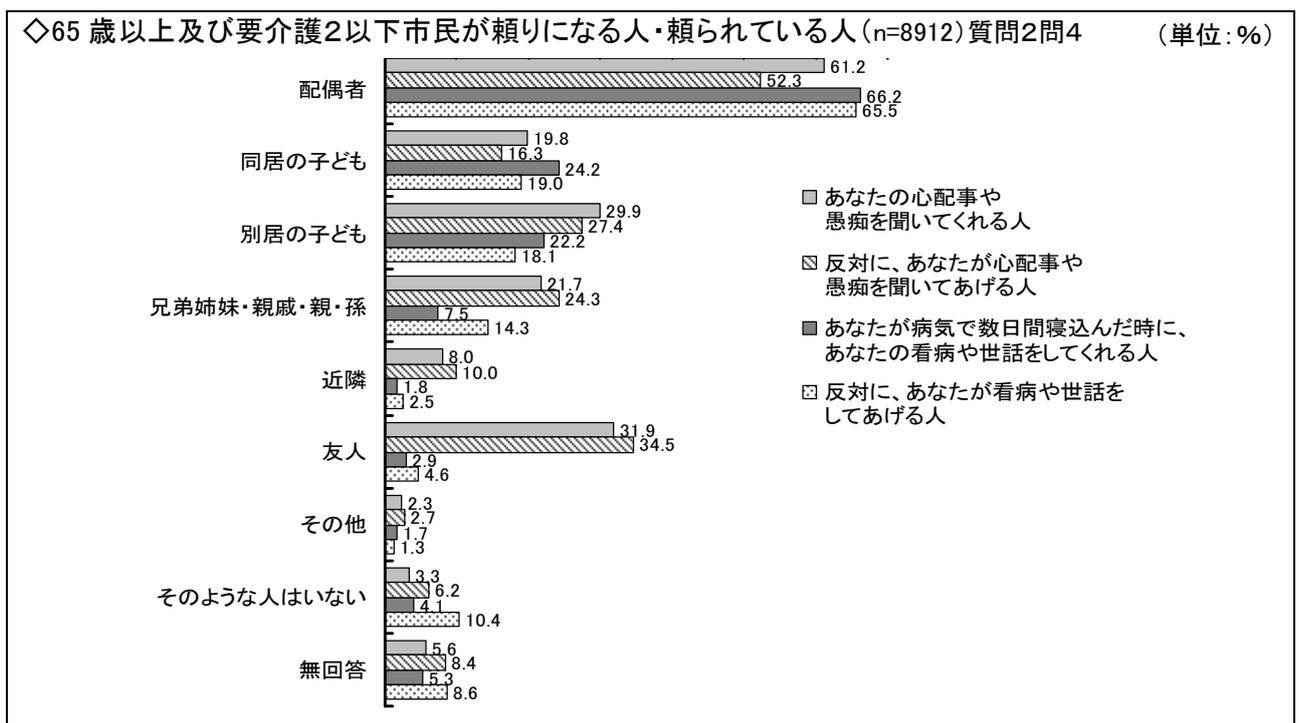
	上段:件 下段:%	全体	足腰などの 痛み	病気	外に出る 必要がない	トイレの心 配(失禁など)	交通手段が ないため	外での楽し みがない	経済的に 出られない	目の障害	耳の障害 (聞こえの問題 など)	障害 (脳卒中の後 遺症など)	家族等の世 話で忙しい	その他	無回答
合計	1374 100.0	696 100.0	267 100.0	250 100.0	164 100.0	140 100.0	138 100.0	128 100.0	126 100.0	118 100.0	85 100.0	77 100.0	83 100.0	32 100.0	
性別															
男性	482 100.0	175 100.0	113 100.0	95 100.0	70 100.0	39 100.0	75 100.0	48 100.0	45 100.0	36 100.0	49 100.0	19 100.0	31 100.0	16 100.0	
女性	856 100.0	496 100.0	150 100.0	146 100.0	90 100.0	97 100.0	59 100.0	78 100.0	77 100.0	76 100.0	35 100.0	57 100.0	51 100.0	16 100.0	
年齢															
64歳以下	15 100.0	3 100.0	5 100.0	3 100.0	2 100.0	4 100.0	1 100.0	1 100.0	0 100.0	0 100.0	8 100.0	1 100.0	1 100.0	0 100.0	
65~74歳	434 100.0	162 100.0	95 100.0	61 100.0	36 100.0	27 100.0	46 100.0	75 100.0	25 100.0	13 100.0	31 100.0	43 100.0	26 100.0	15 100.0	
75~84歳	578 100.0	324 100.0	120 100.0	85 100.0	75 100.0	64 100.0	52 100.0	48 100.0	63 100.0	56 100.0	35 100.0	30 100.0	36 100.0	11 100.0	
85歳以上	316 100.0	189 100.0	45 100.0	97 100.0	48 100.0	40 100.0	37 100.0	1 100.0	35 100.0	44 100.0	8 100.0	3 100.0	16 100.0	5 100.0	
居住地															
第一小学校区	159 100.0	82 100.0	26 100.0	25 100.0	17 100.0	15 100.0	10 100.0	10 100.0	11 100.0	19 100.0	9 100.0	7 100.0	8 100.0	5 100.0	
第二小学校区	126 100.0	62 100.0	16 100.0	29 100.0	12 100.0	22 100.0	10 100.0	8 100.0	16 100.0	17 100.0	8 100.0	1 100.0	5 100.0	5 100.0	
第三小学校区	199 100.0	103 100.0	40 100.0	43 100.0	23 100.0	12 100.0	20 100.0	13 100.0	20 100.0	19 100.0	11 100.0	10 100.0	11 100.0	7 100.0	
大山口小学校区	140 100.0	69 100.0	32 100.0	20 100.0	20 100.0	9 100.0	20 100.0	8 100.0	16 100.0	10 100.0	13 100.0	12 100.0	8 100.0	3 100.0	
清水口小学校区	150 100.0	64 100.0	25 100.0	34 100.0	14 100.0	14 100.0	17 100.0	26 100.0	10 100.0	10 100.0	9 100.0	14 100.0	11 100.0	3 100.0	
南山小学校区	182 100.0	42.7 100.0	16.7 100.0	22.7 100.0	9.3 100.0	9.3 100.0	11.3 100.0	17.3 100.0	6.7 100.0	6.7 100.0	6.0 100.0	9.3 100.0	7.3 100.0	2.0 100.0	
七次台小学校区	73 100.0	37 100.0	16 100.0	10 100.0	11 100.0	16 100.0	8 100.0	8 100.0	8 100.0	8 100.0	7 100.0	4 100.0	6 100.0	5 100.0	
池の上小学校区	154 100.0	83 100.0	27 100.0	27 100.0	25 100.0	15 100.0	15 100.0	9 100.0	9 100.0	8 100.0	6 100.0	10 100.0	14 100.0	5 100.0	
桜台小学校区	119 100.0	72 100.0	26 100.0	17 100.0	18 100.0	23 100.0	15 100.0	14 100.0	12 100.0	11 100.0	8 100.0	5 100.0	5 100.0	0 100.0	
要介護状況															
元高齢者	528 100.0	210 100.0	75 100.0	117 100.0	48 100.0	38 100.0	52 100.0	76 100.0	31 100.0	27 100.0	10 100.0	47 100.0	30 100.0	18 100.0	
介護・介助が必要 (認定なし)	250 100.0	132 100.0	58 100.0	35 100.0	29 100.0	27 100.0	28 100.0	16 100.0	28 100.0	22 100.0	19 100.0	11 100.0	15 100.0	5 100.0	
認定調査・審査中	14 100.0	8 100.0	3 100.0	0 100.0	2 100.0	1 100.0	1 100.0	0 100.0	1 100.0	2 100.0	1 100.0	0 100.0	1 100.0	1 100.0	
要支援1・2	212 100.0	143 100.0	56 100.0	30 100.0	32 100.0	26 100.0	15 100.0	13 100.0	23 100.0	23 100.0	17 100.0	5 100.0	13 100.0	3 100.0	
要介護1・2	205 100.0	122 100.0	53 100.0	36 100.0	37 100.0	24 100.0	23 100.0	4 100.0	27 100.0	21 100.0	28 100.0	3 100.0	15 100.0	1 100.0	

### (3) 社会との関わりや人付き合い

『65歳以上及び要介護2以下市民』に、社会との関わりに関する各項目について尋ねたところ、書類を書く、新聞を読む、健康についての記事や番組に興味を持つといった「情報」の扱いについては“できる・している”という人が8割から9割の間と高い状況にありますが、友人の家を訪ねる、若い人に話しかけるといった「人付き合い」に関わることは“していない”という人も少なくありません。

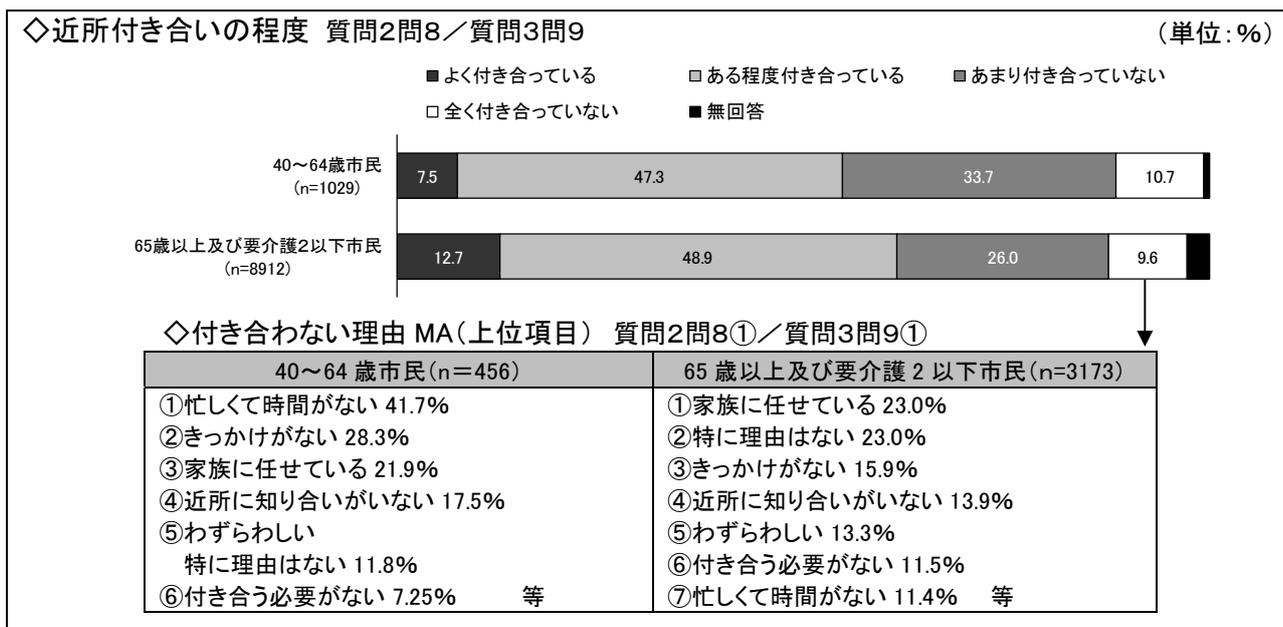


『65歳以上及び要介護2以下市民』の人間関係をみると、愚痴を聞き合う相手は「配偶者」「友人」「別居の子ども」の順、看病については「配偶者」に次いで「同居の子ども」が挙げられており、多くの方が家庭内外に役割の異なる人間関係を築きながら生活している様子が示されています。



『40～64歳市民』及び『65歳以上及び要介護2以下市民』に近所付き合いについて尋ねたところ、6割前後が「よく」または「ある程度」付き合っていると答えました。一方、「全く付き合っていない」という人も1割程度みられ、理由として『40～64歳市民』で「忙しくて時間がない」が目立つほか、「きっかけがない」「家族に任せている」「近所に知り合いがない」「わずらわしい」といったことが挙げられています。

『65歳以上及び要介護2以下市民』の近所付き合いの程度を属性別にみると、性別では女性、年齢別では75～84歳、住宅形態では一戸建てで「よく付き合っている」率が高くなっており、居住地区別には第二小学校区で特に高率となっています。

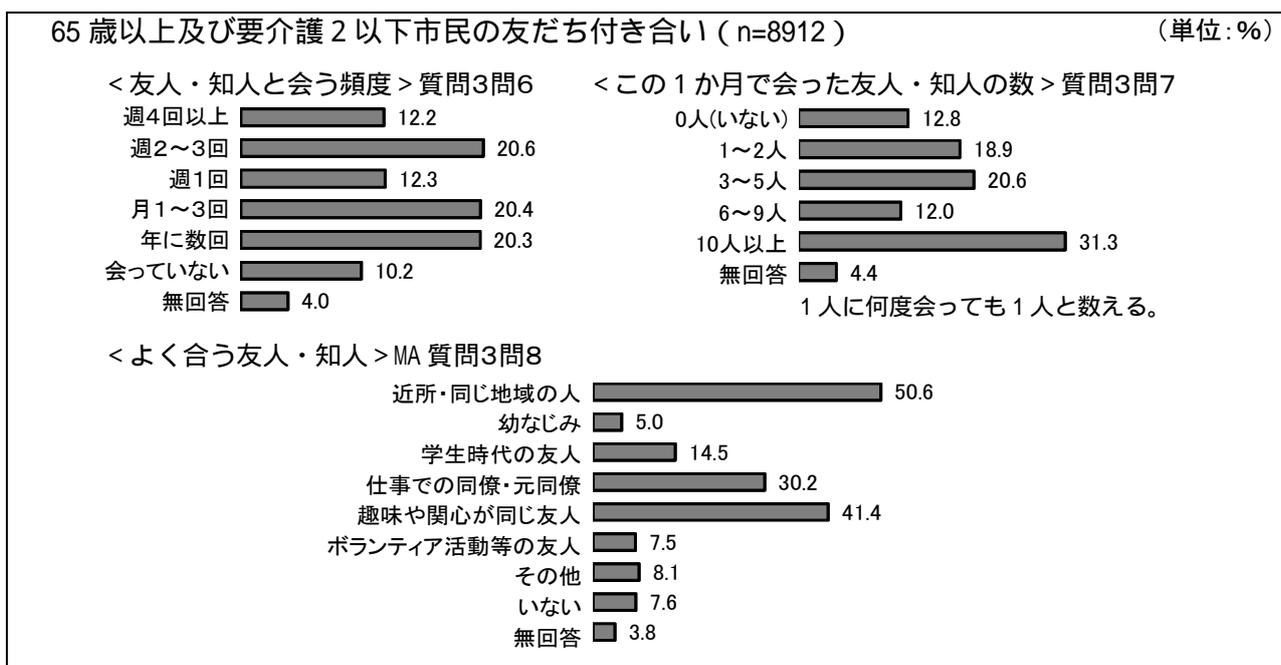


【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の近所付き合いの程度

		上段:件 下段:%	全体	よく付き合っ ている	ある程度付き 合っている	あまり付き合っ ていない	全く付き合っ ていない	無回答
合計			8912 100.0	1129 12.7	4361 48.9	2317 26.0	856 9.6	249 2.8
性別	男性		4248 100.0	438 10.3	1944 45.8	1270 29.9	500 11.8	96 2.3
	女性		4512 100.0	674 14.9	2352 52.1	1020 22.6	347 7.7	119 2.6
年齢	64歳以下		26 100.0	2 7.7	10 38.5	4 15.4	10 38.5	0 0.0
	65～74歳		5674 100.0	658 11.6	2839 50.0	1577 27.8	494 8.7	106 1.9
	75～84歳		2482 100.0	374 15.1	1242 50.0	570 23.0	225 9.1	71 2.9
	85歳以上		580 100.0	70 12.1	211 36.4	139 24.0	122 21.0	38 6.6
住宅形態	一戸建て		5309 100.0	840 15.8	2713 51.1	1248 23.5	382 7.2	126 2.4
	集合住宅		3344 100.0	254 7.6	1555 46.5	1020 30.5	444 13.3	71 2.1
居住地区	第一小学校区		763 100.0	167 21.9	394 51.6	136 17.8	36 4.7	30 3.9
	第二小学校区		568 100.0	161 28.3	286 50.4	66 11.6	30 5.3	25 4.4
	第三小学校区		1193 100.0	177 14.8	639 53.6	263 22.0	89 7.5	25 2.1
	大山口小学校区		1198 100.0	145 12.1	572 47.7	351 29.3	108 9.0	22 1.8
	清水口小学校区		1261 100.0	112 8.9	633 50.2	352 27.9	135 10.7	29 2.3
	南山小学校区		1273 100.0	117 9.2	624 49.0	361 28.4	159 12.5	12 0.9
	七次台小学校区		592 100.0	63 10.6	302 51.0	174 29.4	41 6.9	12 2.0
	池の上小学校区		1147 100.0	87 7.6	559 48.7	343 29.9	125 10.9	33 2.9
	桜台小学校区		635 100.0	71 11.2	263 41.4	194 30.6	92 14.5	15 2.4

『65歳以上及び要介護2以下市民』の友だち付き合いについてみると、友人・知人と会う頻度は「週2～3回以上」「月1～3回」「年に数回」が、この1か月に会った友人・知人の数は「10人以上」がそれぞれ多く、「会っていない」という人も約1割みられます。

よく会う友だちとしては「近所・同じ地域の人」が最も多く、近所付き合いをよくする人ほど趣味の仲間やボランティア活動等の友人ともよく会う傾向がみられます。友だち付き合いは健康状態がよくなると縮小していきませんが、「健康でない」人でも約4割が近所・地域の人をよく会う友だちとして挙げています。

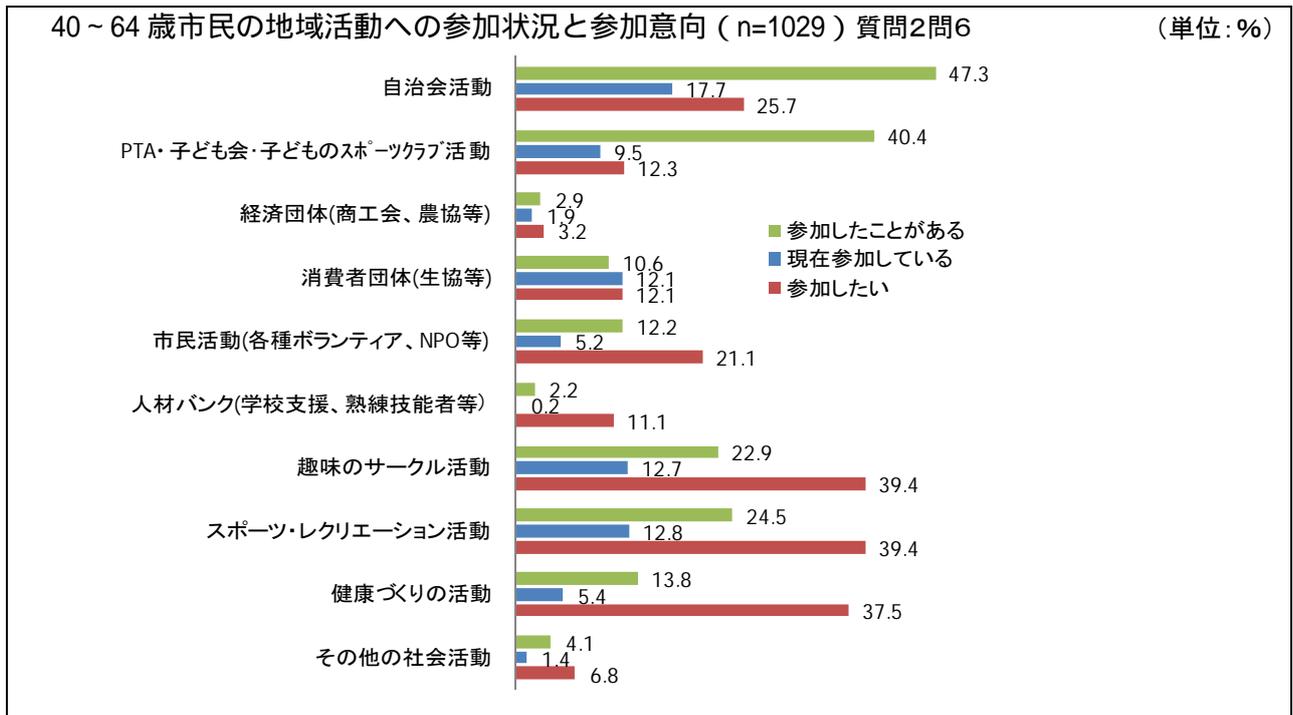


【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民がよく合う友人・知人(MA:多い順に組み換え)

上段: 件 下段: %	全体	近所・同じ 地域の人	趣味や関心 が同じ友人	仕事での同 僚・元同僚	学生時代の 友人	ボランティ ア活動等の 友人	幼なじみ	その他	いない	無回答
合計	8912 100.0	4512 50.6	3690 41.4	2692 30.2	1292 14.5	665 7.5	450 5.0	720 8.1	673 7.6	342 3.8
性別										
男性	4248 100.0	1797 42.3	1638 38.6	1733 40.8	698 16.4	338 8.0	186 4.4	302 7.1	378 8.9	136 3.2
女性	4512 100.0	2651 58.8	2029 45.0	926 20.5	584 12.9	319 7.1	257 5.7	406 9.0	282 6.3	171 3.8
年齢										
64歳以下	26 100.0	10 38.5	8 30.8	11 42.3	7 26.9	1 3.8	3 11.5	2 7.7	5 19.2	0 0.0
65～74歳	5674 100.0	2803 49.4	2532 44.6	2138 37.7	938 16.5	487 8.6	309 5.4	449 7.9	316 5.6	139 2.4
75～84歳	2482 100.0	1359 54.8	989 39.8	470 18.9	305 12.3	155 6.2	118 4.8	196 7.9	219 8.8	116 4.7
85歳以上	580 100.0	275 47.4	133 22.9	39 6.7	31 5.3	15 2.6	13 2.2	62 10.7	122 21.0	53 9.1
近所 付き 合い										
よく付き合っ ている	1129 100.0	975 86.4	540 47.8	303 26.8	163 14.4	147 13.0	114 10.1	73 6.5	10 0.9	12 1.1
ある程度付き 合っている	4361 100.0	2806 64.3	2078 47.6	1355 31.1	683 15.7	381 8.7	211 4.8	336 7.7	99 2.3	69 1.6
あまり付き 合っていない	2317 100.0	638 27.5	868 37.5	785 33.9	368 15.9	110 4.7	93 4.0	225 9.7	236 10.2	60 2.6
全く付き合っ ていない	856 100.0	64 7.5	181 21.1	229 26.8	67 7.8	24 2.8	27 3.2	77 9.0	307 35.9	44 5.1
健康 状態										
とても健康	623 100.0	330 53.0	325 52.2	253 40.6	111 17.8	76 12.2	21 3.4	48 7.7	23 3.7	14 2.2
まあまあ健康	3205 100.0	1721 53.7	1571 49.0	1123 35.0	555 17.3	309 9.6	176 5.5	257 8.0	132 4.1	56 1.7
普通	3213 100.0	1636 50.9	1279 39.8	965 30.0	463 14.4	220 6.8	165 5.1	263 8.2	251 7.8	84 2.6
あまり健康で ない	1238 100.0	603 48.7	402 32.5	274 22.1	125 10.1	52 4.2	67 5.4	104 8.4	153 12.4	48 3.9
健康で ない	470 100.0	185 39.4	93 19.8	67 14.3	33 7.0	7 1.5	19 4.0	45 9.6	108 23.0	38 8.1

#### (4) 地域活動

『40～64歳市民』に仕事以外の各種活動への参加状況・参加意向について尋ねたところ「現在参加している」または「参加したことがある」分野としては自治会、PTA・子ども会など、今後「参加したい」分野としては趣味、スポーツ・レクリエーション、健康づくり活動が多く挙げられました。自治会活動、市民活動などへの参加意向もみられます。主要活動について属性別にみると、性別には女性、年齢別には50歳代（女性の比率が高い）で参加経験・参加意向とも高くなっています。

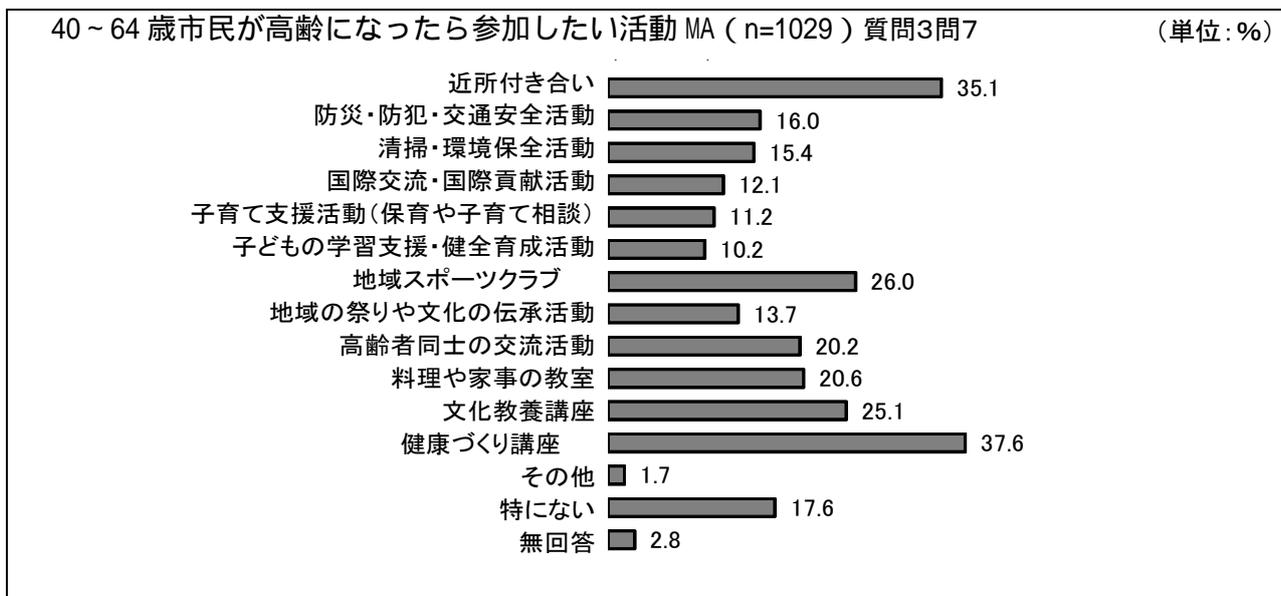


【内訳】40～64歳市民の主要活動への参加経験(している・したことがある)・参加意向(上位5項目)

上段:件 下段:%	全体	自治会活動		市民活動(各種ボランティア、NPO等)		趣味のサークル活動		スポーツ・レクリエーション活動		健康づくり活動	
		参加している+したことがある	参加したい	参加している+したことがある	参加したい	参加している+したことがある	参加したい	参加している+したことがある	参加したい	参加している+したことがある	参加したい
合計	1029 100.0	668 64.9	264 25.7	178 17.3	217 21.1	366 35.6	405 39.4	385 37.4	406 39.5	199 19.3	387 37.6
性別											
男性	430 100.0	254 59.1	108 25.1	58 13.5	86 20.0	79 18.4	137 31.9	129 30.0	160 37.2	56 13.0	127 29.5
女性	577 100.0	401 69.5	152 26.3	118 20.5	128 22.2	278 48.2	261 45.2	245 42.5	238 41.2	138 23.9	252 43.7
年齢											
40～49歳	387 100.0	223 57.6	96 24.8	49 12.7	67 17.3	121 31.3	144 37.2	119 30.7	157 40.6	52 13.4	133 34.4
50～59歳	332 100.0	235 70.8	104 31.3	76 22.9	88 26.5	134 40.4	145 43.7	150 45.2	141 42.5	76 22.9	142 42.8
60～64歳	284 100.0	198 69.7	62 21.8	51 18.0	57 20.1	101 35.6	107 37.7	102 35.9	97 34.2	67 23.6	104 36.6
居住地区											
第一小学校区	79 100.0	52 65.8	24 30.4	9 11.4	18 22.8	22 27.8	30 38.0	34 43.0	29 36.7	14 17.7	27 34.2
第二小学校区	38 100.0	23 60.5	7 18.4	6 15.8	7 18.4	9 23.7	10 26.3	10 26.3	7 18.4	4 10.5	9 23.7
第三小学校区	125 100.0	78 62.4	31 24.8	16 12.8	22 17.6	48 38.4	48 38.4	38 30.4	46 36.8	17 13.6	43 34.4
大山口小学校区	153 100.0	108 70.6	43 28.1	25 16.3	36 23.5	59 38.6	72 47.1	58 37.9	69 45.1	32 20.9	63 41.2
清水口小学校区	145 100.0	78 53.8	23 15.9	25 17.2	31 21.4	38 26.2	43 29.7	43 29.7	48 33.1	25 17.2	46 31.7
南山小学校区	120 100.0	79 65.8	38 31.7	22 18.3	21 17.5	42 35.0	56 46.7	49 40.8	55 45.8	30 25.0	56 46.7
七次台小学校区	80 100.0	57 71.3	20 25.0	14 17.5	18 22.5	28 35.0	30 37.5	31 38.8	36 45.0	19 23.8	34 42.5
池の上小学校区	122 100.0	85 69.7	37 30.3	27 22.1	30 24.6	55 45.1	52 42.6	56 45.9	59 48.4	33 27.0	54 44.3
桜台小学校区	138 100.0	97 70.3	38 27.5	31 22.5	31 22.5	56 40.6	56 40.6	56 40.6	47 34.1	21 15.2	46 33.3

『40～64歳市民』に高齢になったら参加したい活動を尋ねたところ、「健康づくり講座」「近所付き合い」に次いで「地域スポーツクラブ」「文化教養講座」が上位にあげられました。その他多様な活動への関心がみられますが、「特にない」も2割近くみられます。

主要活動について属性別にみると、男性は戸外で体を動かす活動、女性は支え合いや文化的な活動への関心が高く、年齢別には全体的に40～50歳代で参加意向が高くなっています。

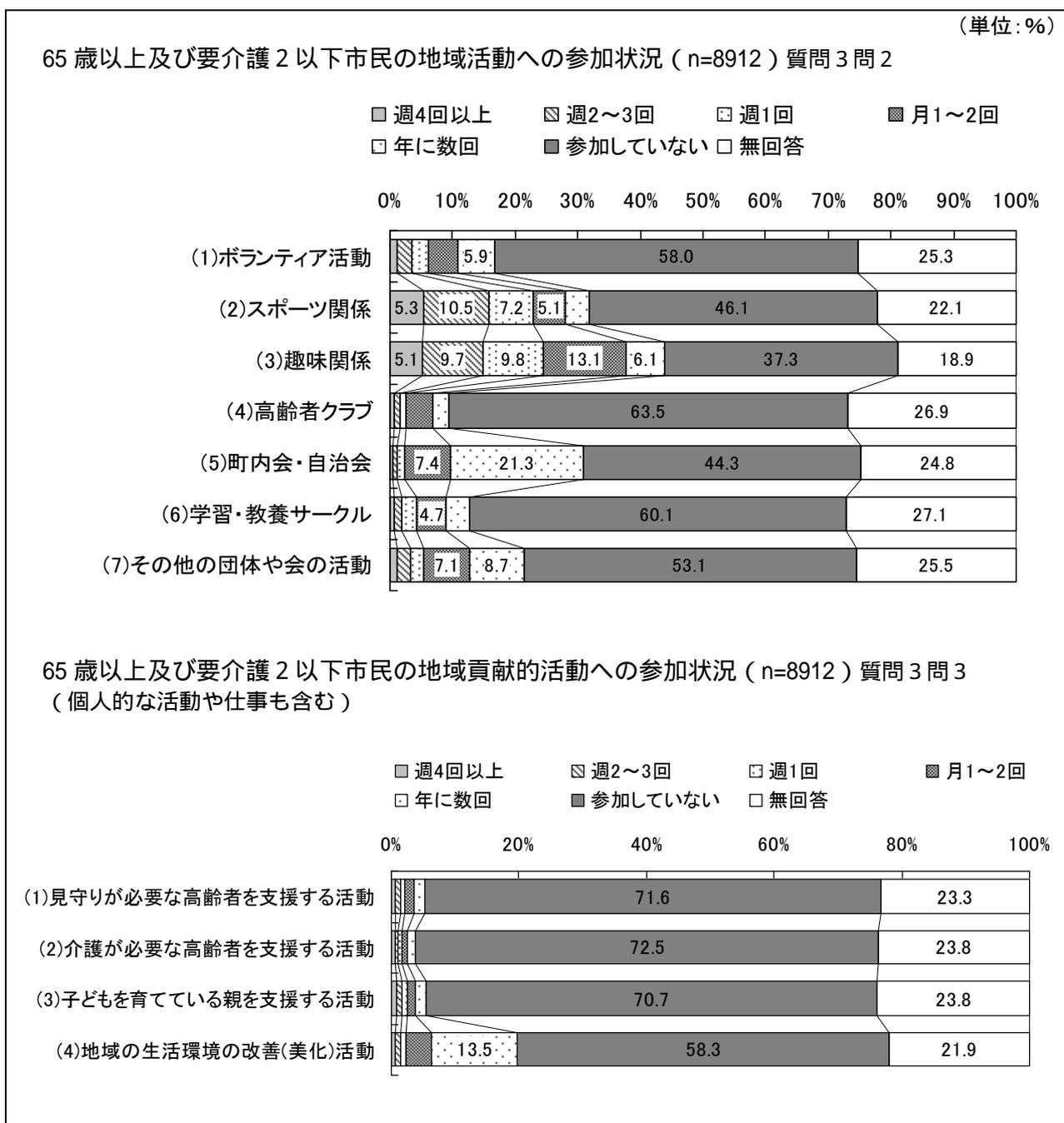


【内訳】40～64歳市民が高齢になったら参加したい活動(MA:上位10項目)

上段:件 下段:%	全体	健康づくり 講座	近所付き 合い	地域スポー ツクラブ	文化教養 講座	料理や家事 の教室	高齢者同士 の交流活動	特にない	防災・防犯・ 交通安全 活動	清掃・環境 保全活動	地域の祭り や文化の 伝承活動	
合計	1029 100.0	387 37.6	361 35.1	268 26.0	258 25.1	212 20.6	208 20.2	181 17.6	165 16.0	158 15.4	141 13.7	
性別	男性	430 100.0	114 26.5	143 33.3	125 29.1	80 18.6	50 11.6	66 15.3	82 19.1	89 20.7	78 18.1	61 14.2
	女性	577 100.0	267 46.3	212 36.7	139 24.1	172 29.8	159 27.6	140 24.3	93 16.1	70 12.1	78 13.5	75 13.0
年齢	40～49歳	387 100.0	139 35.9	135 34.9	122 31.5	96 24.8	85 22.0	75 19.4	56 14.5	67 17.3	62 16.0	50 12.9
	50～59歳	332 100.0	137 41.3	131 39.5	87 26.2	93 28.0	71 21.4	77 23.2	61 18.4	49 14.8	52 15.7	55 16.6
	60～64歳	284 100.0	104 36.6	86 30.3	54 19.0	65 22.9	51 18.0	53 18.7	59 20.8	45 15.8	43 15.1	33 11.6
居住地区	第一小学校区	79 100.0	31 39.2	24 30.4	20 25.3	19 24.1	12 15.2	13 16.5	17 21.5	11 13.9	15 19.0	11 13.9
	第二小学校区	38 100.0	12 31.6	11 28.9	5 13.2	2 5.3	12 31.6	4 10.5	11 28.9	5 13.2	3 7.9	3 7.9
	第三小学校区	125 100.0	38 30.4	53 42.4	35 28.0	23 18.4	21 16.8	26 20.8	32 25.6	22 17.6	17 13.6	21 16.8
	大山口小学校区	153 100.0	62 40.5	58 37.9	52 34.0	49 32.0	36 23.5	39 25.5	20 13.1	27 17.6	23 15.0	18 11.8
	清水口小学校区	145 100.0	52 35.9	40 27.6	33 22.8	33 22.8	33 22.8	20 13.8	24 16.6	17 11.7	24 16.6	16 11.0
	南山小学校区	120 100.0	47 39.2	40 33.3	32 26.7	42 35.0	26 21.7	27 22.5	15 12.5	16 13.3	19 15.8	12 10.0
	七次台小学校区	80 100.0	32 40.0	35 43.8	17 21.3	23 28.8	17 21.3	18 22.5	11 13.8	15 18.8	14 17.5	14 17.5
	池の上小学校区	122 100.0	50 41.0	46 37.7	34 27.9	28 23.0	26 21.3	25 20.5	20 16.4	24 19.7	20 16.4	20 16.4
	桜台小学校区	138 100.0	55 39.9	45 32.6	34 24.6	32 23.2	23 16.7	30 21.7	23 16.7	23 16.7	22 15.9	22 15.9

『65歳以上及び要介護2以下市民』に地域活動への参加状況を尋ねたところ、参加率、活動頻度ともに「趣味関係」「スポーツ関係」が最も活発な分野となっており、「町内会・自治会」「その他の団体や会の活動」「ボランティア活動」がこれに次いでいます。「高齢者クラブ」に参加している人は1割程度にとどまっています。内訳をみると、性別には男性、年齢別には前期高齢者、近所付き合いを「よく」あるいは「ある程度」している人で参加率が高くなっています。「高齢者クラブ」は年齢が低いほど参加率が低くなっています。

地域貢献的な活動については、「美化活動」への参加を約2割が挙げており、子育て支援や高齢者の支援に関わる活動は限られたものとなっています。



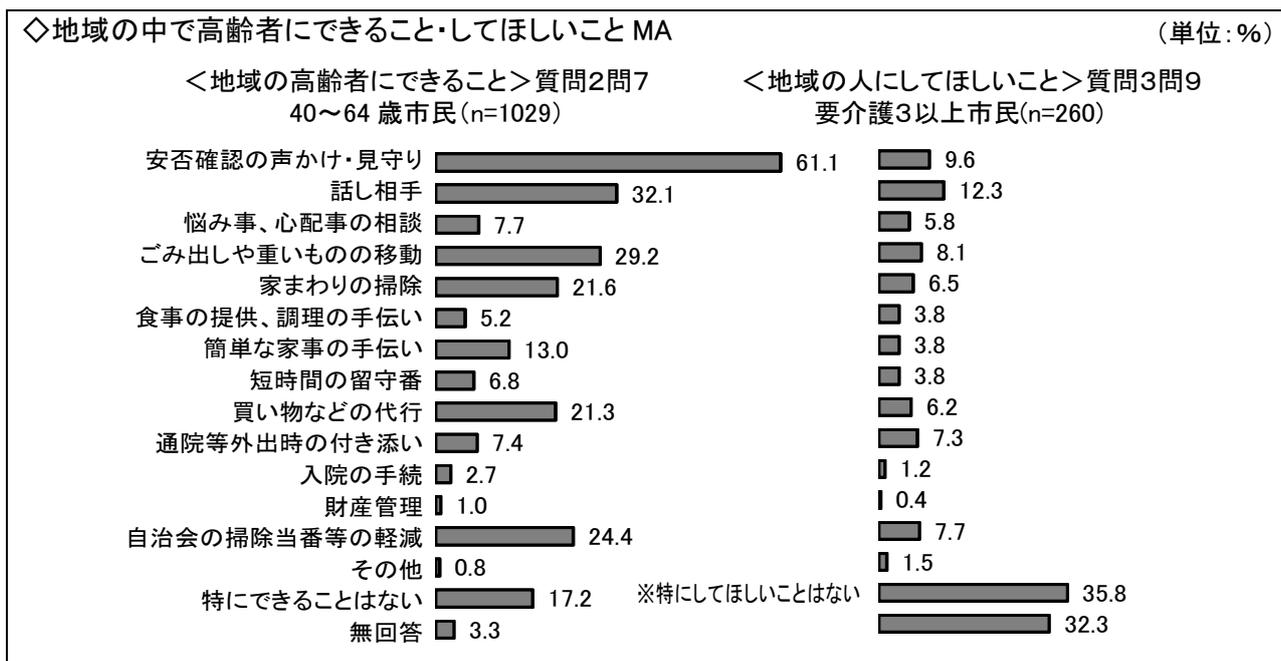
【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の地域活動への参加状況①

活動頻度に関わらず参加している人の合計とその率(「その他」を除き参加率が高い順に並び替え)

上段:件 下段:%		全体	趣味関係	スポーツ関係	町内会・自治会	ボランティア 活動	学習・教養 サークル	高齢者クラブ
合計		8912 100.0	3903 43.8	2835 31.8	2756 30.9	1488 16.7	1144 12.8	850 9.5
性別	男性	4248 100.0	1994 46.9	1576 37.1	1520 35.8	817 19.2	505 11.9	393 9.3
	女性	4512 100.0	1881 41.7	1233 27.3	1211 26.8	658 14.6	634 14.1	448 9.9
年齢	64歳以下	26 100.0	9 34.6	7 26.9	4 15.4	3 11.5	3 11.5	1 3.8
	65～74歳	5674 100.0	2738 48.3	2110 37.2	1968 34.7	1120 19.7	800 14.1	373 6.6
	75～84歳	2482 100.0	1009 40.7	651 26.2	668 26.9	326 13.1	291 11.7	361 14.5
	85歳以上	580 100.0	114 19.7	45 7.8	90 15.5	23 4.0	37 6.4	105 18.1
居住地区	第一小学校区	763 100.0	250 32.8	150 19.7	175 22.9	96 12.6	47 6.2	76 10.0
	第二小学校区	568 100.0	165 29.0	92 16.2	147 25.9	59 10.4	25 4.4	60 10.6
	第三小学校区	1193 100.0	487 40.8	332 27.8	389 32.6	228 19.1	132 11.1	160 13.4
	大山口小学校区	1198 100.0	568 47.4	452 37.7	447 37.3	230 19.2	186 15.5	117 9.8
	清水口小学校区	1261 100.0	652 51.7	479 38.0	430 34.1	250 19.8	200 15.9	97 7.7
	南山小学校区	1273 100.0	604 47.4	477 37.5	410 32.2	228 17.9	190 14.9	77 6.0
	七次台小学校区	592 100.0	287 48.5	197 33.3	209 35.3	92 15.5	96 16.2	38 6.4
	池の上小学校区	1147 100.0	572 49.9	406 35.4	321 28.0	168 14.6	174 15.2	85 7.4
	桜台小学校区	635 100.0	258 40.6	205 32.3	195 30.7	114 18.0	78 12.3	122 19.2
住宅形態	一戸建て	5309 100.0	2300 43.3	1613 30.4	1680 31.6	875 16.5	648 12.2	530 10.0
	集合住宅	3344 100.0	1553 46.4	1188 35.5	1044 31.2	591 17.7	481 14.4	301 9.0
経済的ゆとり	苦しい	979 100.0	299 30.5	174 17.8	227 23.2	117 12.0	68 6.9	72 7.4
	やや苦しい	3361 100.0	1447 43.1	1009 30.0	1045 31.1	547 16.3	392 11.7	301 9.0
	ややゆとりがある	3733 100.0	1822 48.8	1394 37.3	1277 34.2	698 18.7	574 15.4	406 10.9
	ゆとりがある	457 100.0	237 51.9	192 42.0	133 29.1	89 19.5	78 17.1	47 10.3
近所付き合い	よく付き合っている	1129 100.0	552 48.9	381 33.7	516 45.7	310 27.5	194 17.2	191 16.9
	ある程度付き合っている	4361 100.0	2182 50.0	1578 36.2	1676 38.4	871 20.0	639 14.7	479 11.0
	あまり付き合っていない	2317 100.0	939 40.5	700 30.2	477 20.6	245 10.6	258 11.1	143 6.2
	全く付き合っていない	856 100.0	188 22.0	150 17.5	60 7.0	42 4.9	42 4.9	24 2.8

地域の中で高齢者にできることを『40～64歳市民』に尋ねたところ「安否確認の声かけ・見守り」を6割強が挙げ、次いで「話し相手」「ごみ出しや重いものの移動」を各3割、「自治会の掃除当番等の軽減」「家まわりの掃除」「買物などの代行」も各2割が挙げました。内訳をみると、年齢や居住地区により支援意向のある分野が少しずつ異なること、性別には女性の方が全体的に支援意向を持つ人が多いことがわかります。

地域の中でしてほしいことを『要介護3以上市民』に尋ねたところ「特にしてほしいことはない」と答えた人が3割台半ばみられるものの、「話し相手」「安否確認の声かけ・見守り」「ごみ出しや重いものの移動」などを各1割程度が挙げており、地域の中での仕組みづくりが求められている状況がうかがわれます。



【内訳】40～64歳市民が地域の高齢者にできること(MA:上位10項目)

上段:件 下段:%		全体	安否確認 の声かけ・ 見守り	話し相手	ごみ出し や重いも の移動	自治会の 掃除当番 等の軽減	家まわり の掃除	買い物な どの代行	特にできる ことはない	簡単な 家事の 手伝い	悩み事、 心配事の 相談	通院等 外出時の 付き添い
合計		1029 100.0	629 61.1	330 32.1	300 29.2	251 24.4	222 21.6	219 21.3	177 17.2	134 13.0	79 7.7	76 7.4
性別	男性	430 100.0	238 55.3	93 21.6	130 30.2	87 20.2	75 17.4	49 11.4	104 24.2	22 5.1	26 6.0	14 3.3
	女性	577 100.0	382 66.2	233 40.4	164 28.4	158 27.4	142 24.6	165 28.6	68 11.8	110 19.1	51 8.8	60 10.4
年齢	40～49歳	387 100.0	250 64.6	138 35.7	119 30.7	93 24.0	82 21.2	80 20.7	69 17.8	48 12.4	35 9.0	23 5.9
	50～59歳	332 100.0	211 63.6	102 30.7	106 31.9	90 27.1	68 20.5	77 23.2	53 16.0	41 12.3	26 7.8	30 9.0
	60～64歳	284 100.0	158 55.6	85 29.9	66 23.2	62 21.8	62 23.6	56 19.7	50 17.6	42 14.8	15 5.3	21 7.4
居住地区	第一小学校区	79 100.0	48 60.8	26 32.9	17 21.5	13 16.5	10 12.7	14 17.7	11 13.9	5 6.3	3 3.8	3 3.8
	第二小学校区	38 100.0	18 47.4	13 34.2	10 26.3	10 26.3	5 13.2	12 31.6	7 18.4	8 21.1	2 5.3	2 5.3
	第三小学校区	125 100.0	78 62.4	46 36.8	42 33.6	23 18.4	27 21.6	24 19.2	23 18.4	15 12.0	13 10.4	11 8.8
	大山口小学校区	153 100.0	98 64.1	49 32.0	47 30.7	47 30.7	44 28.8	30 19.6	24 15.7	20 13.1	15 9.8	12 7.8
	清水口小学校区	145 100.0	88 60.7	40 27.6	46 31.7	30 20.7	26 17.9	29 20.0	25 17.2	24 16.6	8 5.5	11 7.6
	南山小学校区	120 100.0	75 62.5	38 31.7	33 27.5	28 23.3	26 21.7	27 22.5	26 21.7	29 24.2	10 8.3	12 10.0
	七次台小学校区	80 100.0	51 63.8	30 37.5	23 28.8	19 23.8	17 21.3	23 28.8	11 13.8	5 6.3	4 5.0	4 5.0
	池の上小学校区	122 100.0	83 68.0	43 35.2	36 29.5	30 24.6	30 30.3	24 19.7	15 12.3	13 10.7	11 9.0	9 7.4
	桜台小学校区	138 100.0	79 57.2	36 26.1	37 26.8	45 32.6	24 17.4	30 21.7	27 19.6	11 8.0	9 6.5	9 6.5

## 【自由記述より】

白井に住んで18年。東京では地域活動をしてきたが、今はマンション住まいで交流もなく淋しい。息子の仕事を手伝う時間もなく、市の行事にも参加できず気軽な仲間づくりができないでいる。以前はお互いの家を訪問して、色々な心配事を話したり、行事などに参加したり、楽しい付き合いがあったが、今はほとんどなくなりつつあって淋しい。

毎日1回は近所の住民と挨拶をする機会をつくるよう推進したらどうか。

地域のボランティアに何回か参加している。行事に参加する人、しない人、知らない人、出来ない人などそれぞれであるが、参加する人以外の人たちに目を向けるべきと思う。

市民大学校、新住民やリタイア後の人たちが地域に親しみ、仲間をつくるきっかけとしてとてもよい。白井市民の様々な活動や健康づくり、介護予防等々多くの知識を得ることができた。

子どもとのふれあい、若者との交流の機会づくりを。

元気な高齢者を上手く利用してほしい。散歩しながらのゴミ拾いや、サークルでの活動を子どもたちに教えるなど。

街を歩くと雑草、ゴミ、タバコの吸殻、犬のフンなどが目立つ。市の定期清掃とは別に高齢者が何人かで近隣を掃除するのもひとつ。道具やゴミ置き場などが必要になるが、気が向いた時に一人でもできる仕組みができれば街はきれいになると思う。

放課後児童に勉強を教えたり、語学ができれば中学生に英語を教えるなど、子どもと高齢者が集える場所が学校区内にあればよいと思っている。

今年2月の大雪で雪かきが不安になった。高齢になると一軒家には住めないと考えさせられた。

通院の時に付き添って介護してくださる人がほしい。

地元自治会、隣人と共助する仕組みをつくり、地域の仲間で助け合えるよう自分も取り組みたい。高齢者、子育て中の人などと助け合い、ボランティアチケットで自分の将来に蓄えられる制度があるとよい。近所の一人暮らしの方にお手伝いしたいが、好意でしたことが誤解されるのは嫌だ。

## 【事業者調査より】

団地には、近くに住む子ども世代が故郷から老いた親を呼び寄せているケースもある。そのような場合は、近所づきあいがしにくい。住民票を移していないと小学校の集まりにも行けない。

つながりがあり、茶話会などがある団地地域もある。

近隣から「最近姿を見ない」との連絡があり、安否確認に行くケースが増えている。地域の見守り・支え合いで解決できる場合も多い。

給食サービス利用者は、日中独居、歩行困難で買い物に行けないなど様々。同じ状況でも近所の人が買い物に行ってくれたり食材を届けてくれる人は利用しない。家族と地域は大事と感じる。

ごみ出し、灯油などの買い物も近くの人に頼みにくいということで依頼を受けることがある。

仲のよい人に頼んでいたが、頼まれる方が苦しくなってしまったケースもあれば、ヘルパーとタクシーで出かけて交通費や人件費がかかることに気づき、車での送迎を近所の人に頼めなくなったケースもある。関わり合いは人それぞれで、今までの人間関係の上に成り立っている。お金だけの関係でもない。うまくコーディネートできるとよい。

ボランティアはコミュニケーションに強いことから、話し相手や傾聴などの分野での育成・活躍に力を入れている。高齢者に手紙を出す活動も喜ばれている。

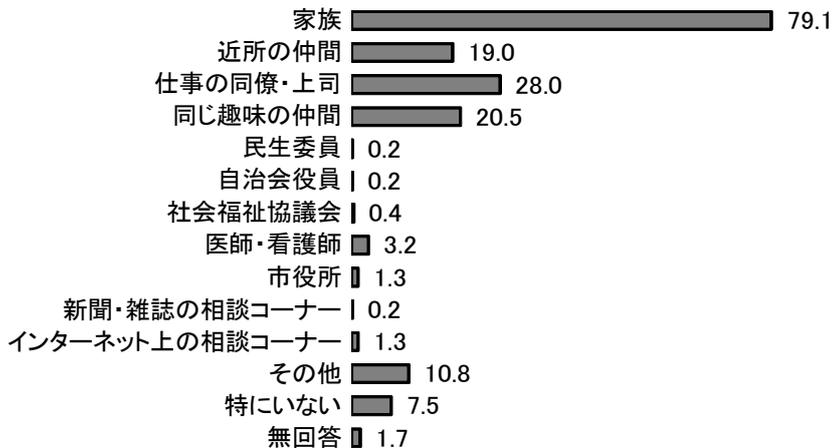
ボランティアセンターには100名以上が登録。頼りにされている実感がボランティア精神を培っているが、活動者が高齢化し、活動者側の体調をみたり、安全で無理のない活動の調整が課題になってきている。ボランティアは生きがいでもある。卒業判断が難しい。

## (5) 相談相手

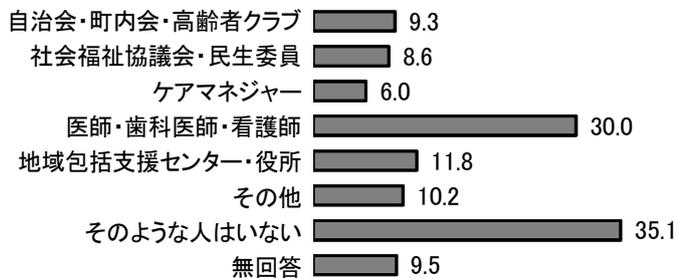
『40～64歳市民』に悩みを相談しやすい相手を尋ねたところ「家族」を8割弱が挙げ、次いで「仕事の同僚・上司」「同じ趣味の仲間」「近所の仲間」などが挙げられました。

『65歳以上及び要介護2以下市民』が家族や友人・知人以外で相談しやすい相手は、介護の必要度によって異なり、元気高齢者では「そのような人はいない」、認定なしで介護・介助が必要な人では「医師・歯科医師・看護師」、要支援・要介護認定者では「ケアマネジャー」が最も多くなっています。また、近所付き合いをよくしている人は「自治会・町内会・高齢者クラブ」なども含め、多くの相談先を持っていることがわかります。

40～64歳市民が悩みを相談しやすい相手 MA (n=8912) 質問2問12 (単位:%)



65歳以上及び要介護2以下市民が家族や友人・知人以外で相談しやすい相手 MA (n=8912) 質問3問5



【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民が家族や友人・知人以外で相談しやすい相手 MA(MA:上位10項目)

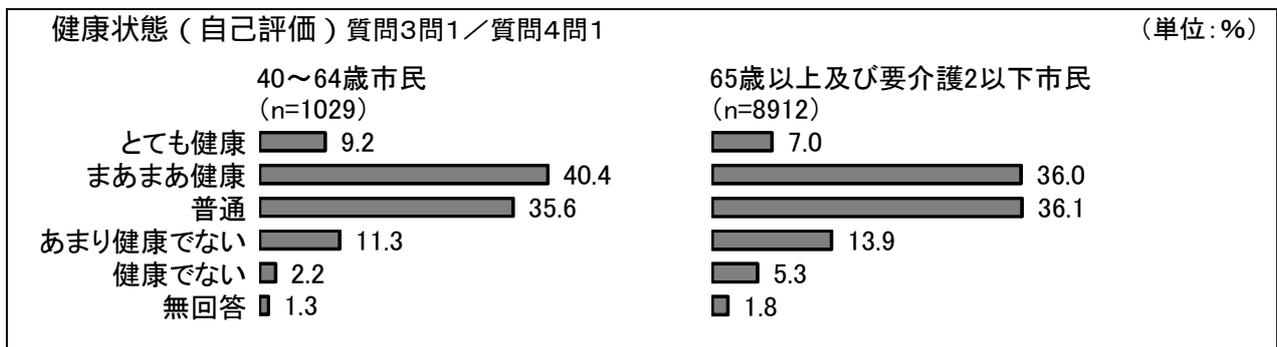
上段:件 下段:%	全体	医師・歯科 医師・看護 師	地域包括支 援センター・ 役所	自治会・町 内会・高齢 者クラブ	社会福祉協 議会・民生 委員	ケアマネ ジャー	その他	そのような 人はいない	無回答	
合計	8912 100.0	2674 30.0	1052 11.8	831 9.3	767 8.6	537 6.0	912 10.2	3127 35.1	845 9.5	
要 介 護 状 況	元気高齢者	7122 100.0	2157 30.3	848 11.9	693 9.7	599 8.4	212 3.0	766 10.8	2670 37.5	566 7.9
	介護・介助が必要 (認定なし)	574 100.0	202 35.2	67 11.7	68 11.8	67 11.7	31 5.4	47 8.2	174 30.3	70 12.2
	認定調査・審査中	22 100.0	9 40.9	6 27.3	2 9.1	8 36.4	4 18.2	1 4.5	3 13.6	1 4.5
	要支援1・2	316 100.0	104 32.9	65 20.6	20 6.3	38 12.0	125 39.6	24 7.6	59 18.7	16 5.1
	要介護1・2	278 100.0	62 22.3	29 10.4	11 4.0	12 4.3	140 50.4	25 9.0	57 20.5	20 7.2
近 所 付 き 合 い	よく付き合っている	1129 100.0	431 38.2	137 12.1	219 19.4	139 12.3	55 4.9	115 10.2	220 19.5	141 12.5
	ある程度 付き合っている	4361 100.0	1443 33.1	564 12.9	504 11.6	425 9.7	250 5.7	515 11.8	1318 30.2	364 8.3
	あまり 付き合っていない	2317 100.0	634 27.4	283 12.2	98 4.2	160 6.9	149 6.4	208 9.0	1043 45.0	129 5.6
	全く付き合っていない	856 100.0	145 16.9	57 6.7	9 1.1	35 4.1	74 8.6	67 7.8	517 60.4	37 4.3

### 3 心身の状況について

#### (1) 健康状態

『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』に健康状態（自己評価）について尋ねたところ、「まあまあ健康」または「普通」と答えた人が7割台半ばを占め、「とても健康」と答えた人も1割弱みられますが、『65歳以上及び要介護2以下市民』では約2割が「健康でない」または「あまり健康でない」と答えています。

「健康でない」との自覚は、年齢及び介助・介護の必要度が高いほど高まる傾向があります。健康状態の自覚はまた、経済的なゆとり感や近所付き合いの程度との相関もみられます。



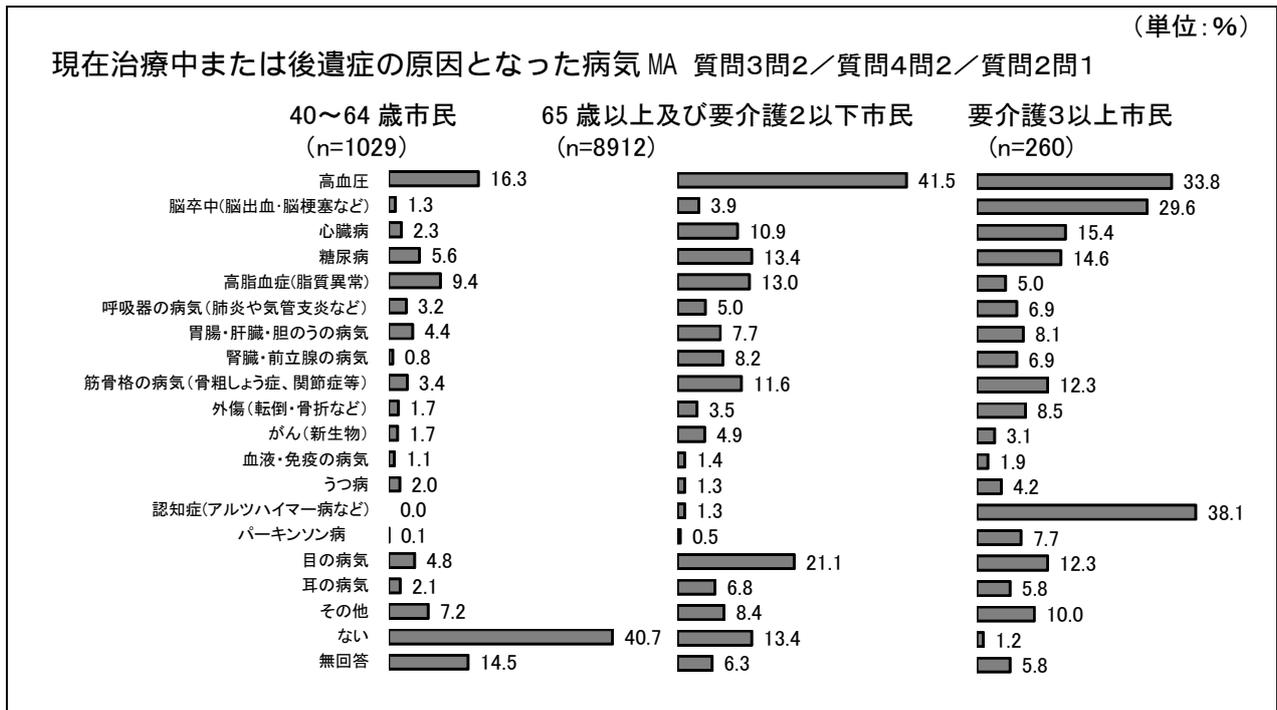
#### 【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の健康状態

	上段:件 下段:%	全体	とても健康	まあまあ健康	普通	あまり健康でない	健康でない	無回答
合計		8912 100.0	623 7.0	3205 36.0	3213 36.1	1238 13.9	470 5.3	163 1.8
年齢	64歳以下	26 100.0	4 15.4	4 15.4	3 11.5	6 23.1	9 34.6	0 0.0
	65～74歳	5674 100.0	470 8.3	2201 38.8	2125 37.5	612 10.8	188 3.3	78 1.4
	75～84歳	2482 100.0	120 4.8	802 32.3	864 34.8	465 18.7	180 7.3	51 2.1
	85歳以上	580 100.0	19 3.3	150 25.9	179 30.9	135 23.3	86 14.8	11 1.9
要介護状況	元気高齢者	7122 100.0	568 8.0	2806 39.4	2712 38.1	786 11.0	164 2.3	86 1.2
	介護・介助が必要(認定なし)	574 100.0	11 1.9	138 24.0	170 29.6	154 26.8	86 15.0	15 2.6
	認定調査・審査中	22 100.0	0 0.0	3 13.6	3 13.6	8 36.4	7 31.8	1 4.5
	要支援1・2	316 100.0	6 1.9	43 13.6	58 18.4	124 39.2	77 24.4	8 2.5
同居状況	要介護1・2	278 100.0	4 1.4	49 17.6	64 23.0	79 28.4	80 28.8	2 0.7
	一人暮らし	849 100.0	53 6.2	271 31.9	306 36.0	143 16.8	64 7.5	12 1.4
	家族などと同居 (二世帯住宅を含む)	7875 100.0	562 7.1	2895 36.8	2840 36.1	1066 13.5	384 4.9	128 1.6
経済的ゆとり	その他 (施設入居など)	92 100.0	2 2.2	17 18.5	38 41.3	18 19.6	16 17.4	1 1.1
	ゆとりがある	457 100.0	84 18.4	170 37.2	142 31.1	34 7.4	20 4.4	7 1.5
	ややゆとりがある	3733 100.0	292 7.8	1556 41.7	1290 34.6	424 11.4	122 3.3	49 1.3
	やや苦しい	3361 100.0	174 5.2	1152 34.3	1263 37.6	533 15.9	188 5.6	51 1.5
近所付き合い	苦しい	979 100.0	55 5.6	224 22.9	353 36.1	203 20.7	120 12.3	24 2.5
	よく付き合っている	1129 100.0	141 12.5	433 38.4	392 34.7	111 9.8	39 3.5	13 1.2
	ある程度付き合っている	4361 100.0	282 6.5	1763 40.4	1614 37.0	537 12.3	138 3.2	27 0.6
	あまり付き合っていない	2317 100.0	137 5.9	761 32.8	855 36.9	396 17.1	156 6.7	12 0.5
近所付き合い	全く付き合っていない	856 100.0	56 6.5	209 24.4	297 34.7	163 19.0	121 14.1	10 1.2

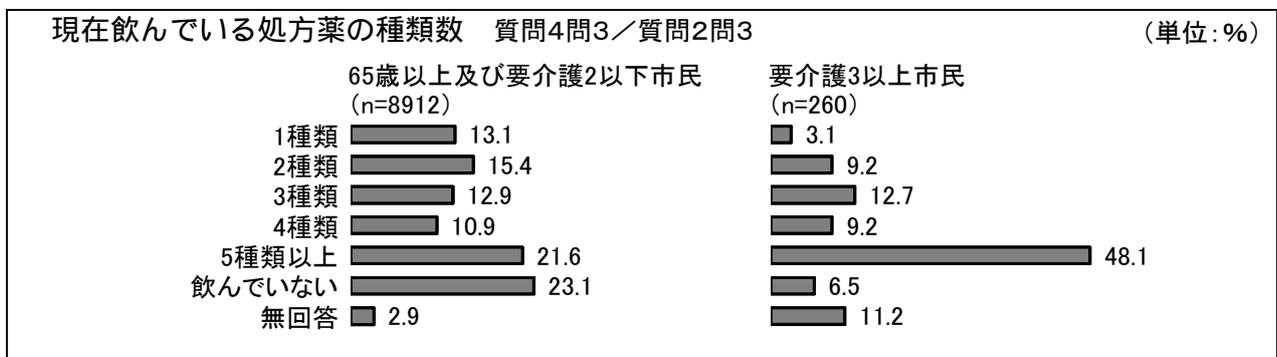
## (2) 受診状況

治療中または後遺症のある病気について尋ねたところ、『40～64歳市民』では4割が「ない」と答えていますが、『65歳以上及び要介護2以下市民』では「ない」人は1割強にとどまり、年齢の高まりとともに「高血圧」や「目の病気」をはじめ、何らかの病気を持つ人が多くなっています。

『要介護3以上市民』は、ほとんどの人が何らかの病気を抱えており、特に「認知症」が4割弱と高率で見られます。



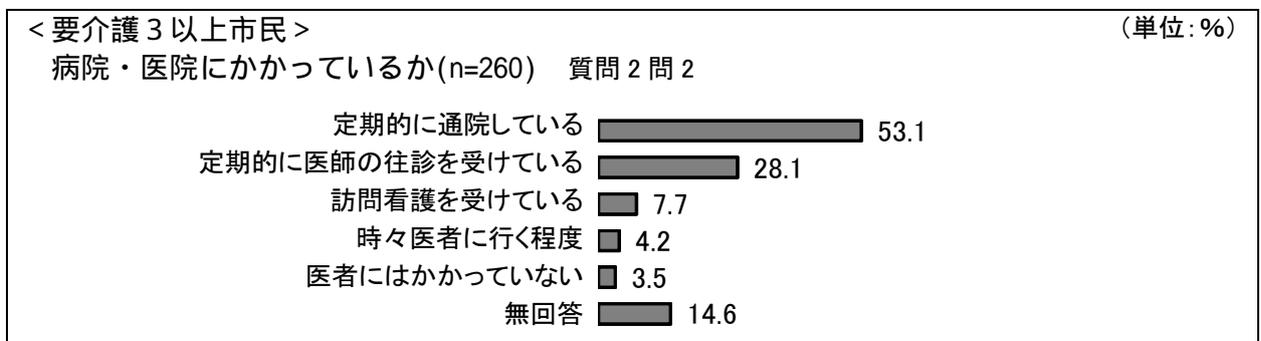
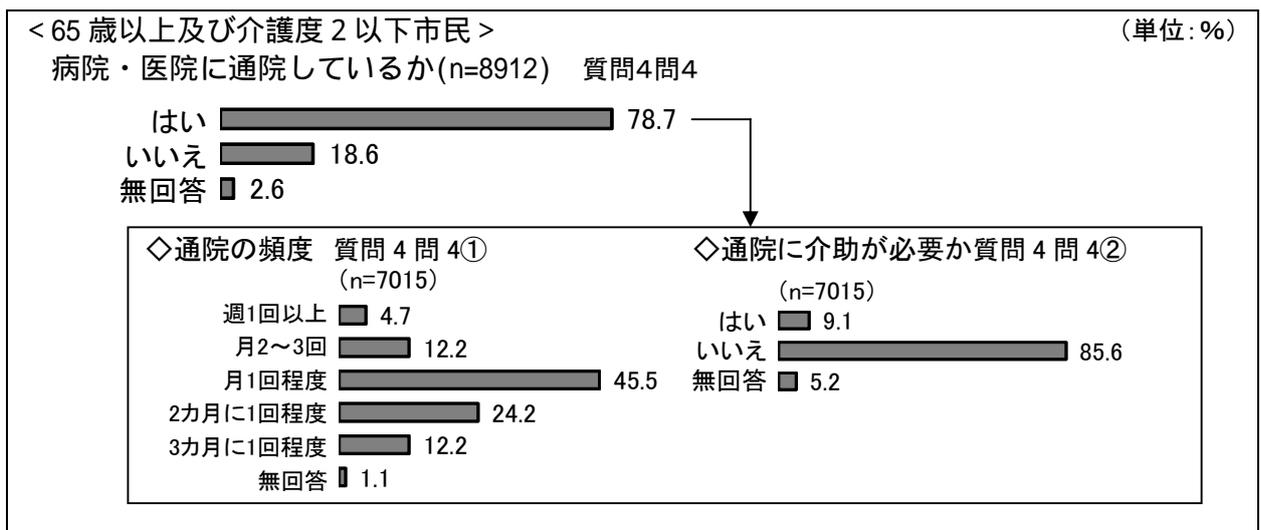
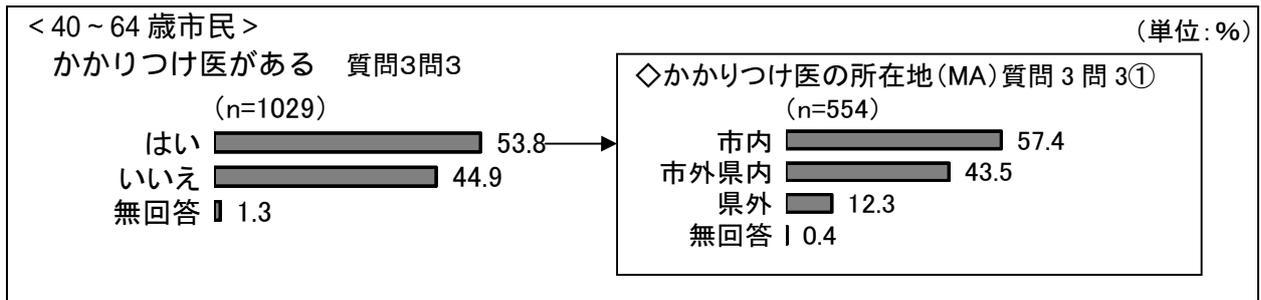
『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』に現在飲んでいる処方薬の種類数を尋ねたところ、『65歳以上及び要介護2以下市民』でも「飲んでいない」人は2割強となっており、『要介護3以上市民』では5種類以上が5割近くとなることがわかりました。



『40～64歳市民』にかかりつけ医の有無を尋ねたところ、5割強があると答えました。かかりつけ医の所在地は市内が多いものの、市外、県外にも広がっています。

『65歳以上及び要介護2以下市民』に受診状況を尋ねたところ、現在通院中の方が8割弱に上り、通院頻度は月1回程度が多くなっています。通院に介助が必要な人は1割弱となっています。

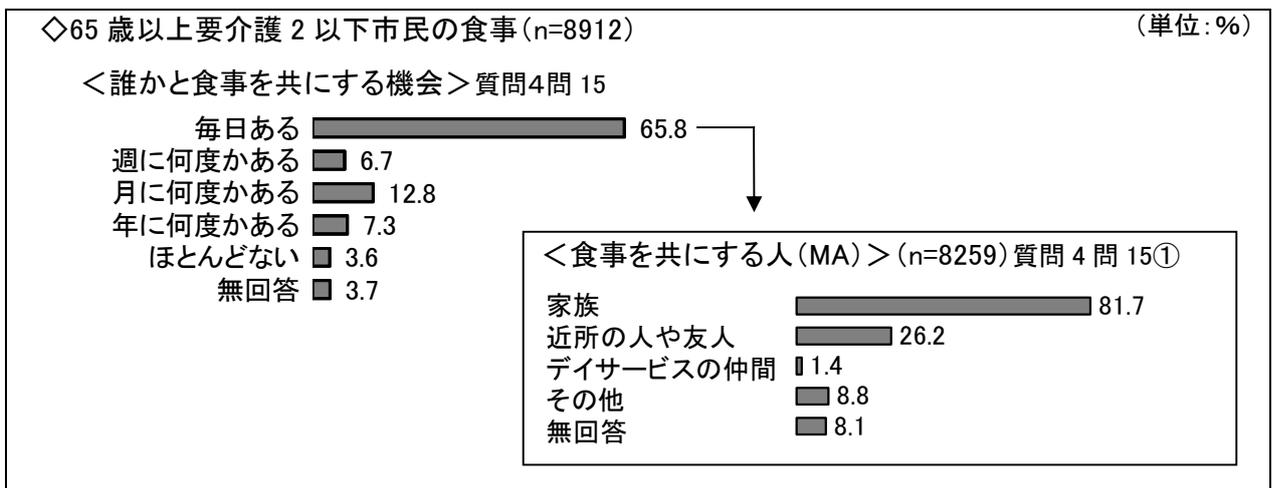
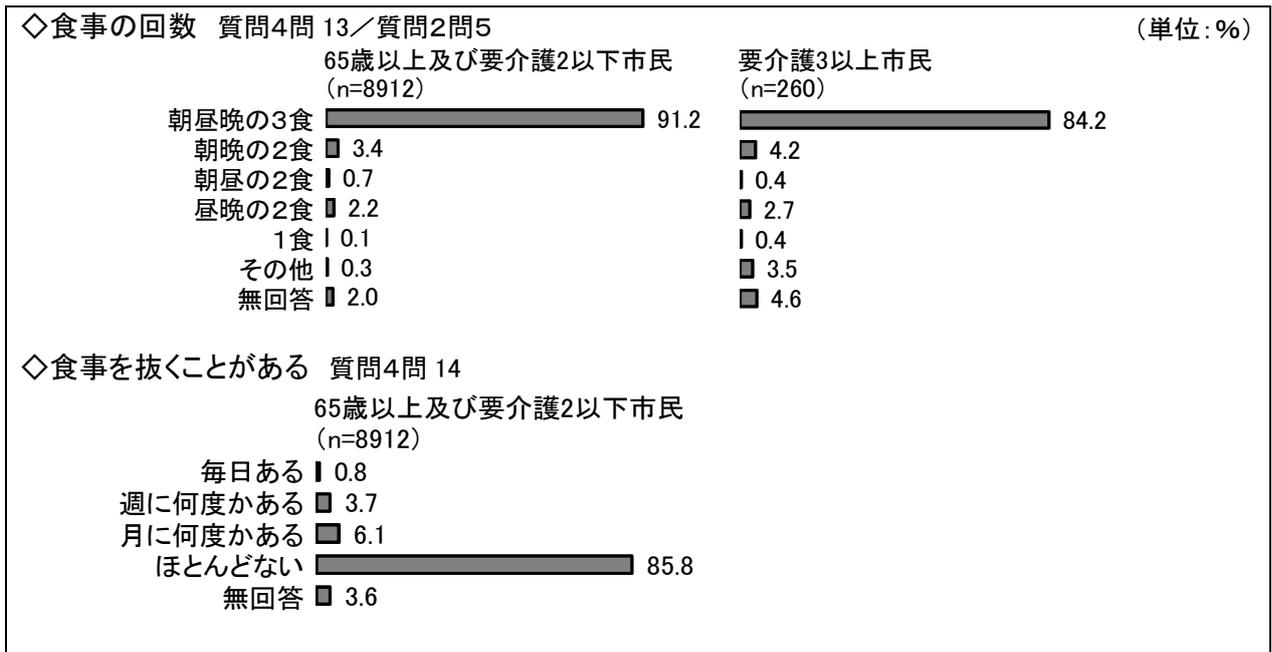
『要介護3以上市民』は、ほとんどの人が医者にかかっており、定期的に通院している人が5割強、定期的に医師の往診を受けている人が3割弱、訪問看護を受けている人が1割弱みられます。



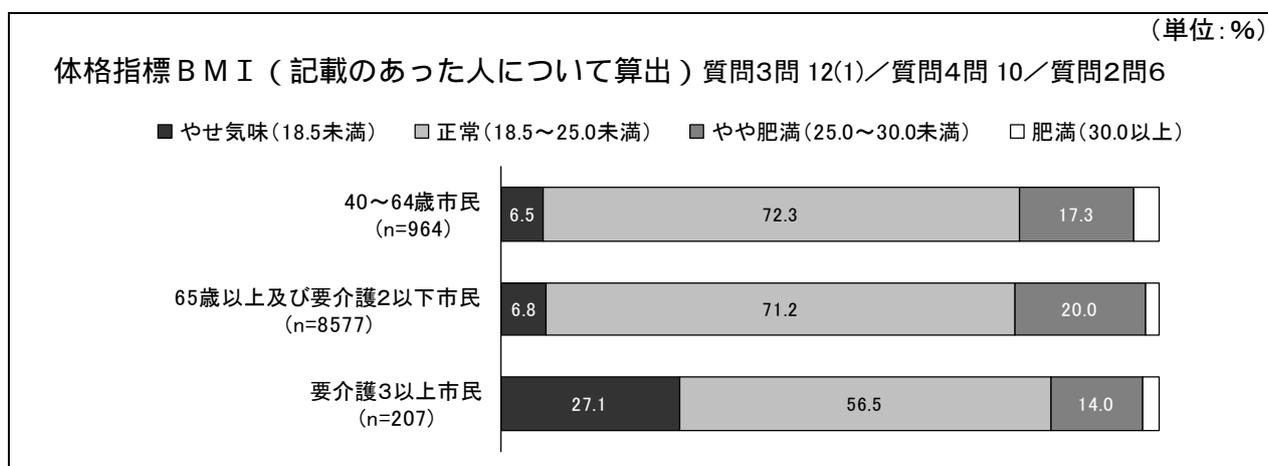
### (3) 食習慣・栄養・口腔

『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』に食事の回数を尋ねたところ、朝昼晩の3回食事を摂っている人は『65歳以上及び要介護2以下市民』の9割強、『要介護3以上市民』では8割台半ばで、朝晩または昼晩の2食という人も若干みられ、少数ながら1食という人もみられます。

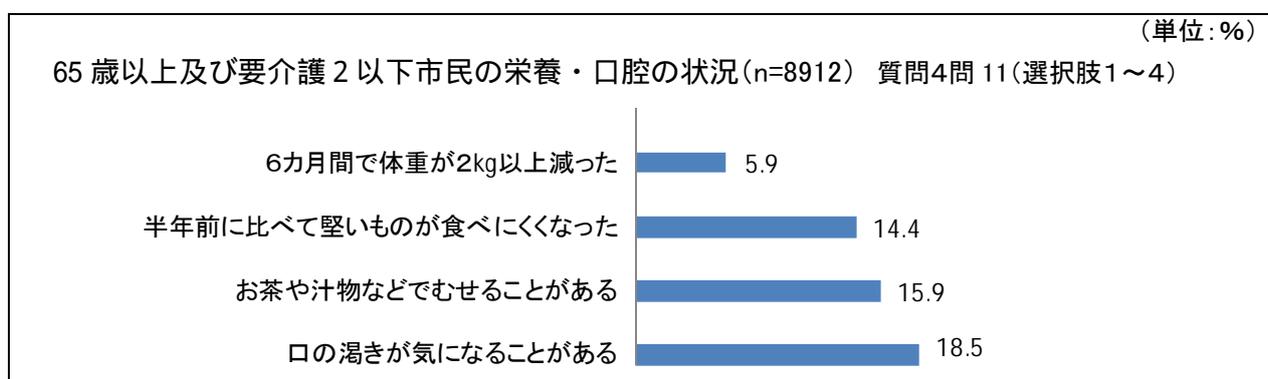
『65歳以上及び要介護2以下市民』に食事を共にする機会について尋ねたところ、毎日家族と食事をしている人が5割強に上るものの、誰かと食事するのは月に何度か、週に何度かで、一人で食事をする日の方が多い人も1割程度みられます。



身長・体重を3調査共通で尋ね、体格指標BMIを算出したところ、『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』では正常値にある人が7割を超えていますが、『要介護3以上市民』ではやせ気味の人が3割近くみられます。

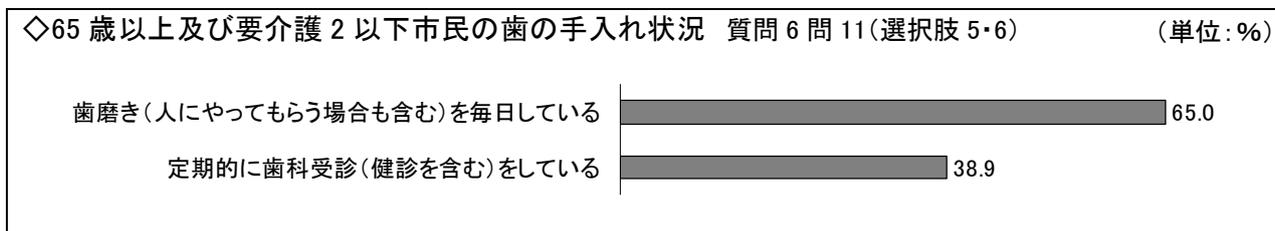


『65歳以上及び要介護2以下市民』に心身状況を尋ねた問の中では「6カ月間で体重が2kg以上減った」と答えた人は数パーセントながら、「口の渴きが気になることがある」が2割弱、「お茶や汁物でむせることがある」「半年前に比べて堅いものが食べにくくなった」が1割台半ばみられます。



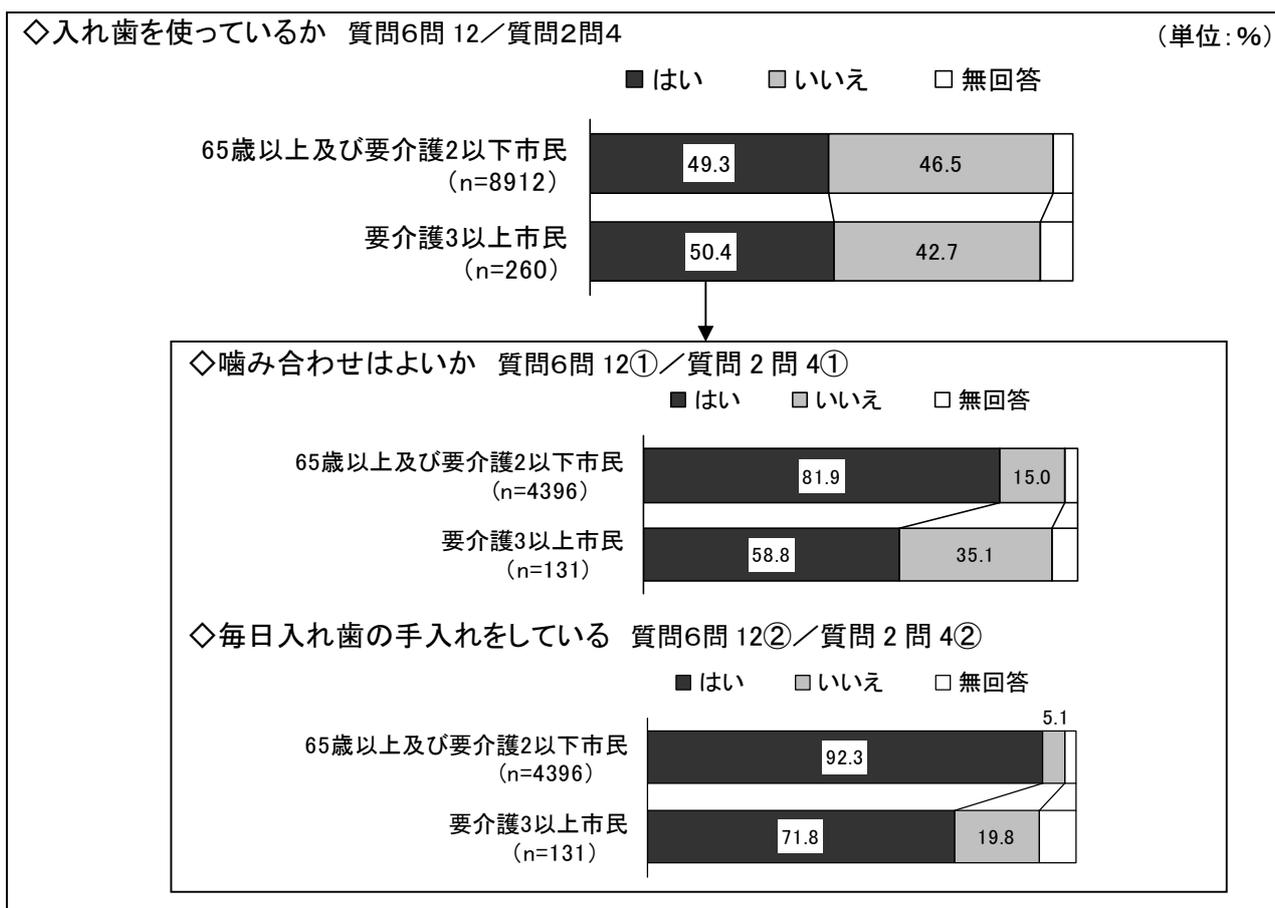
BMI (Body Mass Index) は、体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) で算出される体重 (体格) 指標のことで、それが約 22 (kg/m/m) においてもっとも有病率が低くなるとされています。

『65歳以上及び要介護2以下市民』に心身状況を尋ねた問の中で「毎日歯磨きをしている」と答えた人は6割台半ば、「定期的に歯科受診（健診をしている）」と答えた人は4割弱みられました。

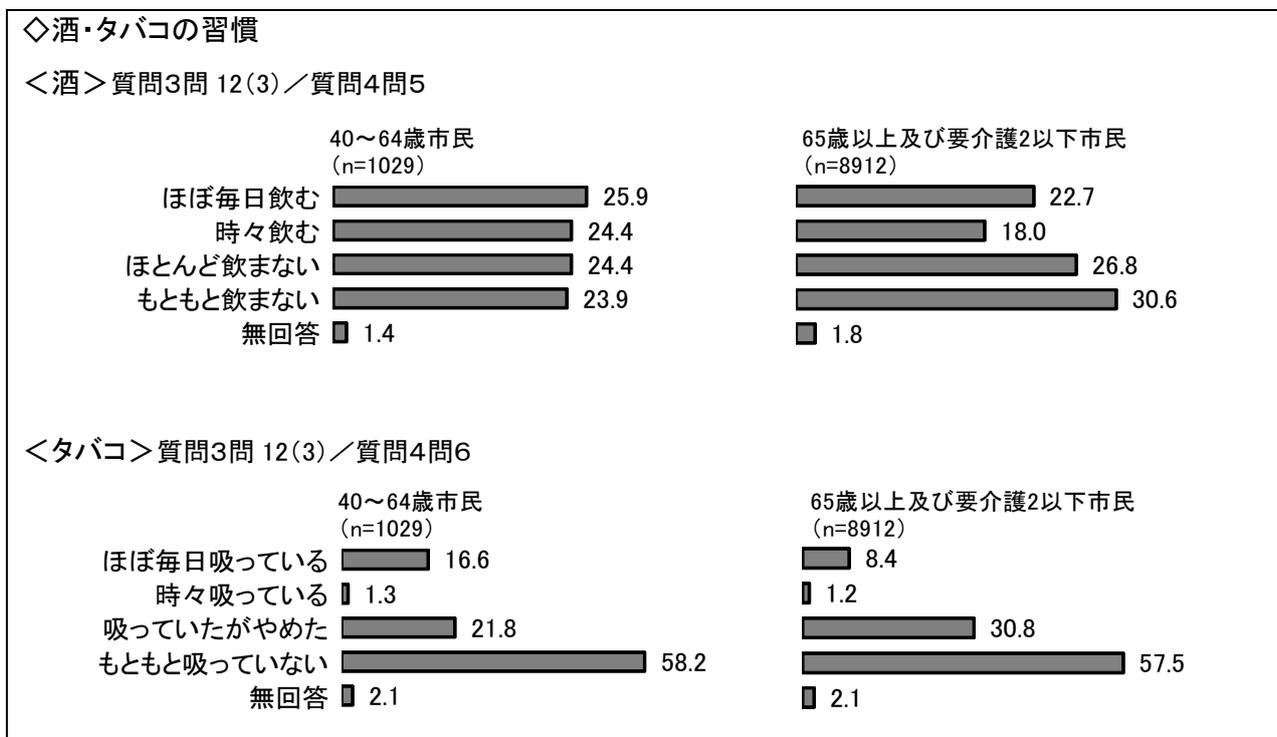


『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』に入れ歯の使用状況を尋ねたところ、約5割が入れ歯を使っていると答えました。

入れ歯使用者の噛み合わせは、『65歳以上及び要介護2以下市民』では約8割、『要介護3以上市民』では約6割が「よい」と答えています。毎日の手入れは『65歳以上及び要介護2以下市民』ではほとんどが行っていますが、『要介護3以上市民』では行っていない人も少なくありません。



『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』に酒・タバコの習慣を尋ねたところ、飲酒の習慣がある人は40～64歳の約5割、65歳以上の約4割、喫煙の習慣がある人は40～64歳の2割弱、65歳以上では約1割となっています。



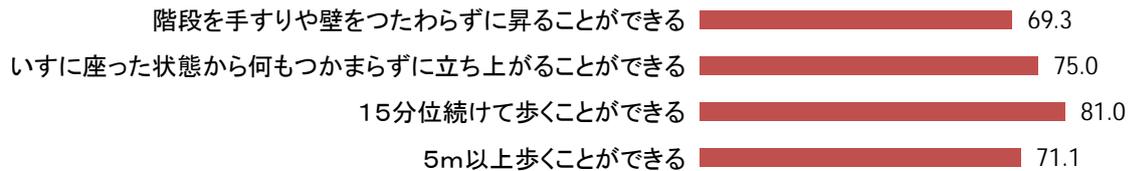
【参考】平成24年の「国民健康・栄養調査結果」(厚生労働省)によると、20歳以上で習慣的に喫煙している人の割合は20.7%(最多層は30～40歳代男性43.2%)、習慣的に飲酒している人の割合は19.7%(生活習慣病リスクを高める量を飲酒している最多層は50歳代男性22.0%)となっています。

#### (4) 心身機能

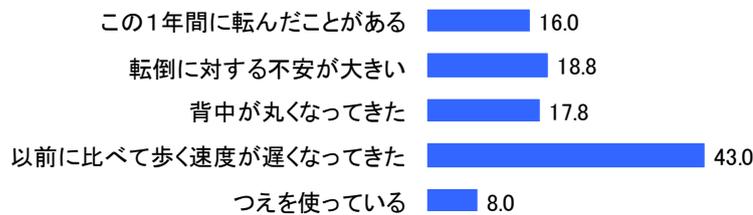
『65歳以上及び要介護2以下市民』を中心に心身機能のチェックに関わる様々な項目を尋ねたところ、歩行をはじめとする機能が保たれている人、その日の行動の判断が自らできる人が多いものの、「以前に比べて歩く速度が遅くなってきた」という人が4割強、「以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」という人が3割台半ばみられるなど、心身機能の衰えを感じている人が少なくない状況が示されました。

65歳以上及び要介護2以下市民の心身機能(n=8912) (単位:%)

##### <運動機能について> 質問4問8(選択肢1~4)



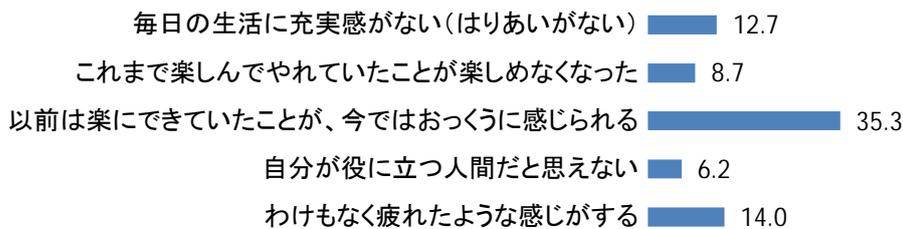
##### <転倒について> 質問4問9(選択肢1~5)



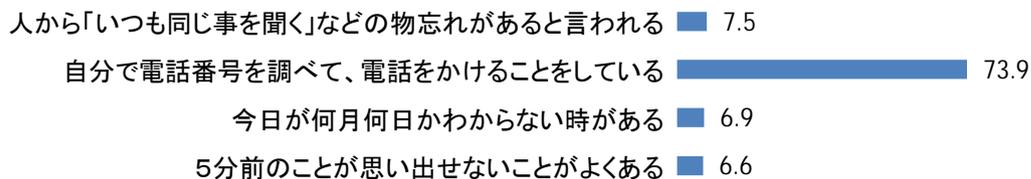
##### <外出について> 質問4問8(選択肢5・6)



##### <直近2週間の心の様子について> 質問4問7(選択肢1~5)



##### <物忘れについて> 質問4問16(選択肢1~4)



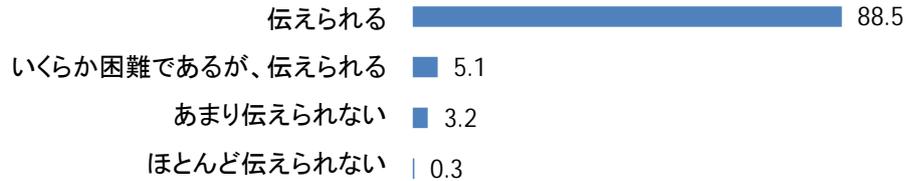
##### <その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)の判断> 質問4問17



(次ページに続く)

(前ページからの続き)

<人に自分の考えを伝える> 質問4問 18



### 【自由記述より】

現在の健康を保ち、できる限り今の生活を保っていきたい。  
老いは足元からと耳にしていたが、不覚にも石段で転倒しかかり半月板を痛み、生活の不自由を年々感じている。  
まだ仕事ができているので深く考えたことはないが、だんだん体の動きが悪くなってきているので、今、何をしておかなければいけないのか考えてみたい。  
身体について変化や異常を感じた時、気軽に相談できる総合的なベテランの医師の存在がほしい。病院が近くにほしい。いい医師・病院の情報も知りたい。  
会社員時代は年1回健康診断があり、しかも健康保険が使えて無料だった。病気が発見され治療もできた。退職してからは健診もしていない。高齢者向けの健診を実施(案内)してほしい。  
市の健康診断も無料だと70歳を過ぎた私たちは受けない方がいいのかなと思う。せめて半額でも取ってもらえたら気持ちよく受けられるのだが。  
母がアルツハイマーで弟と看ている。まわりも家族に1人は認知症の方がいる。20年後は自分たちも同じようになると先生に言われてショック。予防策を教えていただきたい。  
認知症に対しての不安がある。認知症検査のようなものがあるとよい。認知症講座は、広報でみて直ぐ連絡しても、人数制限で聴けていない。

この調査は、介護予防の推進に向けて全国的に取り組まれている65歳以上を対象とする健康・生活機能評価項目を満たすものであり、白井市でも実施している生活機能評価基本チェック(心と体の元気度チェック)項目を含んでいます。白井市では、これを『40~64歳市民』にも簡易な形(質問3問11)で聞いており、『65歳以上及び要介護2以下市民』の回答状況と並べて年齢及び介護の必要度別に評価結果を算出しました。

次ページがその結果です。両調査は回答形式が異なるため、そのまま比較することはできませんが、年齢や介護度による心身機能、生活機能の変化を追う一定の手がかりとすることはできます。

回答状況には、65歳以上になると元気な人でも「友人宅を訪問しない」「以前楽にできたことが今はおっくう」といった暮らしぶりや心の様子の変化が示されています。栄養・口腔機能のように緩やかに低下していく項目もありますが、運動機能や知的・精神的な機能は介護の必要度によって大きく変化する分野となっています。そして、転倒や物忘れなど、機能低下によって問題が表出するようになると介護認定の申請へと至っていく様子が数字にも示されています。

ここで介護予防を重点的に行う要支援認定者に注目すると「これまで楽しめたことが楽しめない」「わけもなく疲れたような感じがする」との実感が最も高くなっているものの、認定調査・審査中の人や要介護1・2の人と比べるとリスクが低い項目が多く、サービス利用などにより機能の維持・改善が図られている成果とみることもできます。

【内訳】生活機能評価基本チェック(心と身体の元気度チェック)リストへの回答状況

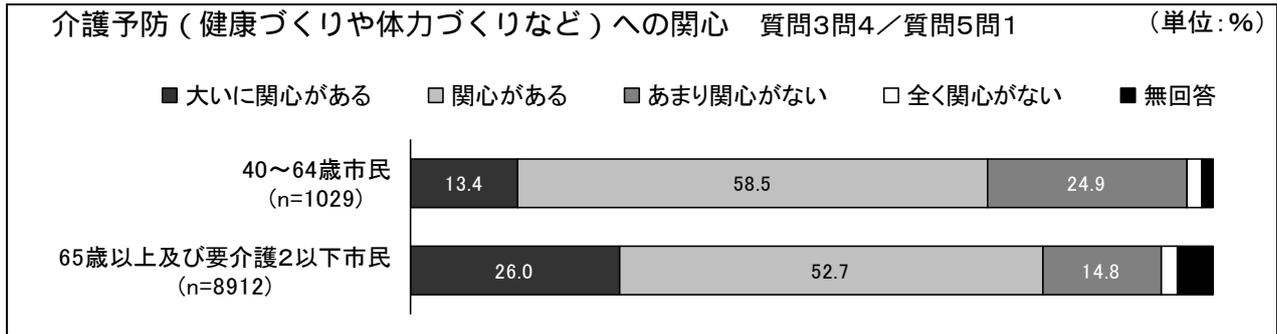
「はい」と答えた率 (単位: %)		40-64 歳市民 (認定なし) N=1028	65 歳以上及び要介護 2 以下市民				
			認定なし		認定調査・ 審査中 N=22	認定あり	
			元気高齢者 N=7122	介護・介助 が必要 N=574		要支援 1・2 N=316	要介護 1・2 N=278
暮らしがら	バスや電車で1人で外出しない	1.1	6.8	34.5	50.0	56.6	86.7
	日用品の買い物をしていない	0.5	4.1	26.8	45.5	44.0	79.9
	預貯金の出し入れをしていない	0.6	11.0	28.9	45.5	38.0	76.3
	友人宅を訪問しない	10.0	43.8	57.1	63.6	76.3	86.0
	家族や友人の相談対応をしていない	0.5	19.1	40.8	40.9	53.2	70.5
運動機能	階段を手すりや壁をつたわずに昇れない	1.4	21.8	60.3	81.8	88.3	87.8
	椅子から何もつかまらずに立ち上がれない	0.9	18.0	44.3	72.7	69.0	72.3
	15分位続けて歩ける	0.6	12.7	36.9	63.6	50.3	63.7
	この1年間に転んだことがある	5.7	13.3	24.0	54.5	33.5	42.1
	転倒に対する不安がある	2.4	13.5	38.7	45.5	59.2	57.6
栄養口腔	6か月間で2kg以上の体重減少あり	4.6	4.9	10.5	13.6	13.9	12.9
	半年前より堅いものが食べにくくなった	1.9	11.3	26.7	31.8	34.8	36.3
	お茶や汁物等でむせることがある	5.0	14.1	21.3	31.8	31.6	33.5
	口の渇きが気になる	5.4	16.7	29.3	27.3	35.8	29.9
物忘れ	周りの人から物忘れがあると言われる	1.7	5.2	14.6	36.4	16.5	40.6
	自分で番号を調べて電話をかけていない	0.1	23.1	27.4	54.5	63.3	38.8
	今日の日付がわからなくなる時がある	1.5	4.5	13.8	18.2	17.7	37.8
心の様子	【ここ2週間】						
	毎日の生活に充実感がない	4.3	10.6	20.9	31.8	30.4	30.9
	これまで楽しめたことが楽しめない	2.0	6.1	23.2	22.7	26.3	25.9
	以前楽にできたことが今はおっくう	5.6	31.1	57.1	72.7	65.8	60.8
	自分が役に立つ人間と思えない	2.1	4.1	13.2	18.2	21.5	22.3
わけもなく疲れたような感じがする	6.0	10.9	28.0	22.7	34.8	31.3	

注) 項目間の比較を容易にするため、アンケートの設問では「できる・している」の聞き方が混在しているため、全て「できない」に換算(100.0%から「できない・していない」との回答率を除いた値を掲載)しています。

## 4 介護予防について

### (1) 介護予防への関心

『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』に介護予防（健康づくりや体力づくりなど）への関心を尋ねたところ、関心を持っている人が7割台に上がりました。内訳をみると、性別では女性、年齢別では65～84歳、介護の必要度別では要支援1・2認定者で特に関心が高くなっています。

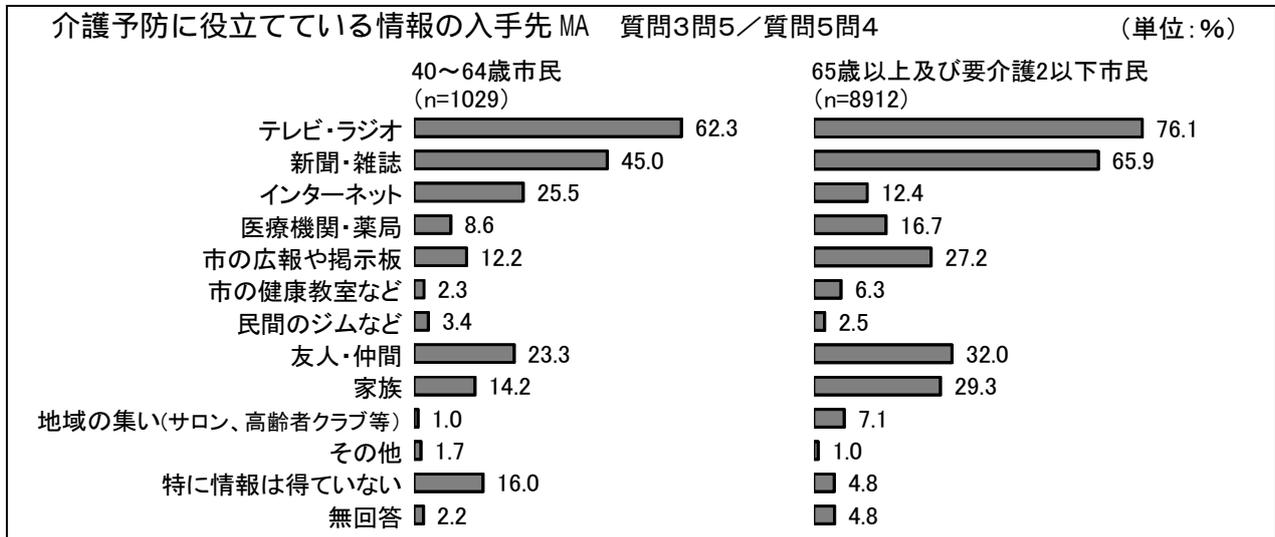


### 【内訳】介護予防への関心(性・年齢・介護の必要度別)

		上段:件 下段:%	全体	大いに関心 がある	関心がある	あまり関心 がない	全く関心が ない	無回答	
40～64歳市民	合計		1029	138	602	256	17	16	
			100.0	13.4	58.5	24.9	1.7	1.6	
	性別	男性		430	47	227	140	12	4
				100.0	10.9	52.8	32.6	2.8	0.9
	女性			577	87	365	110	4	11
				100.0	15.1	63.3	19.1	0.7	1.9
	年齢	40～49歳		387	46	209	122	6	4
			100.0	11.9	54.0	31.5	1.6	1.0	
50～59歳			332	54	193	77	6	2	
			100.0	16.3	58.1	23.2	1.8	0.6	
60～64歳			284	34	188	50	4	8	
			100.0	12.0	66.2	17.6	1.4	2.8	
65歳以上及び要介護2以下市民	合計		8912	2321	4694	1318	189	390	
			100.0	26.0	52.7	14.8	2.1	4.4	
	性別	男性		4248	1005	2261	737	112	133
				100.0	23.7	53.2	17.3	2.6	3.1
	女性			4512	1300	2370	557	72	213
				100.0	28.8	52.5	12.3	1.6	4.7
	年齢	64歳以下		26	5	15	3	2	1
				100.0	19.2	57.7	11.5	7.7	3.8
		65～74歳		5674	1464	3118	817	93	182
				100.0	25.8	55.0	14.4	1.6	3.2
	75～84歳		2482	709	1244	359	47	123	
			100.0	28.6	50.1	14.5	1.9	5.0	
	85歳以上		580	119	257	119	43	42	
			100.0	20.5	44.3	20.5	7.4	7.2	
要介護状況	元気高齢者		7122	1916	3864	1020	125	197	
			100.0	26.9	54.3	14.3	1.8	2.8	
	介護・介助が必要 (認定なし)		574	131	293	98	15	37	
			100.0	22.8	51.0	17.1	2.6	6.4	
	認定調査・審査中		22	5	9	2	2	4	
			100.0	22.7	40.9	9.1	9.1	18.2	
要支援1・2		316	97	156	42	7	14		
		100.0	30.7	49.4	13.3	2.2	4.4		
要介護1・2		278	42	124	71	23	18		
		100.0	15.1	44.6	25.5	8.3	6.5		

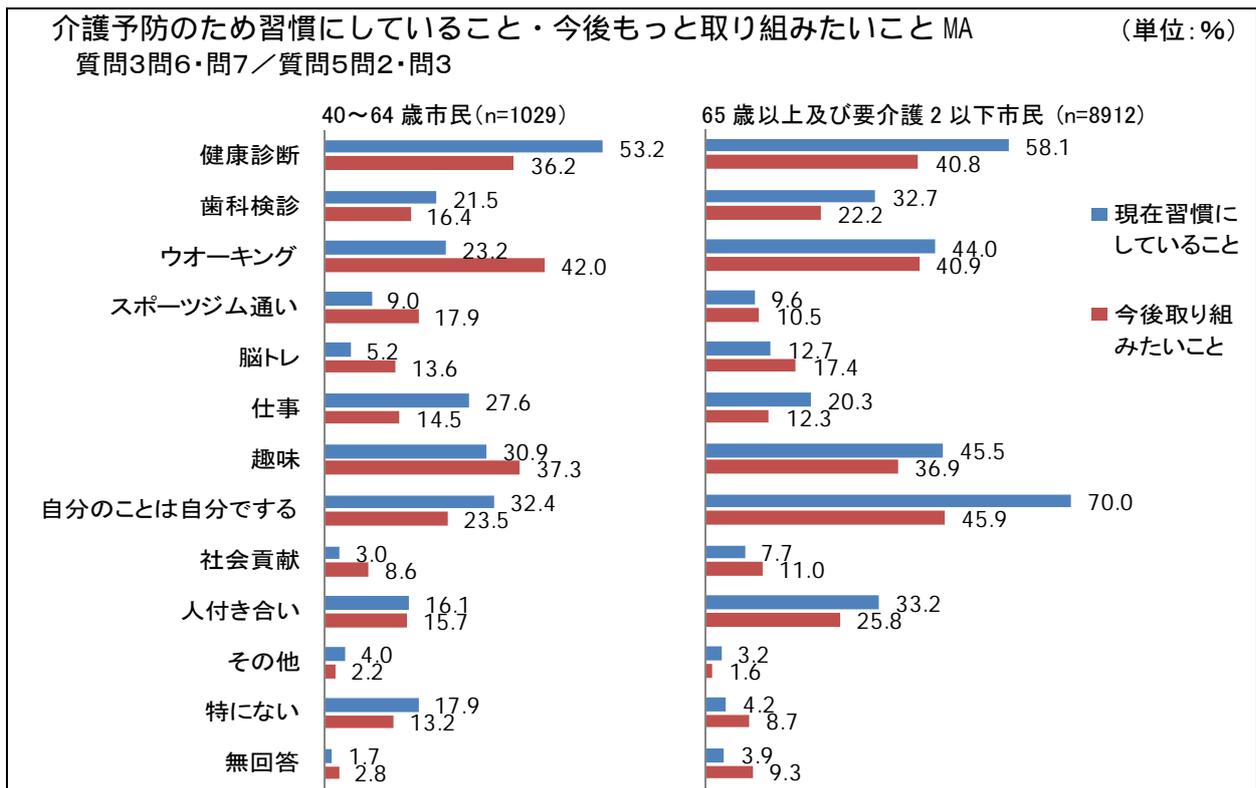
## (2) 介護予防への取組

介護予防に役立っている情報の入手先は、いずれも「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」といったマスコミ情報がメインで、これに次いで『65歳以上及び要介護2以下市民』は「友人・仲間」「家族」「市の広報や掲示板」、『40～64歳市民』は「インターネット」をあげています。

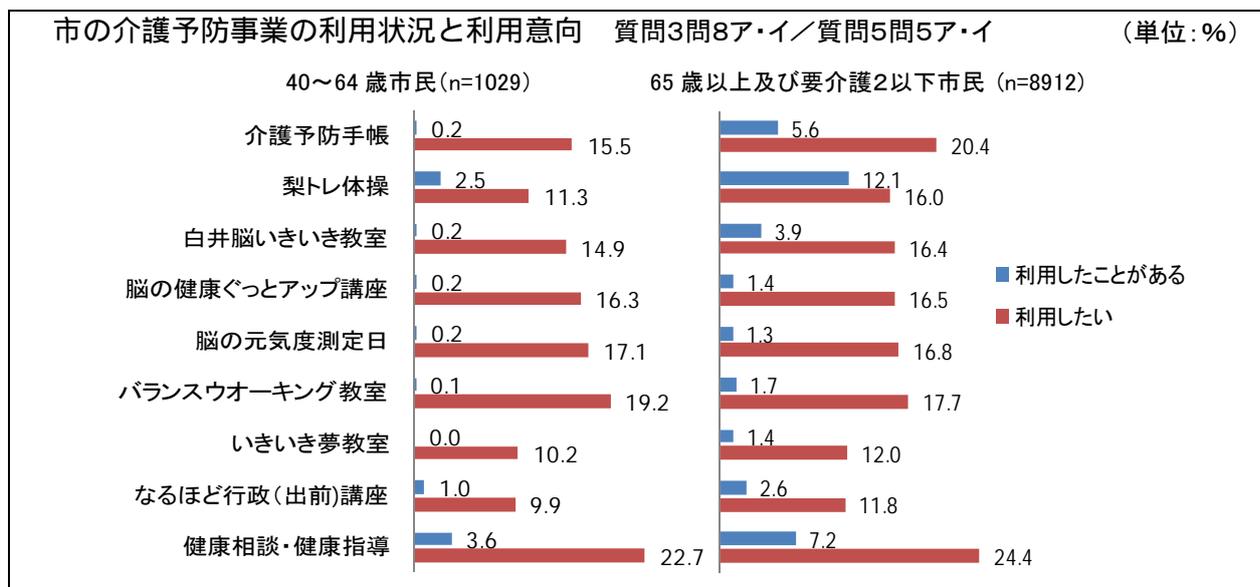


介護予防のため習慣にしていることとして『65歳以上及び要介護2以下市民』は「自分のことは自分です」「健康診断」「趣味」「ウォーキング」、『40～64歳市民』は「健康診断」「自分のことは自分です」「趣味」「仕事」の順であげています。

今後取り組みたいこととして『65歳以上及び要介護2以下市民』が「自分のことは自分です」に次いで「ウォーキング」「健康診断」、『40～64歳市民』は「ウォーキング」「趣味」「健康診断」を挙げており、生活習慣、運動、生きがいを重視している様子がうかがわれます。



市の介護予防事業との関わりをみると、『40～64歳市民』では、未利用ながらも「梨トレ体操」と「健康相談・健康指導」の認知度が他の事業に比べて高くなっています。『65歳以上及び要介護2以下市民』ではいずれの事業の認知度も『40～64歳市民』に比べて多くなっていますが、特に「介護予防手帳」の認知度が高くなっています。今後の意向をみると各事業とも「利用したい」と答えている人が一定の割合で見られます。特に、健康相談、介護予防手帳、バランスウォーキング教室などへの関心の高さが注目されます。



【内訳】市の介護予防事業利用状況と利用意向

事業名	上段:件 下段:%	全体	ア.利用状況				イ.利用意向			
			利用したことがある	知っているが未利用	内容を知らない	無回答	利用したい	利用したいと思わない	わからない	無回答
40～64歳市民	介護予防手帳	1029	2	73	922	32	160	104	708	57
		100.0	0.2	7.1	89.6	3.1	15.5	10.1	68.8	5.5
	梨トレ体操	1029	26	148	825	30	116	158	695	60
		100.0	2.5	14.4	80.2	2.9	11.3	15.4	67.5	5.8
	白井脳いきいき教室	1029	2	78	917	32	153	125	698	53
		100.0	0.2	7.6	89.1	3.1	14.9	12.1	67.8	5.2
	脳の健康ぐっとアップ講座	1029	2	34	960	33	168	125	682	54
		100.0	0.2	3.3	93.3	3.2	16.3	12.1	66.3	5.2
	脳の元気度測定日	1029	2	31	962	34	176	117	683	53
		100.0	0.2	3.0	93.5	3.3	17.1	11.4	66.4	5.2
	バランスウォーキング教室	1029	1	36	958	34	198	118	662	51
		100.0	0.1	3.5	93.1	3.3	19.2	11.5	64.3	5.0
いきいき夢教室	1029	0	25	968	36	105	129	737	58	
	100.0	0.0	2.4	94.1	3.5	10.2	12.5	71.6	5.6	
なるほど行政(出前)講座	1029	10	51	933	35	102	140	726	61	
	100.0	1.0	5.0	90.7	3.4	9.9	13.6	70.6	5.9	
健康相談・健康指導	1029	37	252	708	32	233	103	637	56	
	100.0	3.6	24.5	68.8	3.1	22.6	10.0	61.9	5.4	
65歳以上及び要介護2以下市民	介護予防手帳	8912	495	2375	4284	1758	1815	1126	3545	2426
		100.0	5.6	26.6	48.1	19.7	20.4	12.6	39.8	27.2
	梨トレ体操	8912	1081	1842	4246	1743	1428	1514	3403	2567
		100.0	12.1	20.7	47.6	19.6	16.0	17.0	38.2	28.8
	白井脳いきいき教室	8912	351	1543	5019	1999	1466	1334	3628	2484
		100.0	3.9	17.3	56.3	22.4	16.4	15.0	40.7	27.9
	脳の健康ぐっとアップ講座	8912	126	940	5695	2151	1469	1260	3676	2507
		100.0	1.4	10.5	63.9	24.1	16.5	14.1	41.2	28.1
	脳の元気度測定日	8912	117	844	5797	2154	1501	1227	3660	2524
		100.0	1.3	9.5	65.0	24.2	16.8	13.8	41.1	28.3
	バランスウォーキング教室	8912	150	905	5707	2150	1581	1263	3586	2482
		100.0	1.7	10.2	64.0	24.1	17.7	14.2	40.2	27.9
いきいき夢教室	8912	126	783	5853	2150	1073	1300	3899	2640	
	100.0	1.4	8.8	65.7	24.1	12.0	14.6	43.8	29.6	
なるほど行政(出前)講座	8912	230	878	5613	2191	1049	1291	3887	2685	
	100.0	2.6	9.9	63.0	24.6	11.8	14.5	43.6	30.1	
健康相談・健康指導	8912	638	2535	3742	1997	2172	1049	3270	2421	
	100.0	7.2	28.4	42.0	22.4	24.4	11.8	36.7	27.2	

市の介護予防事業について『65歳以上及び要介護2以下市民』の利用意向を現在の利用状況別にみると、各事業とも利用経験のある人の4～6割、知っているが未利用という人の2～3割、内容を知らない人の1～2割が今後の利用意向を示しています。特に「なるほど行政(出前)講座」「健康相談・健康指導」の利用経験者は6割以上がまた利用したいと考えていることがわかりました。

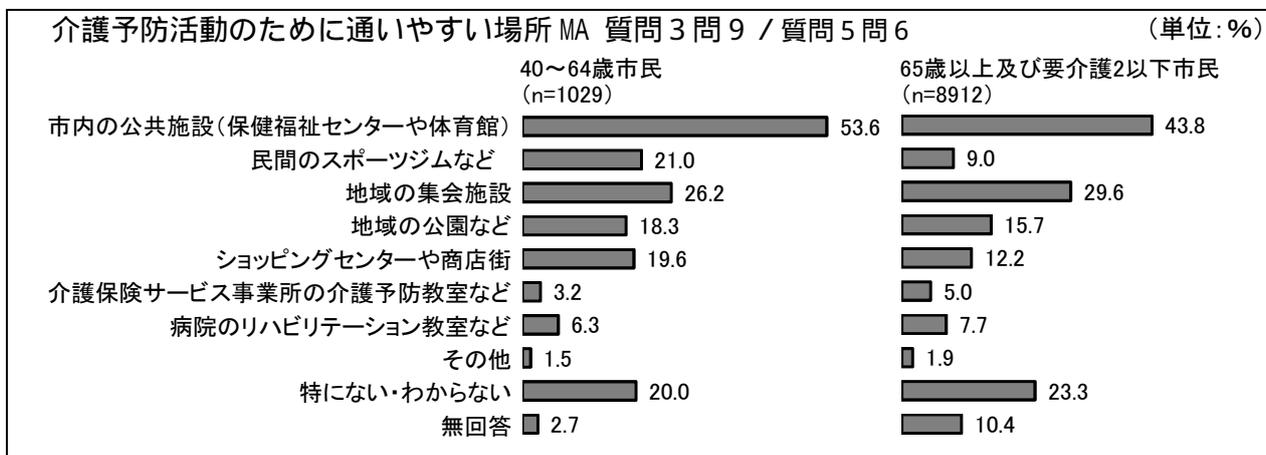
【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の利用意向の動向(無回答を除く)

利用したことがある方	利用したことがある(ア)	今後も利用したい(イ)	利用したいと思わない	わからない	(イ)/(ア)
	人	人	人	人	%
介護予防手帳	495	244	23	49	49.3
梨トレ体操	1081	532	82	110	49.2
白井脳いきいき教室	351	161	0	48	45.9
脳の健康ぐっとアップ講座	126	64	11	16	50.8
脳の元気度測定日	117	65	6	14	55.6
バランスウォーキング教室	150	88	7	9	58.7
いきいき夢教室	216	54	4	7	25.0
なるほど行政(出前)講座	230	146	5	25	63.5
健康相談・健康指導	638	392	30	63	61.4

知っているが未利用の方	知っているが未利用(ア)	今後利用したい(イ)	利用したいと思わない	わからない	(イ)/(ア)
	人	人	人	人	%
介護予防手帳	2375	695	407	885	29.3
梨トレ体操	1842	384	461	722	20.8
白井脳いきいき教室	1543	448	320	548	29.0
脳の健康ぐっとアップ講座	940	274	200	328	29.1
脳の元気度測定日	844	244	185	288	28.9
バランスウォーキング教室	905	275	186	309	30.4
いきいき夢教室	783	182	177	291	23.2
なるほど行政(出前)講座	878	196	198	361	22.3
健康相談・健康指導	2535	907	346	1009	35.8

内容を知らない方	内容を知らない(ア)	今後利用したい(イ)	利用したいと思わない	わからない	(イ)/(ア)
	人	人	人	人	%
介護予防手帳	4284	765	652	2522	17.9
梨トレ体操	4246	460	912	2497	10.8
白井脳いきいき教室	5019	758	917	2942	15.1
脳の健康ぐっとアップ講座	5695	999	982	3226	17.5
脳の元気度測定日	5797	1048	975	3254	18.1
バランスウォーキング教室	5707	1076	1005	3158	18.9
いきいき夢教室	5853	742	1048	3491	12.7
なるほど行政(出前)講座	5613	637	1019	3387	11.3
健康相談・健康指導	3742	709	616	2111	18.9

『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』に介護予防活動のために通  
 いやすい場所を尋ねたところ、ともに「市の公共施設」が最も多くなっており、「地域  
 の集会施設」が続いています。40～50歳代を中心に、「地域の公園など」とともに「民  
 間のスポーツジム」「ショッピングセンターや商店街」などもみられます。また、居住  
 地区や介護の必要度などによっても通いやすい場所が異なります。



【内訳】介護予防のために通いやすい場所(その他・特にない・無回答を除き、65歳以上の回答で多い順に)

	上段:件 下段:%	全体	市内の公共施設 (保健福祉セン ターや体育館)	地域の集会 施設	地域の公園 など	ショッピングセ ンターや商店街	民間のスポー ツジムなど	病院のリハビリ テーション教室 など	介護保険サービ ス事業所の介護 予防教室など	
40歳以上市民	合計	1029 100.0	552 53.6	270 26.2	188 18.3	202 19.6	216 21.0	65 6.3	33 3.2	
	性別									
	男性	430 100.0	219 50.9	74 17.2	70 16.3	72 16.7	83 19.3	18 4.2	11 2.6	
	女性	577 100.0	323 56.0	190 32.9	117 20.3	126 21.8	127 22.0	46 8.0	21 3.6	
	年齢									
	40～49歳	387 100.0	212 54.8	96 24.8	81 20.9	81 20.9	95 24.5	29 7.5	11 2.8	
	50～59歳	332 100.0	189 56.9	90 27.1	54 16.3	66 19.9	83 25.0	23 6.9	12 3.6	
	60～64歳	284 100.0	136 47.9	76 26.8	51 18.0	48 16.9	34 12.0	12 4.2	9 3.2	
	65歳以上及び要介護2以下市民	合計	8912 100.0	3904 43.8	2637 29.6	1395 15.7	1087 12.2	805 9.0	690 7.7	447 5.0
性別										
男性		4248 100.0	2043 48.1	1110 26.1	797 18.8	528 12.4	411 9.7	313 7.4	192 4.5	
女性		4512 100.0	1824 40.4	1511 33.5	590 13.1	545 12.1	389 8.6	366 8.1	251 5.6	
年齢										
64歳以下		26 100.0	9 34.6	3 11.5	2 7.7	3 11.5	1 3.8	3 11.5	1 3.8	
65～74歳		5674 100.0	2850 50.2	1772 31.2	1052 18.5	770 13.6	670 11.8	355 6.3	234 4.1	
75～84歳		2482 100.0	905 36.5	719 29.0	303 12.2	261 10.5	127 5.1	251 10.1	151 6.1	
85歳以上		580 100.0	108 18.6	118 20.3	30 5.2	40 6.9	3 0.5	71 12.2	58 10.0	
居住地区										
第一小学校区		763 100.0	282 37.0	163 21.4	71 9.3	79 10.4	39 5.1	52 6.8	35 4.6	
第二小学校区		568 100.0	130 22.9	115 20.2	32 5.6	53 9.3	20 3.5	33 5.8	15 2.6	
第三小学校区		1193 100.0	428 35.9	363 30.4	158 13.2	134 11.2	86 7.2	99 8.3	64 5.4	
大山口小学校区		1198 100.0	560 46.7	425 35.5	242 20.2	142 11.9	121 10.1	79 6.6	59 4.9	
清水口小学校区		1261 100.0	644 51.1	468 37.1	277 22.0	144 11.4	136 10.8	90 7.1	55 4.4	
南山小学校区		1273 100.0	691 54.3	371 29.1	186 14.6	172 13.5	115 9.0	130 10.2	58 4.6	
七次台小学校区		592 100.0	302 51.0	202 34.1	129 21.8	68 11.5	63 10.6	43 7.3	40 6.8	
池の上小学校区		1147 100.0	567 49.4	299 26.1	194 16.9	140 12.2	128 11.2	103 9.0	67 5.8	
桜台小学校区		635 100.0	223 35.1	192 30.2	87 13.7	124 19.5	80 12.6	40 6.3	39 6.1	
要介護状況										
元気高齢者		7122 100.0	3454 48.5	2272 31.9	1265 17.8	926 13.0	744 10.4	472 6.6	269 3.8	
介護・介助が必要 (認定なし)	574 100.0	162 28.2	142 24.7	59 10.3	63 11.0	9 1.6	85 14.8	32 5.6		
認定調査・審査中	22 100.0	5 22.7	8 36.4	3 13.6	3 13.6	0 0.0	2 9.1	4 18.2		
要支援1・2	316 100.0	85 26.9	84 26.6	15 4.7	31 9.8	11 3.5	58 18.4	61 19.3		
要介護1・2	278 100.0	55 19.8	38 13.7	16 5.8	16 5.8	5 1.8	54 19.4	64 23.0		

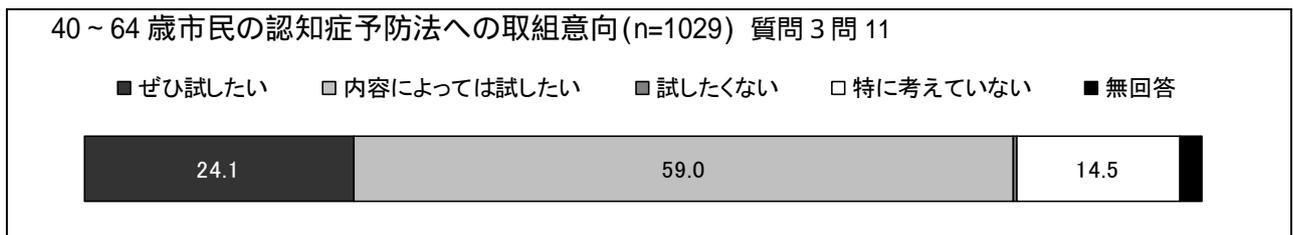
### (3) 認知症に対する認識

認知症に対する認識が浸透し、「脳の障害により記憶力・判断力・理解力が低下する病気で、多くの人がかかる可能性がある」という認識を高年齢者及び高齢準備期にある市民の9割以上が持っていますが、徘徊や混乱などをどう受け止め、対応したらいいかについては未だ理解を進める余地があります。

40～64歳市民・65歳以上及び要介護2以下市民の認知症に対する認知状況 質問3問10/質問6問6  
(「n」は回答者数(人) その他は%)

項目	回答者区分	(n)	知っていた	知らなかった	無回答
脳の障害によって、記憶力・判断力・理解力が低下する病気で、多くの人がかかる可能性がある	40～64歳市民	1029	93.4	5.0	1.7
	元気高齢者	7122	91.9	4.2	4.0
	介護・介助が必要(認定なし)	574	77.4	11.0	11.7
	認定調査・審査中	22	68.2	27.3	4.5
	要支援1・2	316	83.2	6.6	10.1
	要介護1・2	278	73.7	19.8	6.5
原因や状態によっては早期に発見し、適切な治療を受けることによって症状を軽くしたり、進行を遅らせることができる	40～64歳市民	1029	89.7	8.5	1.8
	元気高齢者	7122	89.0	6.7	4.3
	介護・介助が必要(認定なし)	574	69.5	15.7	14.8
	認定調査・審査中	22	59.1	36.4	4.5
	要支援1・2	316	76.6	13.3	10.1
	要介護1・2	278	64.0	27.7	8.3
何もわからなくなってしまうわけではなく、感情やプライドは保たれるため、本人は多くの不安や混乱を抱えている	40～64歳市民	1029	78.3	19.8	1.8
	元気高齢者	7122	77.6	15.9	6.5
	介護・介助が必要(認定なし)	574	59.8	22.0	18.3
	認定調査・審査中	22	45.5	50.0	4.5
	要支援1・2	316	66.1	19.0	14.9
	要介護1・2	278	56.1	34.9	9.0
環境の変化への適応が難しくなるため、住み慣れた家庭や地域の暮らしの中で、生活することが大切である	40～64歳市民	1029	77.3	20.9	1.8
	元気高齢者	7122	83.0	10.8	6.2
	介護・介助が必要(認定なし)	574	67.6	15.0	17.4
	認定調査・審査中	22	59.1	36.4	4.5
	要支援1・2	316	72.5	14.2	13.3
	要介護1・2	278	65.5	25.5	9.0
徘徊(はいかい)などの行動には原因があり、無理に抑え込むのではなく、接し方を工夫したり、周りの環境を整えることが大切である	40～64歳市民	1029	68.3	29.9	1.7
	元気高齢者	7122	75.3	18.5	6.2
	介護・介助が必要(認定なし)	574	59.4	23.2	17.4
	認定調査・審査中	22	50.0	45.5	4.5
	要支援1・2	316	64.6	21.5	13.9
	要介護1・2	278	52.9	37.8	9.4

高齢準備期にある『40～64歳以上市民』に、生活習慣の改善など効果的な認知症予防法があれば試してみたいかどうか尋ねたところ、8割以上の人々が前向きな意向を示しました。



## 【自由記述より】

### <介護予防の大切さ>

40歳になったばかりの私にアンケートが届き、介護や高齢者福祉について日頃考えていないことに気づいた。早いうちから意識をもって介護予防に努めることが大切と思う。高齢者対象ばかりではなく、働き盛り、育児中の人たちも参加しやすい予防講座や指導を充実させてほしい。

要介護予備（60～65才）に健康管理の知識を取得させること。健康・医療フォーラム等を定期的に開催しその結果を競う場を設け表彰するなど。

転ばぬ先の杖として、ある年齢になったら健康体操などを半ば強制的にやれる場所があるとよい。

### <介護予防に取り組めるまちづくりを>

高齢者だけでなく、ラジオ体操や太極拳など健康につながるようなことを駐車場などで週1回でもできるとよい。白井青空健康クラブなど。

高齢になっても体や手足を使って物作りなどして、脳を使う指導者と近くの施設がほしい。なるべく毎日開いている施設、農産物などの手伝いなど（野菜を束ねたり）。

高齢者を外に引っ張り出す手段としての畑作業、仲間づくりには最適。つくる喜びを自分で確保し、楽しみたい。積極的な遊休地利用を。

教室・講座のような日常性がなく面白くないことでは継続性に無理がある。カラオケや本の音読など何種類かの中から好きなものを選択して楽しむ継続性あるグループ活動を提案したい。

楽器（ギター等）で音を出せる場所があるとよい。申請不要の出入り自由な仕組みがよい。

各地区に運動ができる施設をつくってほしい。ランニングマシーンだけでもよい。

現役世代。時間ができたら、今までなかなかできなかった運動などをしたいと考えている。わざわざジム・スイミングなどに出向かなくても、近所の公園等に体を動かせるような物が設置されていれば、誰でも簡単に利用できる。皆がジムやスイミングに行けるわけではない。

ショッピングセンターや商店街、駅等の建物内にあれば利用しやすいと思う。

安心して散歩等ができる歩道、遊歩道、一日ゆっくり出来る森林公園などの整備を。

交通が不便で色々な教室に参加できない人たちのための方法を考えていただけたら嬉しい。例えば、病院に来ている人などに脳トレのプリントを渡すなど。

### <市の介護予防事業について>

広報紙で市が高齢者福祉について色々工夫し、実践している事を知り心強く思っている。梨トレ体操等は色々な場所・場面で披露してほしい。

脳いきいき認知症講座をサロンで受けた。とてもわかりやすく、勉強になった。色々な講座があるとよい。介護予防ファイルは2年以上つけている。

市の「散策・ウォーキング講座」に参加しようとしたが、ほとんど女性で男性がいなかった。男性も参加しやすい企画があるとよい。イベント的なものは性別にも配慮してほしい。

教室や講座に参加してみたいとは思いますが不安で勇気が出ない。特に足が悪いためできるかどうか人間関係も不安。

高齢者が自分自身で健康のことを考え、体制づくりができるよう指導が重要。スキルのある指導員がいて、自然に健康と向き合い、その中で歩いたり、走ったり自転車に乗ったりできるとよい。

地域の集会施設（駅前センターなど）で、介護予防などについて具体的に説明してほしい。

## 【事業者調査より】

65歳以上の予防事業では間に合わない。40歳代、50歳代、青年層が介護予防に関心を深めるきっかけづくり、若年層をターゲットとする講習会などがあるとよい。

地域コミュニティの中で、サロンだけでなく運動等も積極的に取り入れたサークル活動等ができるとよい。専門スタッフがいる中で介護予防から介護への移行の見極めもできるとよい。

## 5 介護・福祉サービス等との関わりについて

### (1) 介護保険制度等の認知状況

『40～64歳市民』に介護保険制度の認知状況を尋ねたところ「少し知っている」と「聞いたことはある」との回答が合わせて8割近くに上っています。「よく知っている」と答えた人は1割強で、年齢が高いほど多くなっています。

40～64歳市民の介護保険制度の認知状況 質問4問3(1)

(単位:%)

■よく知っている ■少し知っている ■聞いたことはある ■知らない ■無回答



#### 【内訳】介護保険制度の認知状況(性・年齢別)

上段:件 下段:%	全体	よく知っ ている	少し知っ ている	聞いたこと はある	知らない	無回答	
合計	1029 100.0	134 13.0	442 43.0	351 34.1	93 9.0	9 0.9	
性別	男性	430 100.0	52 12.1	192 44.7	141 32.8	43 10.0	2 0.5
	女性	577 100.0	79 13.7	242 41.9	199 34.5	50 8.7	7 1.2
年齢	40～49歳	387 100.0	35 9.0	131 33.9	166 42.9	52 13.4	3 0.8
	50～59歳	332 100.0	43 13.0	174 52.4	94 28.3	20 6.0	1 0.3
	60～64歳	284 100.0	48 16.9	125 44.0	85 29.9	21 7.4	5 1.8

#### 【自由記述より】

80歳で一人暮らし。今は元気だが病気になった時に頼る人がいない。そんな時福祉にお願いすることになるが、どうすればよいのかわからない。

認知症の母を介護していた時、手探り状態だった。家族の介護が必要と思った時に、その知識がないことが多いので、もっともっと介護保険のしくみや医療について、やさしく教えていただけるとよい。

サービスを利用する場合その内容をよく知り、理解していないと使えないことが多い。また、高齢者は昔からのイメージや思い込みが強く、子どもの世代とサービスに対する考え方が合わないこともある。子どもの頃から介護保険制度などの理解を広げていく必要がある。

福祉が複雑になり過ぎてしまった。

#### 【事業者調査より】

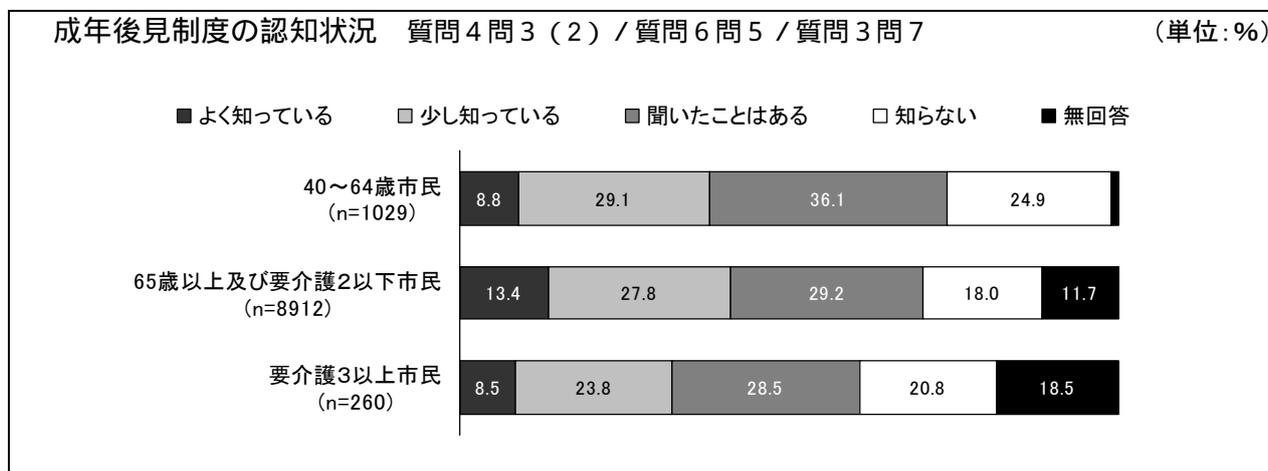
市民の介護保険制度への理解が不足していると感じる。介護保険サービスを利用するには申請し、認定調査・審査を経る必要があるということを知らず、申し込めばすぐに利用できると思っている人もいる。

若い人は、高齢者の問題がわからず、困ってからいきなり相談してくる。退院する時になってはじめて「どうしよう」となるケースも多い。

制度が変わるといっても、現場で働いていると実感がなく、よくわからない。

関連して「成年後見制度」について尋ねたところ、『40～64歳市民』では2割台半ばが「知らない」と答えており、認知度が介護保険制度を下回っています。

『65歳以上及び要介護2以下市民』では、介護・介助を必要としない元気高齢者を中心に「よく知っている」と答えた人も1割半ばみられますが、認定のない介護・介助を必要とする人では「知らない」との回答も3割弱みられます。



【内訳】成年後見制度の認知状況(介護の必要度別)

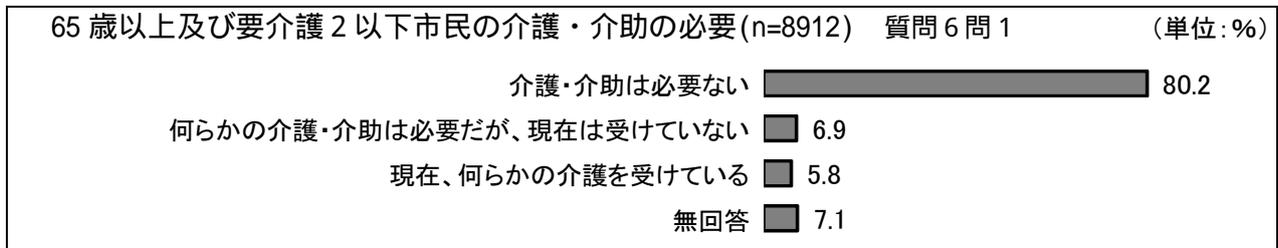
上段:件 下段:%	全体	よく知っ ている	少し知っ ている	聞いたこと はある	知らない	無回答	
40～64歳市民	1029 100.0	91 8.8	299 29.1	371 36.1	256 24.9	12 1.2	
65歳以上及 び要介護2 以下市民	元気高齢者	7122 100.0	1055 14.8	2226 31.3	2193 30.8	1197 16.8	451 6.3
	介護・介助が必要 (認定なし)	574 100.0	49 8.5	87 15.2	166 28.9	162 28.2	110 19.2
	認定調査・審査中	22 100.0	2 9.1	5 22.7	6 27.3	7 31.8	2 9.1
	要支援1・2	316 100.0	35 11.1	75 23.7	94 29.7	69 21.8	43 13.6
	要介護1・2	278 100.0	23 8.3	50 18.0	83 29.9	97 34.9	25 9.0
要介護3以上市民	260 100.0	22 8.5	62 23.8	74 28.5	54 20.8	48 18.5	

成年後見制度とは、認知症等で判断が困難になった方に代って財産管理や契約行為などを行う後見人を選定し、法的に保護・支援する制度。後見人には、家族や親族のほか、弁護士・司法書士・社会福祉士等が選任されます。

## (2) 介護・介助の必要

『65歳以上及び要介護2以下市民』に介護・介助の必要性について尋ねたところ、約8割が「必要ない」と答えました。

介護・介助が必要な人は年齢が高いほど多くなり、85歳以上では「必要ない」は約4割で「必要だが現在は受けていない」2割弱、「介護を受けている」約3割といった割合になっています。

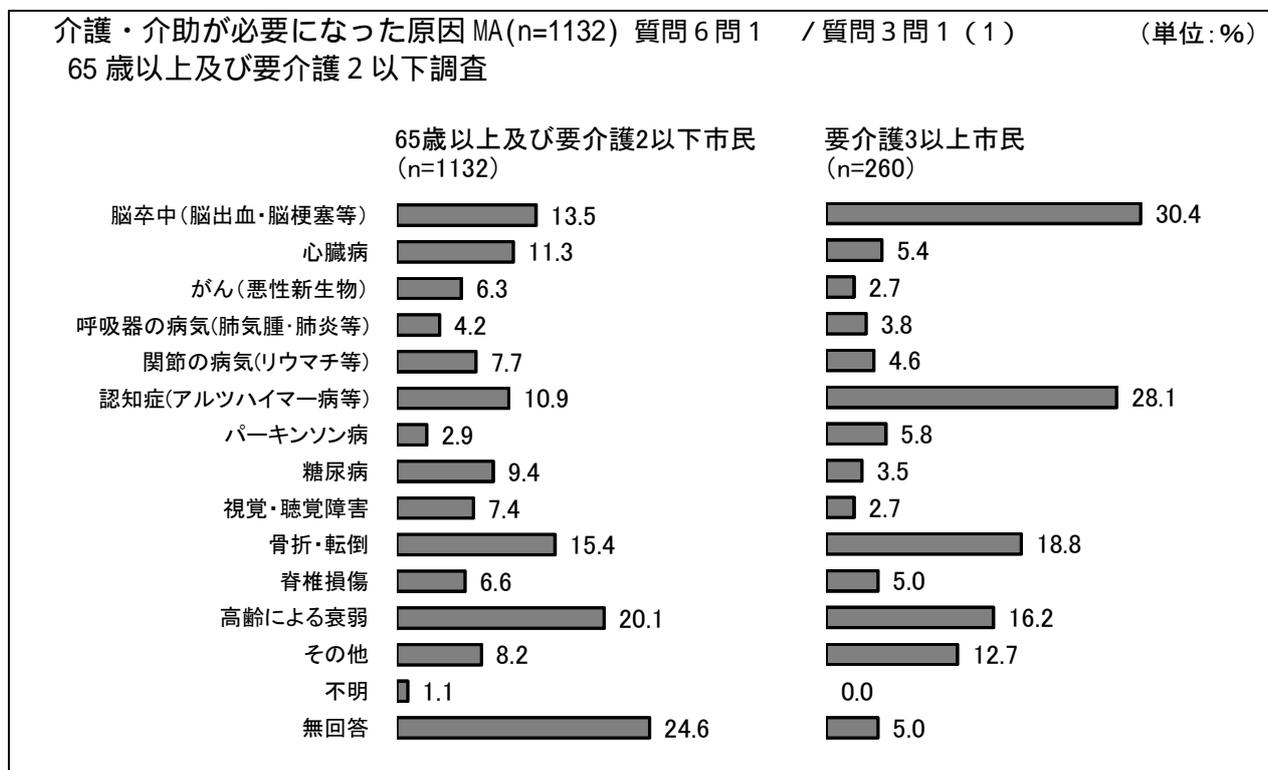


### 【内訳】65歳以上及び要介護2以下市民の介護・介助の必要(性・年齢別)

上段:件 下段:%		全体	介護・介助は必要 ない	何らかの介護・介助 は必要だが、現在 は受けていない	現在、何らかの介 護を受けている	無回答
合計		8912 100.0	7146 80.2	616 6.9	516 5.8	634 7.1
性別	男性	4248 100.0	3572 84.1	270 6.4	166 3.9	240 5.6
	女性	4512 100.0	3509 77.8	323 7.2	332 7.4	348 7.7
年齢	64歳以下	26 100.0	7 26.9	8 30.8	9 34.6	2 7.7
	65～74歳	5674 100.0	5087 89.7	207 3.6	94 1.7	286 5.0
	75～84歳	2482 100.0	1750 70.5	272 11.0	223 9.0	237 9.5
	85歳以上	580 100.0	228 39.3	104 17.9	177 30.5	71 12.2

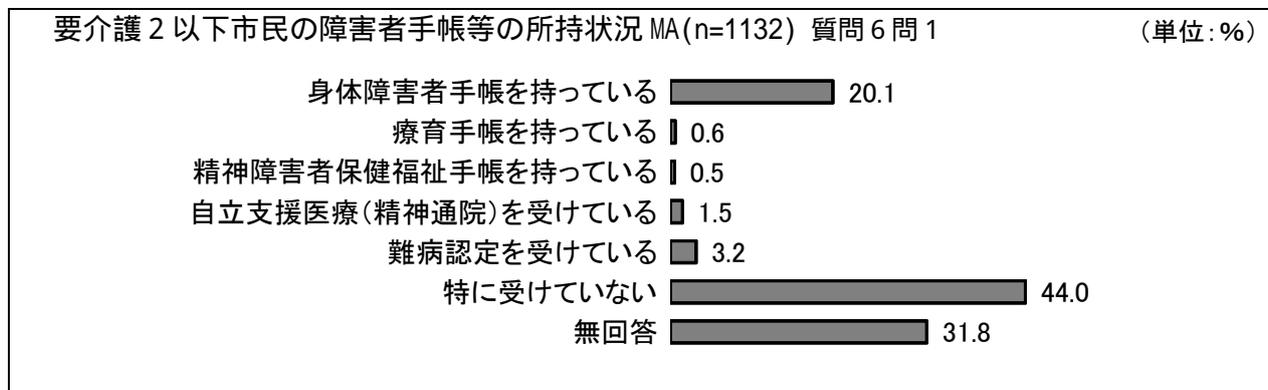
『65歳以上及び要介護2以下市民』の介護・介助が必要な人に、介護・介助が必要になった原因を尋ねたところ「高齢による衰弱」に次いで「骨折・転倒」「脳卒中」「心臓病」「認知症」が多く挙げられました。

『要介護3以上市民』では「脳卒中」「認知症」が「骨折・転倒」や「高齢による衰弱」をしのいで高く、脳卒中と認知症が重い介護を必要とする大きな要因になっていることが示されています。



『65歳以上及び要介護2以下市民』の介護・介助が必要な人に障害者手帳等の所持状況を尋ねたところ、2割が身体障害者手帳を所持していると答え、特に介護認定者でその割合が高くなっています。

低率ながら難病や精神障がいによる支援を受けている人などもみられます。

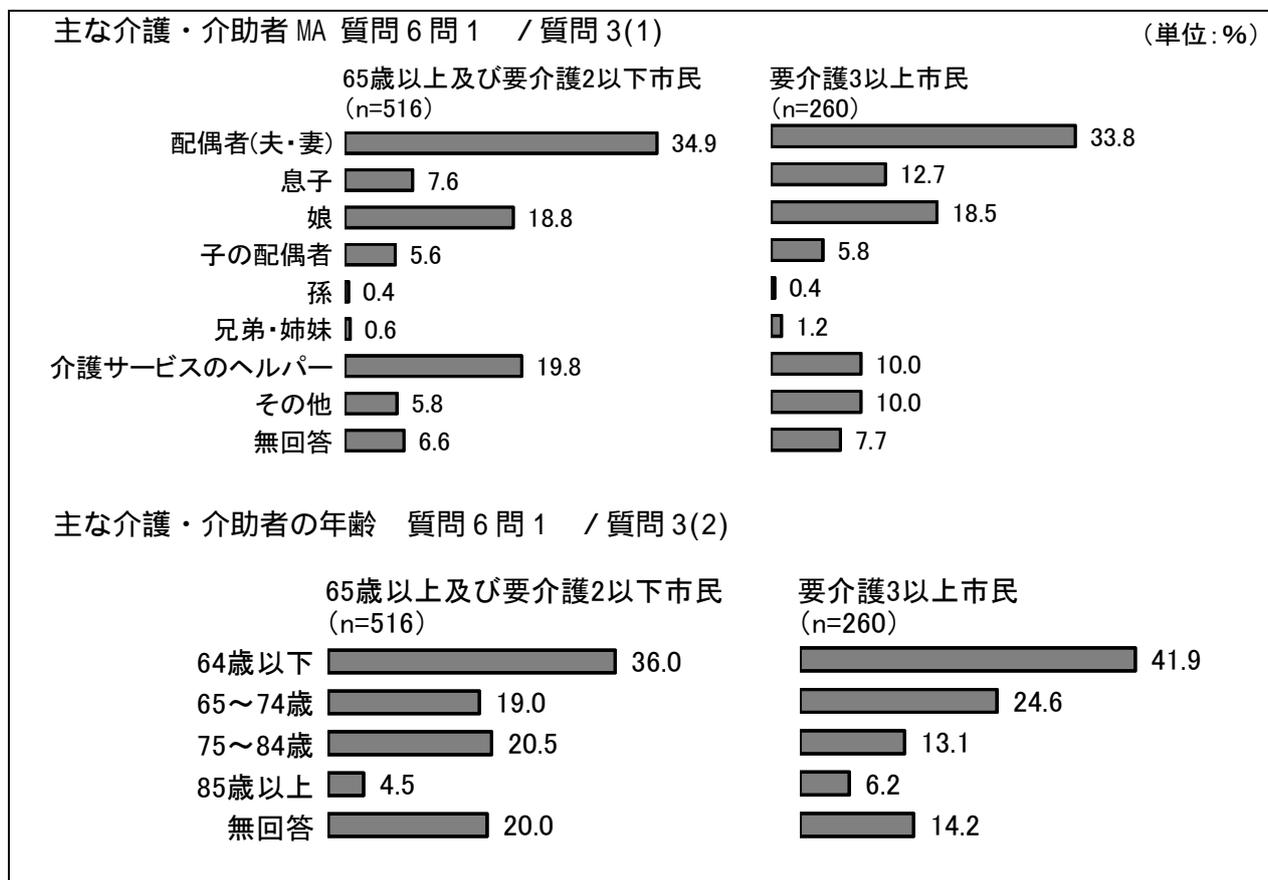


【内訳】要介護2以下市民の障害者等の所持状況(年齢・介護の必要度別)

上段:件 下段:%		全体	身体障害者 手帳を持っ ている	療育手帳を 持っている	精神障害者 保健福祉手 帳を持っ ている	自立支援医 療(精神通 院)を受け ている	難病認定を 受けている	特に受けて いない
合計		1132 100.0	228 20.1	7 0.6	6 0.5	17 1.5	36 3.2	498 44.0
年齢	64歳以下	17 100.0	10 58.8	0 0.0	0 0.0	1 5.9	5 29.4	1 5.9
	65～74歳	301 100.0	74 24.6	2 0.7	2 0.7	7 2.3	14 4.7	102 33.9
	75～84歳	495 100.0	95 19.2	4 0.8	4 0.8	7 1.4	15 3.0	214 43.2
	85歳以上	281 100.0	43 15.3	1 0.4	0 0.0	2 0.7	2 0.7	163 58.0
要介護状 況	元気高齢者	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	介護・介助が必要 (認定なし)	574 100.0	84 14.6	4 0.7	2 0.3	7 1.2	12 2.1	247 43.0
	認定調査・審査中	17 100.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	9 52.9
	要支援1・2	243 100.0	67 27.6	3 1.2	2 0.8	6 2.5	14 5.8	87 35.8
	要介護1・2	261 100.0	66 25.3	0 0.0	2 0.8	3 1.1	7 2.7	141 54.0

介護・介助が必要な人に主な介護・介助者を尋ねたところ「配偶者」が最も多く、『65歳以上及び要介護2以下市民』ではその次に「介護サービスのヘルパー」、『要介護3以上市民』では「娘」が挙げられ、「子の配偶者」や他の親族は低率にとどまっています。

主な介護・介助者の年齢は、65歳以上が64歳以下を上回っており、主な介護・介助者の2割から2割台半ば程度が75歳以上の後期高齢者となっています。



【自由記述より】

夫は90歳代半ば。80歳代後半の私が夫をみている。食事の支度は娘がしてくれる。夫は老人ホームに行く気はない。

95歳になり妻の世話になっている。妻も89歳。思うところがある。

二世帯マンションで私たち夫婦、実母、3人とも介護保険のお世話になり感謝している。特に90歳を過ぎた母は、食事、ヘルパー、訪問リハビリを利用。各自の身体でがんばっている。

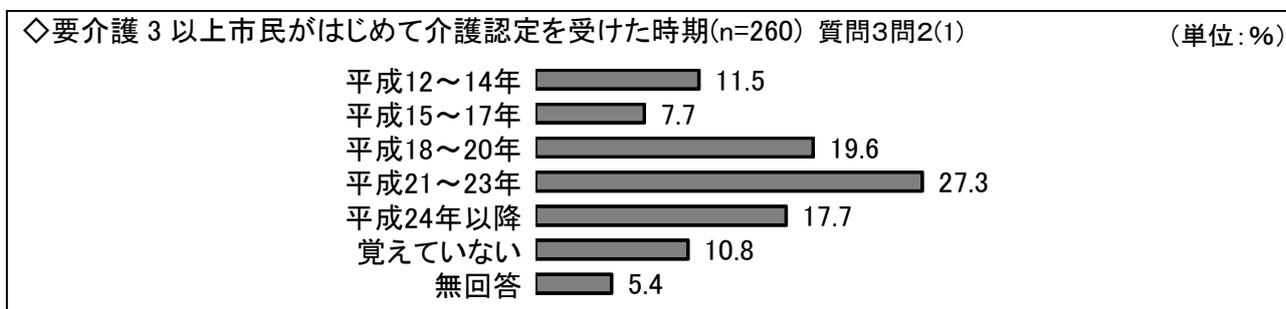
【事業者調査より】

高齢者夫婦または単独世帯が増加、認知症もあり支援方法に戸惑う状況が少なくない。別居家族との連携もうまくいかないこともあり、支援の方向が定めにくい。

家族の中でキーパーソンになる人がいない、またはできない人がキーパーソンになってきているケースが多くなっている。介護者として登録している家族が高齢または要介護状態となり、介護者としての責任を果たせなくなるなどのケースがある。



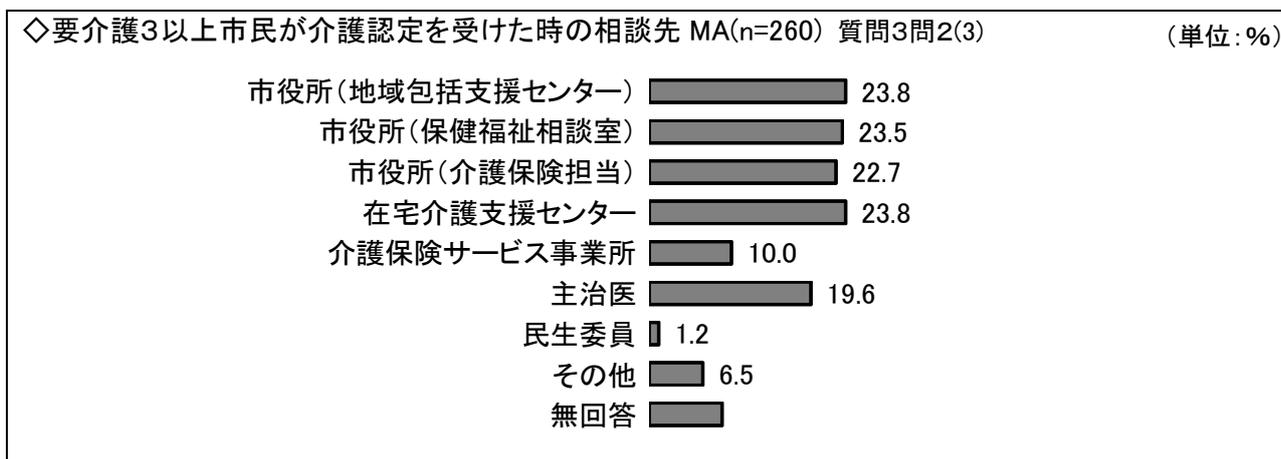
『要介護3以上市民』にはじめて介護認定を受けた時期を尋ねたところ、平成18年以降大きく増え、平成21～23年（第4期）が最も多くなっています。平成24年以降（平成25年まで）の認定者も同様のペースで増えています。



【内訳】要介護3以上市民がはじめて介護認定を受けた時期(年齢・介護度別)

上段:件 下段:%		全体	平成12～ 14年	平成15～ 17年	平成18～ 20年	平成21～ 23年	平成24年 以降	覚えて いない	無回答
合計		260 100.0	30 11.5	20 7.7	51 19.6	71 27.3	46 17.7	28 10.8	14 5.4
年齢	64歳以下	10 100.0	2 20.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0
	65～74歳	46 100.0	4 8.7	2 4.3	10 21.7	13 28.3	12 26.1	2 4.3	3 6.5
	75～84歳	84 100.0	9 10.7	5 6.0	17 20.2	26 31.0	18 21.4	6 7.1	3 3.6
	85歳以上	113 100.0	14 12.4	11 9.7	20 17.7	30 26.5	14 12.4	17 15.0	7 6.2
介護度	要介護3	105 100.0	10 9.5	7 6.7	22 21.0	31 29.5	21 20.0	13 12.4	1 1.0
	要介護4	76 100.0	12 15.8	6 7.9	15 19.7	20 26.3	13 17.1	7 9.2	3 3.9
	要介護5	69 100.0	8 11.6	7 10.1	14 20.3	19 27.5	12 17.4	8 11.6	1 1.4

『要介護3以上市民』にはじめて介護認定を受けた時の相談先を尋ねたところ「地域包括支援センター」「在宅介護支援センター」「保健福祉相談室」がほぼ同様の数で挙げられ、これに「主治医」が続いています。「介護保険サービス事業所」を挙げた人は1割、「民生委員」はさらに少なく、制度利用に関しては市への相談が主なルートとなっています。市の窓口では介護保険関係部署への相談が多くなっていますが、64歳以下では「保健福祉相談室」、85歳以上では「在宅介護支援センター」がそれぞれ1位となっています。

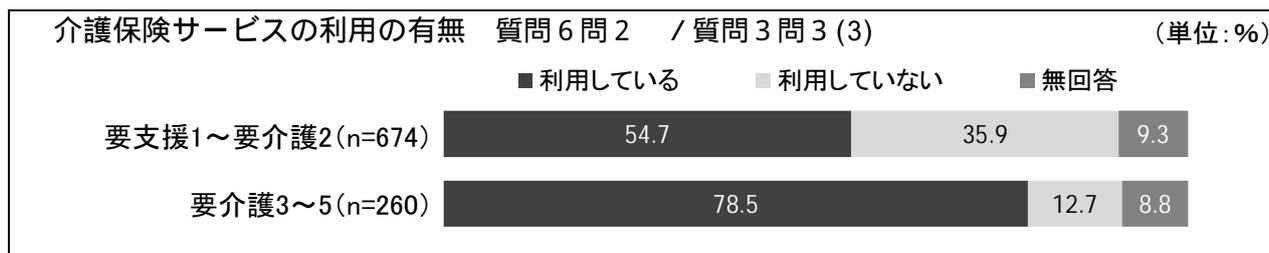


【内訳】要介護3以上市民がはじめて介護認定を受けた時の相談先(年齢・介護度別)

上段:件 下段:%	全体	市役所 (地域包括支 援センター)	市役所 (保健福祉 相談室)	市役所 (介護保険 担当)	在宅介護支 援センター	介護保険 サービス 事業所	主治医	民生委員	その他	無回答	
合計	260 100.0	62 23.8	61 23.5	59 22.7	62 23.8	26 10.0	51 19.6	3 1.2	17 6.5	23 8.8	
年齢	64歳以下	10 100.0	2 20.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0
	65～74歳	46 100.0	11 23.9	12 26.1	16 34.8	6 13.0	7 15.2	2 4.3	3 6.5	4 8.7	
	75～84歳	84 100.0	25 29.8	22 26.2	18 21.4	21 25.0	6 7.1	20 23.8	1 1.2	2 2.4	9 10.7
	85歳以上	113 100.0	21 18.6	22 19.5	23 20.4	35 31.0	12 10.6	19 16.8	0 0.0	9 8.0	9 8.0
介護度	要介護3	105 100.0	30 28.6	24 22.9	22 21.0	23 21.9	4 3.8	22 21.0	0 0.0	8 7.6	6 5.7
	要介護4	76 100.0	16 21.1	19 25.0	17 22.4	20 26.3	10 13.2	20 26.3	3 3.9	5 6.6	3 3.9
	要介護5	69 100.0	16 23.2	18 26.1	20 29.0	19 27.5	12 17.4	9 13.0	0 0.0	4 5.8	4 5.8

介護認定者に介護保険サービスの利用の有無を尋ねたところ「利用している」と答えたのは要介護3以上で8割弱、要介護1・2で約7割、要支援1・2では約5割となっており、介護認定を受けてもサービスは利用していないという人も少なくない状況が示されました。

サービスの利用率の高さは、介護度や年齢の高さと比例しているほか、居住地区による差異の大きさも注目されます。例えば、サービス利用率が最も低い第二小学校区は在来の住民が多く高齢化が進んでいる地域、利用率が最も高い七次台小学校区は新住民が多く年齢構成が若い地域であり、地域特性が異なるとサービス利用の傾向も異なることがわかります。



【内訳】介護保険サービスの利用の有無(年齢・介護度・暮らし方別)

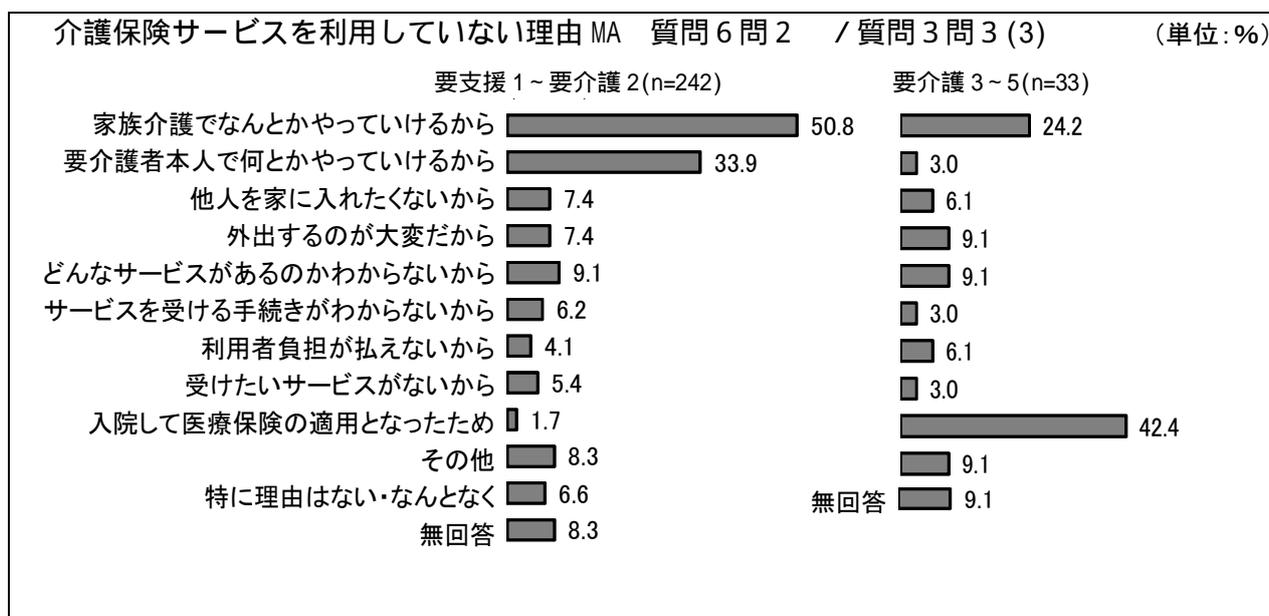
(単位:%)

		計	利用している	利用していない	無回答	■ 利用している	■ 利用していない	■ 無回答
認定者計		674	54.7	35.9	9.3	54.7	35.9	9.3
性別	男性	230	50.9	37.8	11.3	50.9	37.8	11.3
	女性	425	57.9	34.1	8.0	57.9	34.1	8.0
年齢	64歳以下	16	75.0	18.8	6.3	75.0	18.8	6.3
	65~69歳	47	46.8	31.9	21.3	46.8	31.9	21.3
	70~74歳	80	45.0	40.0	15.0	45.0	40.0	15.0
	75~79歳	137	51.8	39.4	8.8	51.8	39.4	8.8
	80~84歳	156	55.8	35.9	8.3	55.8	35.9	8.3
	85歳以上	227	61.2	33.0	5.7	61.2	33.0	5.7
居住地	第一小学校区	43	51.2	37.2	11.6	51.2	37.2	11.6
	第二小学校区	50	30.0	56.0	14.0	30.0	56.0	14.0
	第三小学校区	93	55.9	32.3	11.8	55.9	32.3	11.8
	大山口小学校区	79	72.2	24.1	3.8	72.2	24.1	3.8
	清水口小学校区	84	50.0	38.1	11.9	50.0	38.1	11.9
	南山小学校区	99	53.5	38.4	8.1	53.5	38.4	8.1
	七次台小学校区	38	76.3	23.7	0.0	76.3	23.7	0.0
	池の上小学校区	93	60.2	31.2	8.6	60.2	31.2	8.6
	桜台小学校区	48	50.0	39.6	10.4	50.0	39.6	10.4
	介護度	要支援1・2	316	50.6	41.8	7.6	50.6	41.8
	要介護1・2	278	71.9	25.5	2.5	71.9	25.5	2.5
	要介護3~5	260	78.5	12.7	8.8	78.5	12.7	8.8

【事業者調査より】

市民の中には当然の権利として介護保険サービスを積極的に利用する人、保険料が上がらないよう利用しないでがんばる人、家族に迷惑をかけたくないから介護保険サービスを利用する人など様々であるが、必要なサービスを必要な時に利用できるようにするべき。利用者が納得できるような説明と、柔軟な利用システムが必要と感じる。

介護認定を受けていてもサービスを利用していない人にその理由を尋ねたところ、家族介護または本人の自助で「なんとかやっけていけるから」という項目に回答が集中しているほか、要介護3以上では「入院して医療保険の適用となったため」が最も多くなっています。「どんなサービスがあるかわからない」「外出するのが大変」「他人を家に入れたくない」のほか多様な理由があげられており、要介護2以下で「手続きがわからない」「受けたいサービスがない」、要介護3以上では「利用者負担が払えない」が高くなっていることが注目されます。



#### 【自由記述より】

難聴なので人と関わることを避けたい。だからデイサービス等は行きたいとは思わない。他人が家に入るのも不安があり、好ましくない。  
 病気、加齢を受け入れられない自分に戸惑っている。隠すのではなく、もう少し家や地域でオープンになり、きちんとサービスを利用できたらと思う。民生委員等のパイプ役にも期待する。  
 家族がいても介護保険を利用して生活支援のサービスを受けられるとよい。  
 子どもたちに頼らず、自分たちで暮らせるよう地域のサービスに期待する。

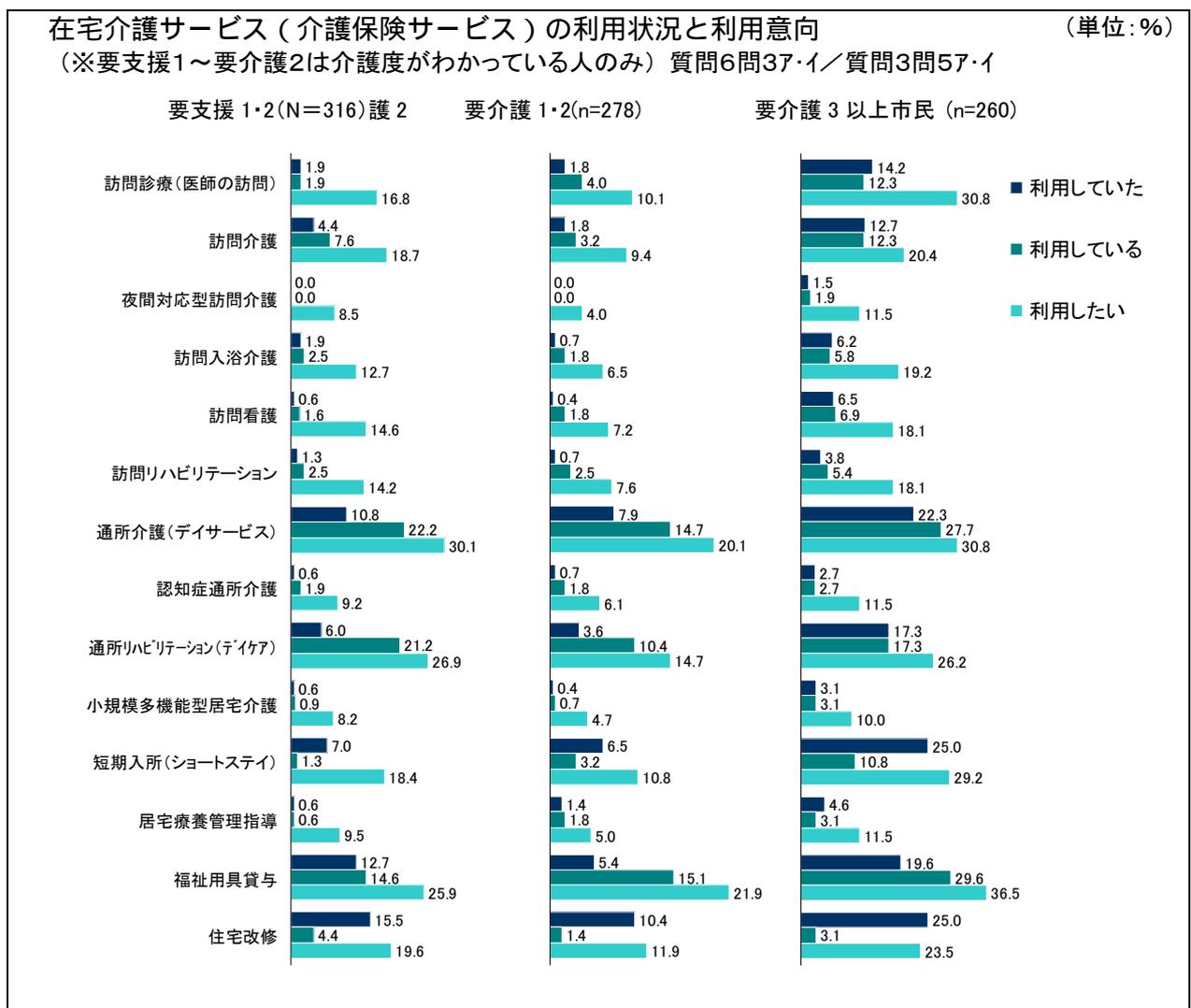
#### 【事業者調査より】

障がいがあっても介護が必要な方でも、一人頑張っている方が多く見受けられる。家族と同居でも日中独居や地域との交流の少ない方、入浴や食事のままならない方も多く、本人・家族のため、支えていけるとよい。  
 利用者や家族が、家の中の様子や認知機能の低下を他人に知られたくないという意識は強い。周りに迷惑をかけたくないなど、介護保険や社会資源の活用につながらないこともある。  
 自身・家族が積極的にサービスを求める家族もあれば、市負担で週2日までサービスを利用できることを知らない家庭もある。  
 介護保険サービスを利用していることを知られたくないという意識がある。利用者は徐々に増え、これから使うであろう方が集中しているようにみられる。戸建て地域などでは、事業者に対して身構える傾向もある。近隣との交流も少なく、情報が伝わりにくい。  
 近くに住んでいても、事業所の存在を知らない人がいる。介護保険のことを少しでも市民に伝えてほしい。自治会単位等の小規模の集いで介護従事者から話をする必要を感じる。参加者から家族に話し、ご近所に話したという話も聞く。

#### (4) 在宅介護サービスの利用状況と利用意向

『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』に各種介護保険サービスの利用状況と利用意向を尋ねたところ、現在利用しているサービスとしては「通所介護（デイサービス）」「通所リハビリテーション（デイケア）」「福祉用具貸与」、これまで利用したことがあるサービスとしては「住宅改修」が多く挙げられ、要介護3以上では「短期入所（ショートステイ）」も多くなっています。

今後利用したいと考えている人は、ほとんどのサービスで現状の利用を上回る規模で見られます。要介護3以上の人では「福祉用具貸与」に次いで「訪問診療」と「通所介護」、「短期入所」などへのニーズが高く見られます。要支援1～要介護2の人では「通所介護」「福祉用具貸与」「通所リハビリテーション」へのニーズが高くなっています。また、要支援1・2でも訪問系の各種サービスやショートステイを利用したいと考えている人が少なくありません。



#### 【自由記述及び事業者調査より】～訪問系サービスについて～

最期まで自宅で暮らせれば幸せ。在宅医療、訪問介護を充実してほしい。(自由記述より)  
 訪問介護は、単なる家事援助技術ではなく、その人に寄り添う自立支援。介護度の軽い人ほど多くを巻き込んだ支援が必要であり、介護予防はヘルパーの専門性が問われる。コミュニケーションが大事。拒否されても入り続けることで絆が生まれ、成果が生まれてくる。(事業者調査より)  
 訪問入浴は重度の方だけでなく介護予防にも有効。本人・介助者の入浴の不安や負担をなくし、看護師の体調チェックとスタッフとのゆったりしたひと時。温まって足腰が改善したケースもある。(事業者調査より)

【内訳】介護保険サービスの利用状況と利用意向(※65歳以上及び要介護2以下も回答者全員)

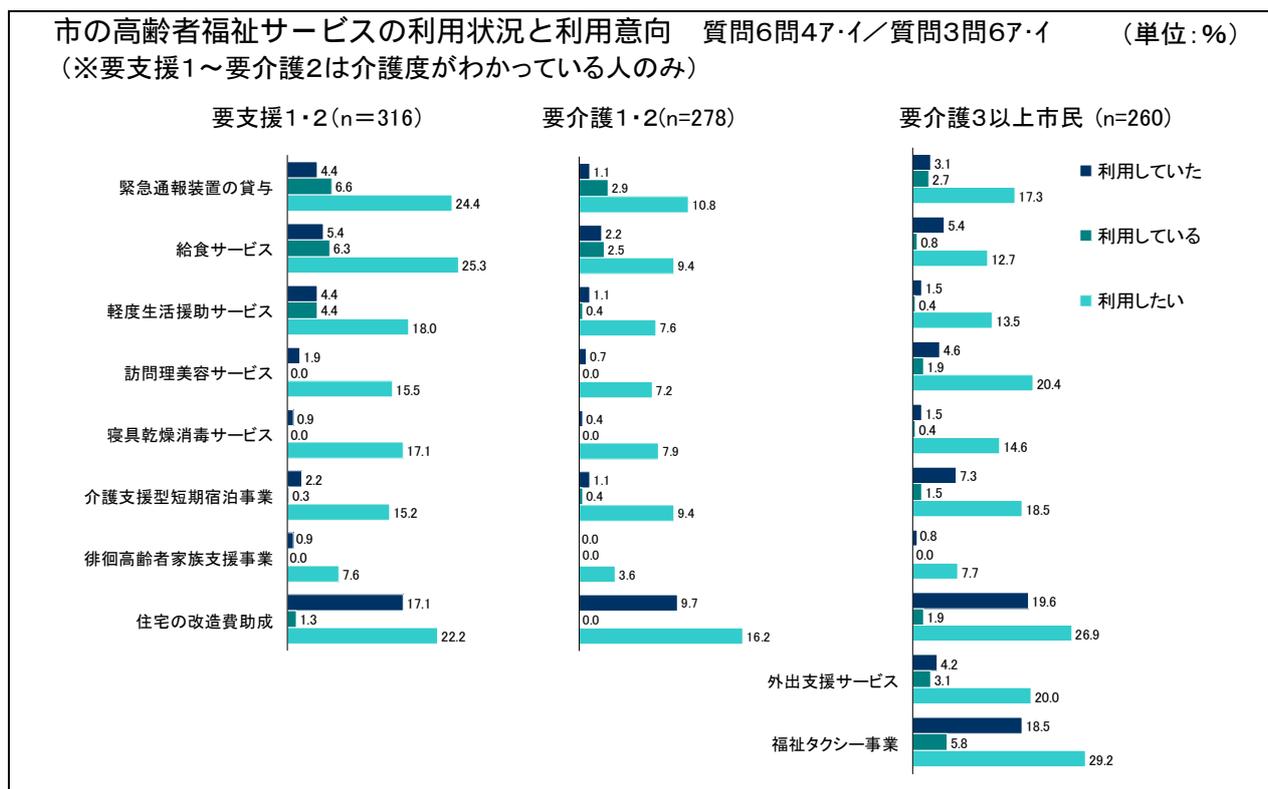
	上段:件 下段:%	全体	ア.利用状況				イ.利用意向				
			利用したことがある	現在(よく)利用している	利用したことはない	無回答	利用したい	利用したいと思わない	わからない	無回答	
65歳以上市民及び要介護2以下市民	訪問診療(医師の訪問)	8912 100.0	36 0.4	29 0.3	6377 71.6	2470 27.7	1098 12.3	915 10.3	4085 45.8	2814 31.6	
	訪問介護	8912 100.0	40 0.4	45 0.5	6299 70.7	2528 28.4	1064 11.9	888 10.0	4048 45.4	2912 32.7	
	夜間対応型訪問介護	8912 100.0	9 0.1	1 0.0	6328 71.0	2574 28.9	833 9.3	914 10.3	4192 47.0	2973 33.4	
	訪問入浴介護	8912 100.0	16 0.2	13 0.1	6314 70.8	2569 28.8	874 9.8	993 11.1	4082 45.8	2963 33.2	
	訪問看護	8912 100.0	13 0.1	13 0.1	6311 70.8	2575 28.9	999 11.2	912 10.2	4049 45.4	2952 33.1	
	訪問リハビリテーション	8912 100.0	16 0.2	17 0.2	6301 70.7	2578 28.9	886 9.9	931 10.4	4115 46.2	2980 33.4	
	通所介護(デイサービス)	8912 100.0	80 0.9	126 1.4	6173 69.3	2533 28.4	1077 12.1	913 10.2	3994 44.8	2928 32.9	
	認知症通所介護	8912 100.0	12 0.1	13 0.1	6298 70.7	2589 29.1	761 8.5	959 10.8	4188 47.0	3004 33.7	
	通所リハビリテーション(デイケア)	8912 100.0	44 0.5	110 1.2	6214 69.7	2544 28.5	994 11.2	926 10.4	4046 45.4	2946 33.1	
	小規模多機能型居宅介護	8912 100.0	10 0.1	7 0.1	6300 70.7	2595 29.1	678 7.6	954 10.7	4248 47.7	3032 34.0	
	短期入所(ショートステイ)	8912 100.0	50 0.6	16 0.2	6262 70.3	2584 29.0	905 10.2	947 10.6	4104 46.1	2956 33.2	
	居宅療養管理指導	8912 100.0	13 0.1	10 0.1	6289 70.6	2600 29.2	789 8.9	918 10.3	4197 47.1	3008 33.8	
	福祉用具貸与	8912 100.0	84 0.9	104 1.2	6173 69.3	2551 28.6	1140 12.8	866 9.7	3986 44.7	2920 32.8	
	住宅改修	8912 100.0	138 1.5	23 0.3	6137 68.9	2614 29.3	1022 11.5	867 9.7	4011 45.0	3012 33.8	
	要介護3以上市民	訪問診療(医師の訪問)	260 100.0	37 14.2	32 12.3	120 46.2	71 27.3	80 30.8	14 5.4	60 23.1	106 40.8
		訪問介護	260 100.0	33 12.7	32 12.3	122 46.9	73 28.1	53 20.4	16 6.2	78 30.0	113 43.5
		夜間対応型訪問介護	260 100.0	4 1.5	5 1.9	166 63.8	85 32.7	30 11.5	18 6.9	96 36.9	116 44.6
		訪問入浴介護	260 100.0	16 6.2	15 5.8	154 59.2	75 28.8	50 19.2	23 8.8	75 28.8	112 43.1
訪問看護		260 100.0	17 6.5	18 6.9	145 55.8	80 30.8	47 18.1	14 5.4	84 32.3	115 44.2	
訪問リハビリテーション		260 100.0	10 3.8	14 5.4	154 59.2	82 31.5	47 18.1	18 6.9	82 31.5	113 43.5	
通所介護(デイサービス)		260 100.0	58 22.3	72 27.7	65 25.0	65 25.0	80 30.8	17 6.5	51 19.6	112 43.1	
認知症通所介護		260 100.0	7 2.7	7 2.7	160 61.5	86 33.1	30 11.5	26 10.0	85 32.7	119 45.8	
通所リハビリテーション(デイケア)		260 100.0	45 17.3	45 17.3	99 38.1	71 27.3	68 26.2	18 6.9	63 24.2	111 42.7	
小規模多機能型居宅介護		260 100.0	8 3.1	8 3.1	156 60.0	88 33.8	26 10.0	27 10.4	86 33.1	121 46.5	
短期入所(ショートステイ)		260 100.0	65 25.0	28 10.8	95 36.5	72 27.7	76 29.2	19 7.3	47 18.1	118 45.4	
居宅療養管理指導		260 100.0	12 4.6	8 3.1	153 58.8	87 33.5	30 11.5	16 6.2	98 37.7	116 44.6	
福祉用具貸与		260 100.0	51 19.6	77 29.6	67 25.8	65 25.0	95 36.5	10 3.8	44 16.9	111 42.7	
住宅改修		260 100.0	65 25.0	8 3.1	109 41.9	78 30.0	61 23.5	9 3.5	75 28.8	115 44.2	

【事業者調査より】～通所系サービス、地域密着型サービス等について～

独居高齢者がデイサービスに通所し、生活に張りができ、持病がよくなった、生きがいがあったと喜ばれている。栄養バランス、人と接する安心も介護度を悪化させない要素と実感している。老健のデイケアは利用が増えない。市民には「まだ大丈夫だから通わない」と考える傾向もある。早期からのリハビリは効果がある。回復する姿はスタッフのやりがいにもつながる。グループホーム。地域の方から野菜や花をいただいたり、顔なじみになっている。入所者は高齢化・重度化が進み、入院していく人も少くない。7種類の介護サービスを提供しているが、利用者ニーズは「リハビリ」と「認知症ケア」に分かれる傾向がある。利用者も事業運営も目的が大事と感じる。

『65歳以上及び要介護2以下市民』と『要介護3以上市民』に、介護保険サービス以外の高齢者福祉サービスの利用状況と利用意向を尋ねたところ、「住宅の改造費助成」を利用したことのある人が多いほか、要介護3以上の人では「福祉タクシー事業」、要支援認定者を中心に「緊急通報装置の貸与」「給食サービス」「軽度生活援助サービス」の利用経験者が多くなっています。

今後利用したいと考えている人は、ほとんどのサービスで現状の利用を大きく上回っており、特に「住宅の改造費助成」が介護度の別なく高くみられるほか、要介護3以上では「福祉タクシー事業」が最も高くなっていること、要支援者が「給食サービス」や「緊急通報装置の貸与」「軽度生活援助サービス」のみならず「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒サービス」「介護支援型短期宿泊事業」などへのニーズを示していることが注目されます。



【自由記述より】

緊急通報装置の貸与は知らなかった。市の広報などでPRすべき。特に一人暮らしには必要。週に一度でも給食サービスがあるとありがたい。

現在、圧迫骨折のため動けず買い物等が不便。子どもにも負担がかかる。動けない間だけでも簡単な家事をしてもらえたら助かる。

介護保険を使っていない80歳以上世帯には、希望すれば月1～2回1時間無料で家事援助をしてくれる制度があると介護保険の利用を減らすことができるのではないかと。

取りに来てくれるごみ個別収集、買い物御用聞きシステムがあると一人暮らし高齢者は助かる。

時々通院している。その時に付き添って介護して下さる人がほしい。

母をショートステイに預けられず震災で嫁や孫を亡くしても帰省できなかった。

住宅改修や介護用品は実費精算、オムツも必要分にすれば経費節減になるのではないかと。

紙パンツとパットの支給は助かっているが、リストでは選択しにくい。サンプルがあると助かる。

介護基準に関わらず望むサービスが利用できるとよい。料金は高くてもよい。

子どもがなく葬式をだしてくれる人がいない。市で生前に契約を結ぶような制度があるとよい。

【内訳】市の高齢者福祉サービスの利用状況と利用意向

	上段:件 下段:%	全体	ア.利用状況				イ.利用意向			
			利用したことがある	現在(よく)利用している	利用したことはない	無回答	利用したい	利用したいと思わない	わからない	無回答
65歳以上市民及び要介護2以下市民	緊急通報装置の貸与	8912	70	87	6423	2332	1535	747	3935	2695
		100.0	0.8	1.0	72.1	26.2	17.2	8.4	44.2	30.2
	給食サービス	8912	50	36	6425	2401	1330	859	3979	2744
		100.0	0.6	0.4	72.1	26.9	14.9	9.6	44.6	30.8
	軽度生活援助サービス	8912	25	24	6439	2424	1114	860	4117	2821
		100.0	0.3	0.3	72.3	27.2	12.5	9.6	46.2	31.7
	訪問理美容サービス	8912	16	6	6459	2431	1035	923	4115	2839
		100.0	0.2	0.1	72.5	27.3	11.6	10.4	46.2	31.9
	寝具乾燥消毒サービス	8912	7	2	6466	2437	1161	881	4060	2810
		100.0	0.1	0.0	72.6	27.3	13.0	9.9	45.6	31.5
介護支援型短期宿泊事業	8912	17	6	6448	2441	963	907	4194	2848	
	100.0	0.2	0.1	72.4	27.4	10.8	10.2	47.1	32.0	
徘徊高齢者家族支援事業	8912	6	2	6448	2456	877	893	4258	2884	
	100.0	0.1	0.0	72.4	27.6	9.8	10.0	47.8	32.4	
住宅の改造費助成	8912	146	8	6256	2502	1336	794	3928	2854	
	100.0	1.6	0.1	70.2	28.1	15.0	8.9	44.1	32.0	
要介護3以上市民	緊急通報装置の貸与	260	8	7	170	75	45	12	92	111
		100.0	3.1	2.7	65.4	28.8	17.3	4.6	35.4	42.7
	給食サービス	260	14	2	165	79	33	19	98	110
		100.0	5.4	0.8	63.5	30.4	12.7	7.3	37.7	42.3
	軽度生活援助サービス	260	4	1	172	83	35	15	94	116
		100.0	1.5	0.4	66.2	31.9	13.5	5.8	36.2	44.6
	訪問理美容サービス	260	12	5	167	76	53	20	79	108
		100.0	4.6	1.9	64.2	29.2	20.4	7.7	30.4	41.5
	寝具乾燥消毒サービス	260	4	1	177	78	38	17	89	116
		100.0	1.5	0.4	68.1	30.0	14.6	6.5	34.2	44.6
	介護支援型短期宿泊事業	260	19	4	157	80	48	16	85	111
		100.0	7.3	1.5	60.4	30.8	18.5	6.2	32.7	42.7
	徘徊高齢者家族支援事業	260	2	0	175	83	20	20	104	116
		100.0	0.8	0.0	67.3	31.9	7.7	7.7	40.0	44.6
	外出支援サービス	260	11	8	158	83	52	15	79	114
		100.0	4.2	3.1	60.8	31.9	20.0	5.8	30.4	43.8
	福祉タクシー事業	260	48	15	129	68	76	10	65	109
		100.0	18.5	5.8	49.6	26.2	29.2	3.8	25.0	41.9
	紙おむつ等の給付	260	39	72	88	61	114	3	46	97
	100.0	15.0	27.7	33.8	23.5	43.8	1.2	17.7	37.3	
住宅の改造費助成	260	51	5	119	85	70	7	73	110	
	100.0	19.6	1.9	45.8	32.7	26.9	2.7	28.1	42.3	

【事業者調査より】

軽度生活援助は、独居の病人など制度の枠に入らない人の利用もある。窓ふきなど適用外の依頼も多い。150円/時間と介護保険と比べて著しく低く、見直しも必要。

軽度生活援助は身体介護を行わず「共に行く」活動をしていないが、介護予防の観点からは一緒に行えるようになるとよい。買い物サービスも、同行援護が望ましいのではないかと。

給食サービスは、退院時に緊急で利用でき回復したら見直すなど柔軟な仕組みが必要と感じる。

最近介護タクシー等を行う事業所も増えている。外出支援サービスは介護保険制度を利用できない人を対象に見直し、利用者認定も定期的に行ったほうがよい。一方で視覚障がい者等の余暇需要があるが対応できる事業者が市内に不足している。余暇活動にも利用できるようになるとよい。

外出支援で、介護者に車椅子が押せない場合ヘルパー利用をお願いするが「運転手がやってくれればよい」と理解が得られない。経済的余裕がなくタクシーの代わりに利用できないか、末期ガンで車椅子対応の人の利用ができないかとの問い合わせがあるが、現行制度では対応できない。

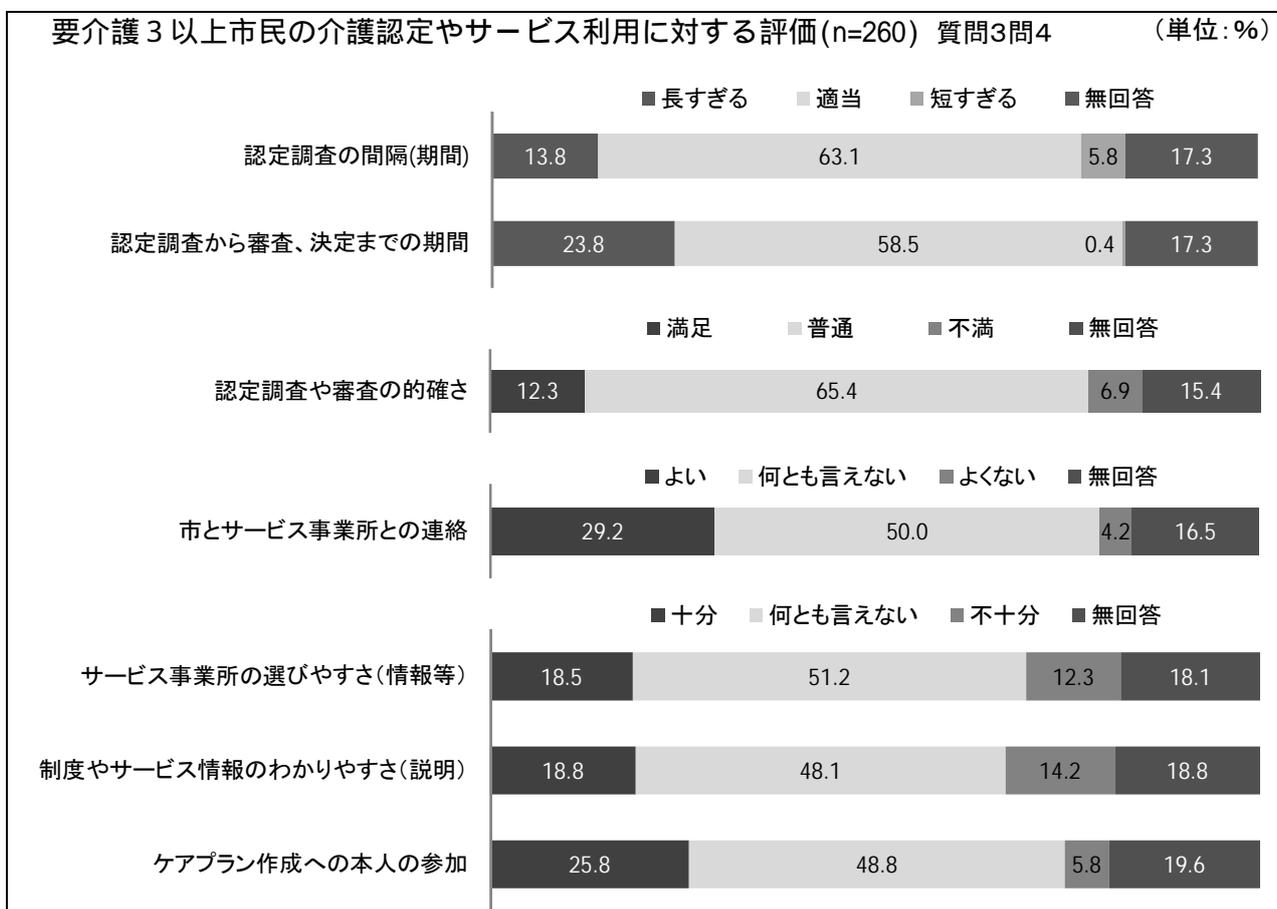
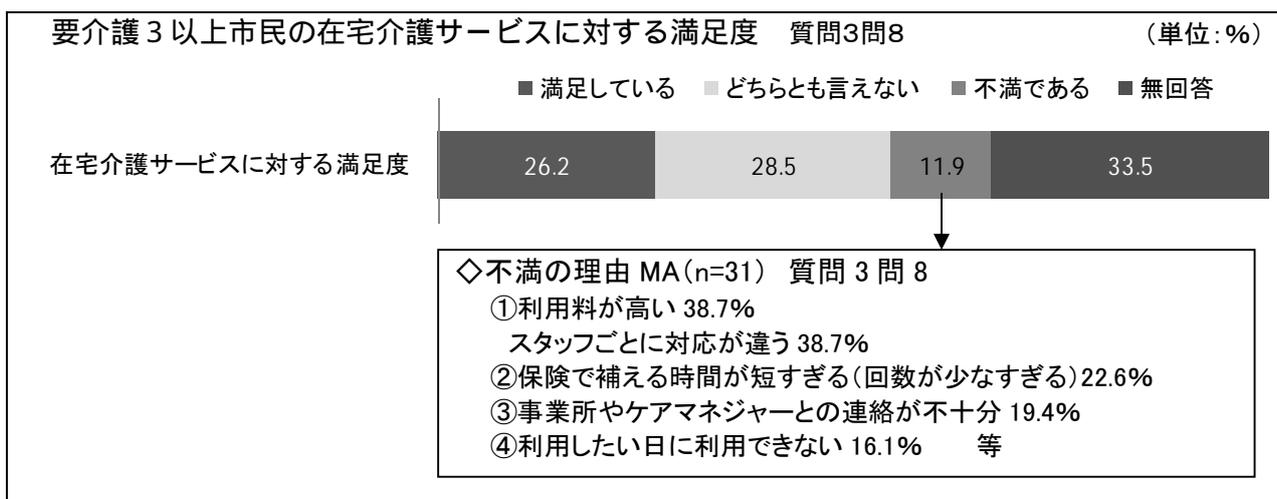
ケアマネジャーが市の高齢者福祉サービスを知らないことがある。連携が必要と思う。

認知症の方が混乱している時は、落ち着くまで規定時間を超えて寄り添うことがある。利用料はいただけないためヘルパーへの報酬は事業所が負担している(介護保険外の対応はできないか)。

元気高齢者と介護保険サービス利用者のハザマにある人びとへの対応が課題。地域の出番。無料の助け合いは気兼ねもある。有償活動、ボランティアポイントなどの検討が必要と感じる。介護支援ボランティアも活動範囲を広げられないかと。

『要介護3以上市民』に在宅介護サービスに対する満足度を尋ねたところ、3割弱が「どちらとも言えない」、3割弱が「満足」、約1割が「不満」と答えました。不満の理由としては「利用料が高い」「スタッフごとに対応が違う」に次いで「保険で補える時間(回数)」や「事業所やケアマネとの連絡」の不足感などが挙げられています。

認定調査・審査やサービス利用に対する評価については全体的に「何とも言えない」との回答が多くなっています。その中でも「市とサービス事業所との連絡」や「ケアプラン作成への本人の参加」などはまずまずの評価にあります。一方、「認定調査から審査、決定までの期間が長すぎる」ことや「制度やサービス情報のわかりやすさ」「サービス情報の選びやすさ」に不十分さを感じている人も少なくなく、市民が制度やサービスを十分納得した上で利用していけるようさらなる工夫が求められています。



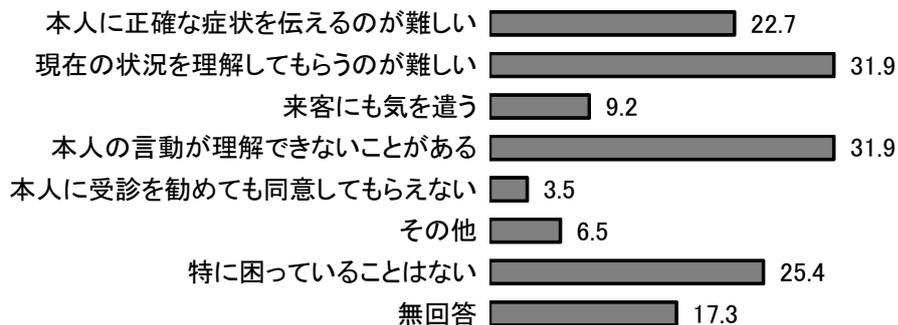
## (5) 介護者の困り事

『要介護3以上市民』の主たる介護者に在宅介護での困り事や負担について尋ねたところ、本人との意思疎通では「現在の状況を理解してもらるのが難しい」「本人の言動が理解できないことがある」、介護の仕方では「日中、家を空けるのを不安に感じる」といったことをはじめ、様々な困り事が挙げられました。サービス利用についてはサービスの不十分感が若干みられるものの、「特に困っていることはない」との回答が多い状況にあります。介護者自身の困り事として、精神的なストレスや身体的なつらさ、時間的、精神的、経済的なゆとりのなさなどが多く挙げられています。

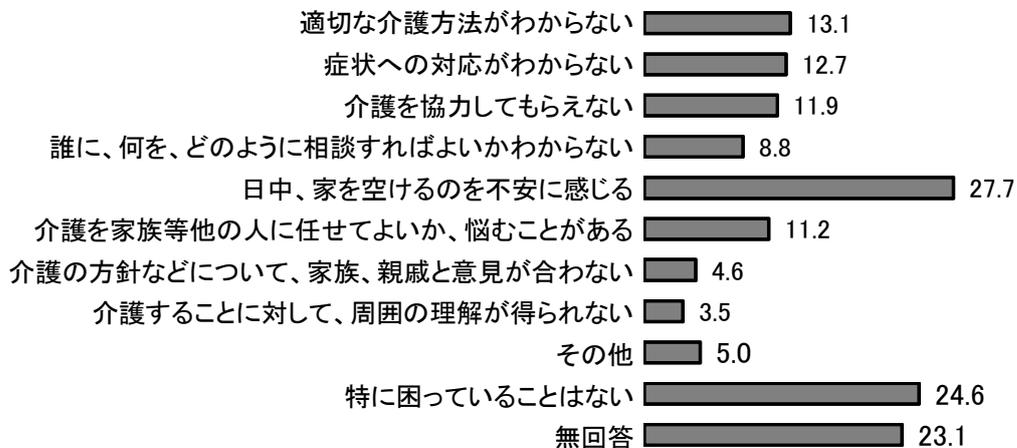
◇要介護3以上市民の主たる介護者の困り事(n=260)

(単位:%)

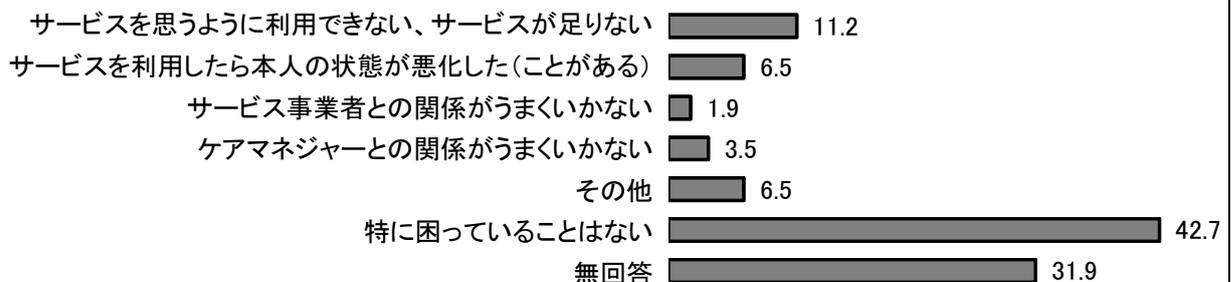
### <本人との意思疎通での困り事>MA 質問4問1



### <介護の仕方での困り事>MA 質問4問2



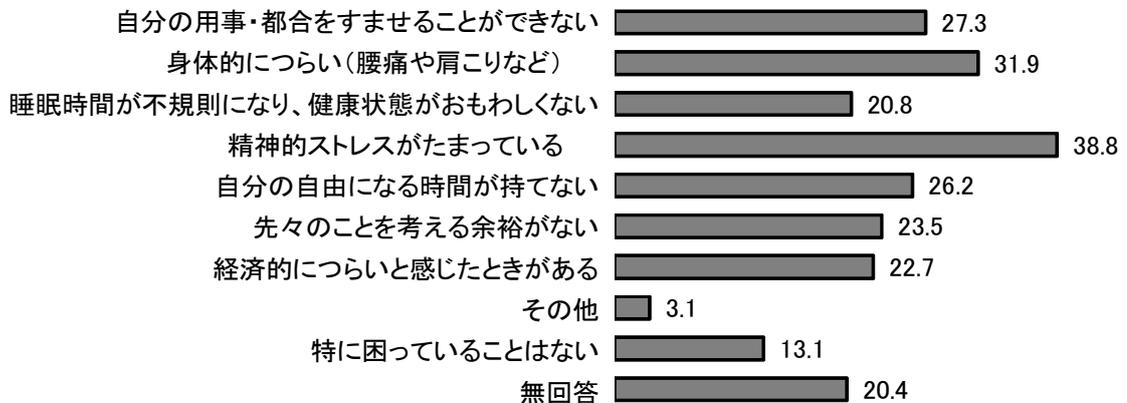
### <サービス利用での困り事>MA 質問4問3



(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

<介護者自身の困り事>MA 質問4問4



【自由記述より】

<認定手続きやサービスの評価について>

急を要する人にとって介護認定の決定に時間がかかりすぎる。

介護認定の時、調査員が、本人がいる前で下の話をしたので本人が傷つかないか心配した。

介護認定について認定基準を明確にする。個人にバラつきがあってはいけない。

脳梗塞の後遺症で半身不随になり不自由な生活をしている。努力と精神力で一日がかりで何とか家事をこなしているが、そのため要支援認定となった。電動カートを借りるのに認定の都度申請が必要なのも問題。以前の身体に戻るわけではない。申請なしで長く借りられるようにしてほしい。

スタッフによって対応が異なる。人材育成に力を入れてほしい。

<介護者の負担解消に向けて>

介護者が介護を学ぶ場があるとよい。私は駆け込みでヘルパー2級を取得できたが、現在の制度では身内の介護のために学ぶ機会がない。病院で半身不随の夫に妻が車椅子を持ってきたが、車椅子のストッパーを止めなかったため夫は座るのに失敗して転んでしまった。車椅子の使い方も分からず介護するのは危険だし、負担だと思った。

介護の経験がなく様子がわからない。いざという時にはどうすればいいのか、どのような生活になるのか、今から理解できる場やチャンスがあれば参加してみたい。

自宅介護をしている方がたくさんいると思う。どんなに介護サービスを受けていても精神的・体力的負担は消えない。特に老々介護をしている方々である。

外で何かしようとしても要介護の家族が病弱で外出できない。

70歳代後半。今は元気で要介護1の夫を助けており、自分のことはわからない。私が倒れたらと不安。ケアマネジャーに相談していきたい。

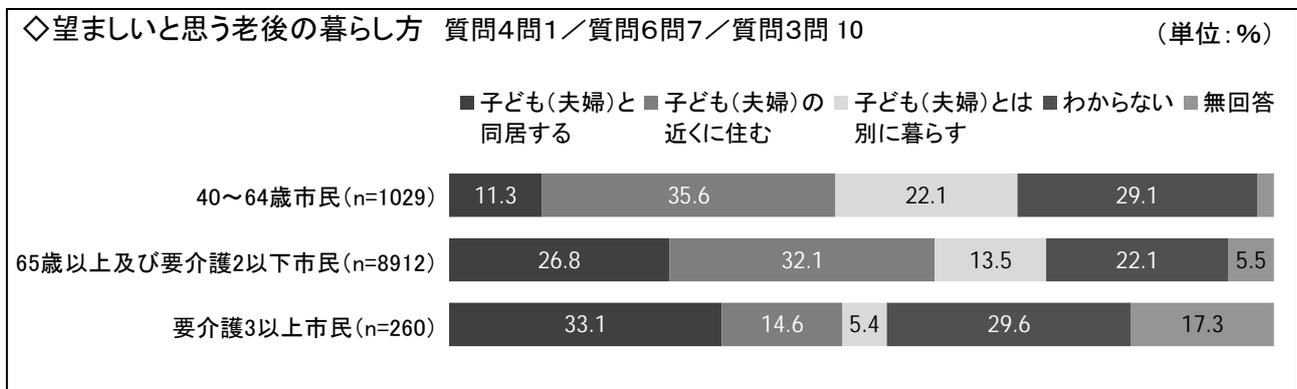
80歳代。配偶者が転倒して40日入院し、今まで一人でできていた自分のことが全然できなくなり、今は目も離せない。食事、着替えも出来ずトイレも一人でいけない。

## 6 今後の暮らし方について

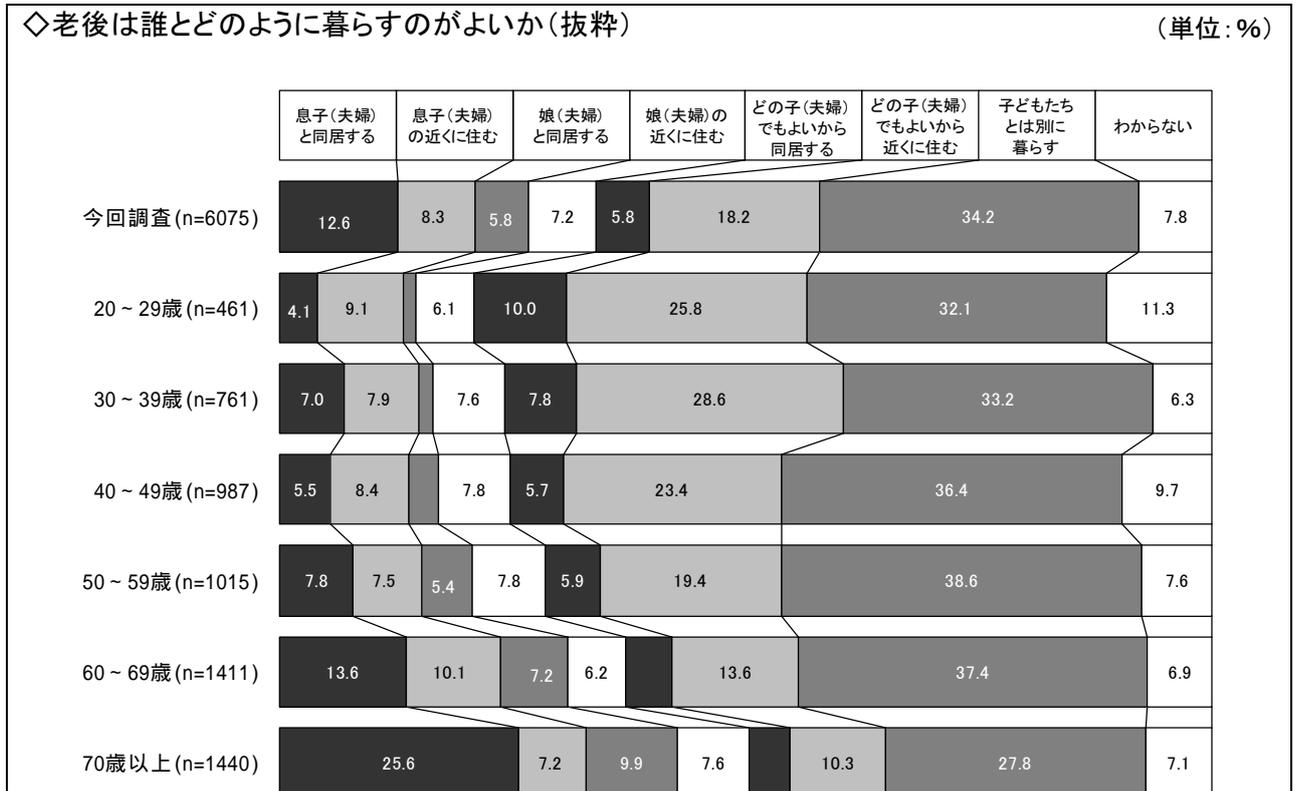
### (1) 今後の暮らし方

「一般的に、老後は誰とどのように暮らすのがよいと思うか」の考え方は、年齢や介護の必要度によって異なります。

『40～64歳市民』と『65歳以上及び要介護2以下市民』では「子ども(夫婦)の近くに住む」という近居派が多く、『要介護3以上市民』では「子ども(夫婦)と同居する」という同居派が多くなっています。『40～64歳市民』では「子ども(夫婦)とは別に暮らす」という別居派も2割以上みられますが、『要介護3以上市民』では数パーセントにとどまっています。全国的な傾向をみても、年齢や介護度が高いほど同居派が多くなっています。「わからない」との回答も各調査で2～3割みられます。



### 【参考】平成25年6月世論調査結果より



注)世論調査は調査員による聞き取り式で実施しており無回答は「わからない」に含んでいる。

【内訳】40～64歳市民・65歳以上及び要介護2以下市民が望ましいと思う老後の暮らし方

		上段:件 下段:%	全体	子ども(夫婦)と 同居する	子ども(夫婦)の 近くに住む	子ども(夫婦)と は別に暮らす	わからない	無回答
40 5 6 4 歳市民	合計		1029 100.0	116 11.3	366 35.6	227 22.1	299 29.1	21 2.0
	性別	男性	430 100.0	67 15.6	118 27.4	104 24.2	134 31.2	7 1.6
		女性	577 100.0	46 8.0	238 41.2	122 21.1	160 27.7	11 1.9
	年齢	40～49歳	387 100.0	35 9.0	138 35.7	69 17.8	140 36.2	5 1.3
		50～59歳	332 100.0	41 12.3	116 34.9	83 25.0	89 26.8	3 0.9
		60～64歳	284 100.0	37 13.0	102 35.9	70 24.6	65 22.9	10 3.5
	65歳以上及び 要介護2以下市民	合計		8912 100.0	2385 26.8	2864 32.1	1202 13.5	1969 22.1
性別		男性	4248 100.0	1099 25.9	1274 30.0	660 15.5	1027 24.2	188 4.4
		女性	4512 100.0	1230 27.3	1570 34.8	528 11.7	916 20.3	268 5.9
年齢		64歳以下	26 100.0	8 30.8	11 42.3	1 3.8	6 23.1	0 0.0
		65～74歳	5674 100.0	1247 22.0	1958 34.5	892 15.7	1359 24.0	218 3.8
		75～84歳	2482 100.0	805 32.4	729 29.4	271 10.9	496 20.0	181 7.3
		85歳以上	580 100.0	279 48.1	137 23.6	27 4.7	73 12.6	64 11.0
要介護 状況		元気高齢者	7122 100.0	1802 25.3	2382 33.4	1064 14.9	1602 22.5	272 3.8
		介護・介助が必要(認定 なし)	574 100.0	204 35.5	152 26.5	43 7.5	134 23.3	41 7.1
		認定調査・審査中	22 100.0	8 36.4	6 27.3	1 4.5	4 18.2	3 13.6
		要支援1・2	316 100.0	90 28.5	96 30.4	23 7.3	70 22.2	37 11.7
		要介護1・2	278 100.0	106 38.1	85 30.6	16 5.8	53 19.1	18 6.5
居住 地区		第一小学校区	763 100.0	333 43.6	168 22.0	57 7.5	156 20.4	49 6.4
		第二小学校区	568 100.0	289 50.9	112 19.7	26 4.6	94 16.5	47 8.3
		第三小学校区	1193 100.0	361 30.3	381 31.9	130 10.9	260 21.8	61 5.1
		大山口小学校区	1198 100.0	295 24.6	405 33.8	197 16.4	250 20.9	51 4.3
		清水口小学校区	1261 100.0	227 18.0	462 36.6	213 16.9	314 24.9	45 3.6
		南山小学校区	1273 100.0	240 18.9	481 37.8	203 15.9	287 22.5	62 4.9
		七次台小学校区	592 100.0	126 21.3	229 38.7	81 13.7	126 21.3	30 5.1
		池の上小学校区	1147 100.0	235 20.5	383 33.4	187 16.3	280 24.4	62 5.4
	桜台小学校区	635 100.0	206 32.4	186 29.3	82 12.9	129 20.3	32 5.0	

【自由記述より】

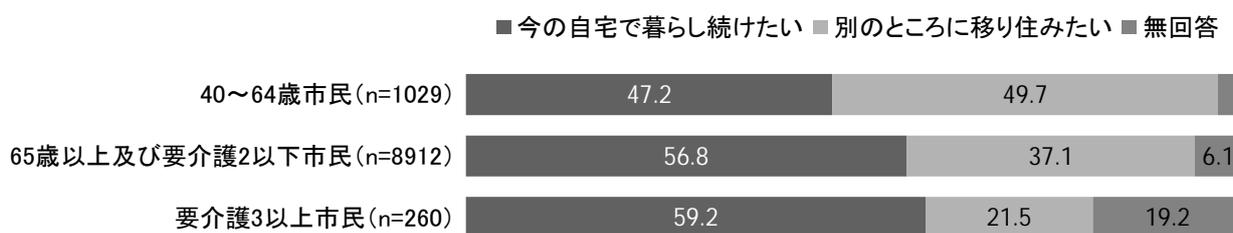
65歳。年金とパート収入で一人暮らしをしている。子どもたちには事情があり同居は無理。今の住宅より安い部屋を借りて住みたい。  
同居の家族が介護してくれると思うが負担をかけたくない気持ちが強い。スムーズに入居できる施設が約束されていれば心強く生活できる。  
高齢者が安心して暮らせる低料金の住まい、国民年金でも生活できる住まいがあるとよい。  
できるだけ元気でがんばりたいが、いざという時は施設に入所したい。  
特養ホームの充実を。

「手厚い介護が必要になったら暮らしたいところ」は、『40～64歳市民』では「別のところに移り住みたい」が「今の自宅で暮らし続けたい」をわずかに上回っていますが、65歳以上の市民では「今の自宅で暮らし続けたい」とする人が5割台半ばとなっています。

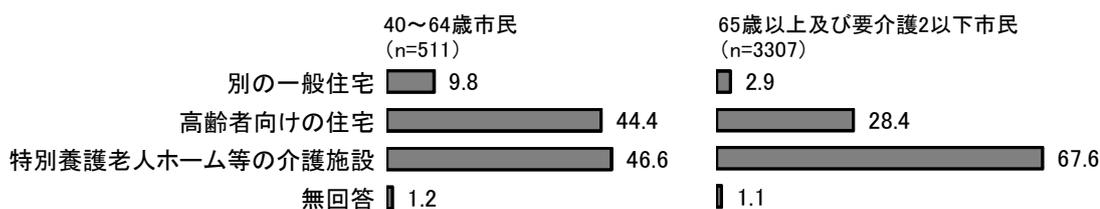
移り住みたい住まいとしては「特別養護老人ホーム等の介護施設」を挙げる人が圧倒的に多く、特に『要介護3以上市民』では、そのうちの7割近くが特別養護老人ホームへの申し込みをしているか、申し込みを検討している段階にあります。

『40～64歳市民』は移り住みたい先として「介護施設」とともに「高齢者向けの住宅」を挙げており、条件がよければ市内・市外を問わないとの考え方が多くなっています。

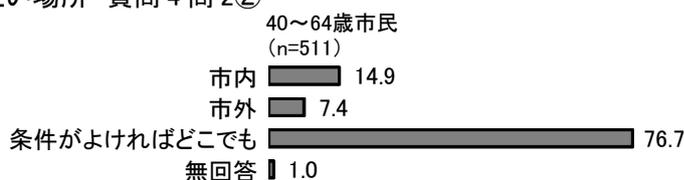
◇手厚い介護が必要になったら暮らしたいところ 質問4問2/質問6問/質問3問11 (単位:%)



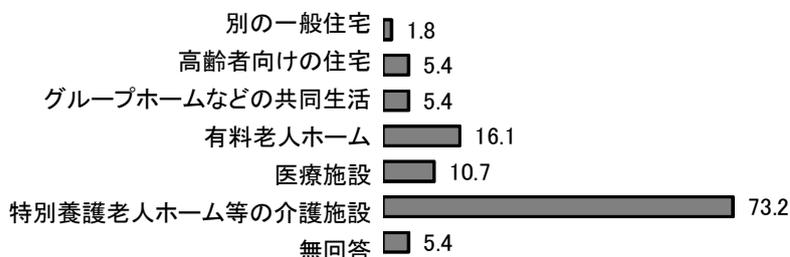
◇移り住みたい住まい 質問4問2①/質問6問8①



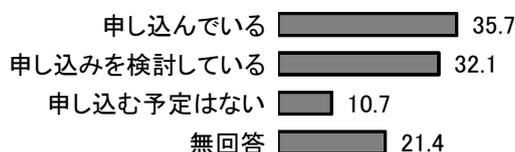
◇移り住みたい場所 質問4問2②



◇要介護3以上市民が移り住みたい住まい (n=51) 質問3問11①



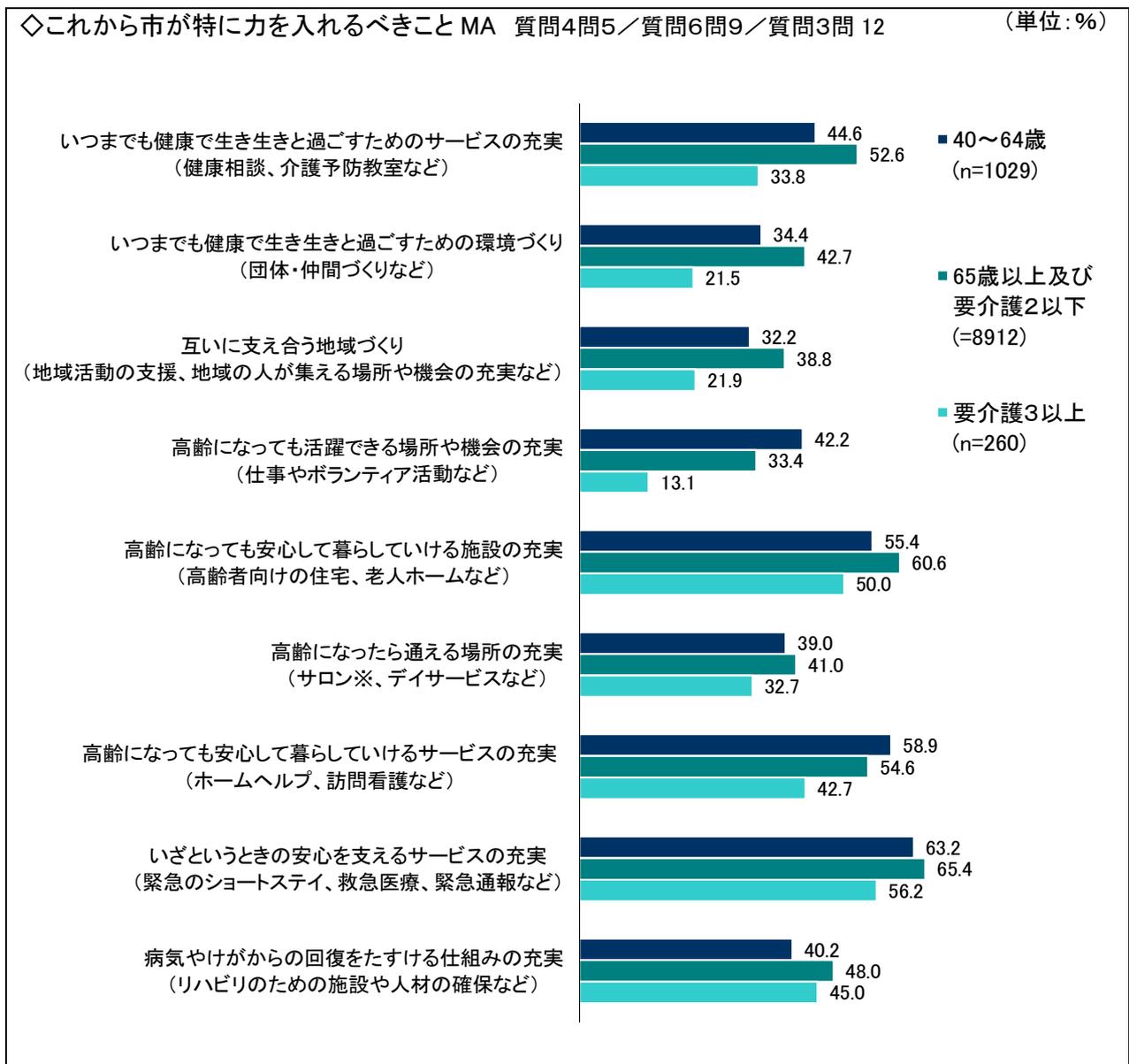
◇特別養護老人ホームへの申し込み状況 (n=51) 質問3問11②



## (2) 市が力を入れるべきこと

「高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して、生きがいを感じながら暮らしていくために、これから白井市が力を入れるべきこと」としては、『65歳以上及び要介護2以下市民』を中心に多様に挙げられ、「いざというときの安心を支えるサービス（緊急対応）」「安心して暮らしていける施設（住まい）」「安心して暮らしていけるサービス（訪問系サービス）」「いつまでも健康で生き生きと過ごすためのサービス（介護予防等）」は半数以上が選んでいます。

『40～64歳市民』は「活躍できる場所や機会（社会参加）」も重視されており、『要介護3以上市民』は“緊急対応”“住まい”に次いで「病気やけがからの回復をたすける取組（リハビリ）」を挙げています。





## 【自由記述より】

### <高齢者施策の方向として>

自分らしく自立した高齢者でいたい。そのためには健康に注意して楽しく歳を重ねることが大切。いざという時にサポートしてくれる受け皿があれば安心して過ごすことができる。今は健康維持に努めているが、経済的な不安もあり今後の状況に応じて必要なことが増えると思われる。いざという時のサービスの充実を優先し、互いに支え合う環境づくりを望んでいます。高齢が急速に進む状況から財政事情も考慮して緊急度を考えて対処すべきと思う。過重なサービスを避け、保険料が上がらないようにしてほしい。介護保険料を支払っている以上、要介護状態になった時にはすべて平等にサービスを受けられるよう希望する。「身寄りがあるから施設に入所できない」といったことがないようにしてほしい。介護や介助の制度の世話にならないよう健康維持に努力している者を見守る制度がない。高齢化＝介助介護ではない。団塊世代の急速な高齢化に直面しているが、そのパワーをいかに活用するかが問われる。

### <高齢者の自立と的確な支援の基礎としての情報・相談>

高齢者に対するサービスの情報がもっと届くように。市政との直接対話ができるとうよい。各自が市のサービスなどを理解し、利用方法を知っておくことが大切。普及活動に力を入れて。高齢者向けの機関誌の発行を。まずどこに連絡してよいかわからない。その後どうしたらよいか、これから介護が必要になる人にわかりやすく教えてほしい。ワンストップで相談できる部署をつくってほしい。窓口には市職員だけでなく、ボランティアも活用してほしい（秘密保持が不要な内容の時）。年に数回、心配事や悩みを雑談で話せる場所があれば心が軽くなる。高齢者が増える。行政が訪問して高齢者の日常を正しく把握して手助けしてほしい。困ったとき、相談したい時に気楽に電話等で話をして一緒に考えてくださる方がいるとうよい。市に電話するのは気が重い、自分の担当の方がわかっていたら気楽に相談できる。

### <地域の中で>

独居高齢者を孤立させないネットワークづくりが必要。安否の確認や買い物弱者のための宅配サービスなど、地域の人々やコンビニ、スーパー等も取り込んだネットワーク網の構築が有効と思う。介護認定も持たない者が、気軽に立ち寄れるサロンがほしい。運営はボランティアでサークル活動の拠点ではなく、誰でも立ち寄れる場所がほしい。色々な活動サークルに参加したいがどこで何をやっているのか知らない。参加方法がわからない。駅の近くに高齢者が集まってお茶をしたり、雑談のできる場所があるとよい。近くの集会所を誰でもいつでも利用できるよう開放してほしい（地域を区切らず 10～16 時で）。

## 【事業者調査より】

### <地域包括ケアシステムの構築に向けて>

地域包括ケアは非常に有効なシステムと思う。「いつ・どこで・どのような」が見えづらく、課題認識まで到達できていない実感がある。情報収集不足を感じるが、地域住民や関係者の認知度をどうやって上げていくかが課題。事業所と在宅介護支援センターが連携して情報を共有しつつ支援を行っているが、地域住民との連携を育てていく必要がある（協力的な方は固定的）。医師との連携も強めていきたい。制度の稼働には種別問わない事業者間の連携が必須。事業所と地域包括の連携で支援を継続しているケースはあるが、まだ点と点のつながり。顔なじみの関係づくりから始めたらどうか。ちょっとしたことでの生活支援相談や依頼が増えてきている。様々な事業所と数多くの取組実践を共有し連携を図ることで、地域ニーズや課題の解決が進んでいくのではないかと。周辺地域も含めて施設が増え、スタッフ不足が深刻。人材の確保と育成が大きな課題。独居や高齢者世帯の方は、元気なうちはよいが、病弱になると孤立化してしまう。地域での見守りや支え合いが重要。しかし、近所づきあいがあつたり親しい友人がいたとしても、依頼できることとできないことがある。個々に支援のニーズが多様。介護保険サービスを利用すれば元気になれるのに、認定条件に該当しないため、狭間の高齢者は取り残されている。制度に基づくサービスと、市や事業者による独自サービスとの連携が重要。そして地域の出番。地域ぐるみ体制、介護予防の拠点として清水口の複合センターで週2回サロンを開く。住民と施設指定管理者で運営委員会を組織化した。このような拠点を市内に増やしていきたい。